

392

66



始



正改
智山派宗典

392-66

平澤照尊編纂

改正
智山派宗典

智嶺新報社

大正
9. 1. 7
内交

諸法令抜抄

教宗派ノ取締ヲ各管長ニ委任ノ件
管長身分ノ件
管長海外渡航ノ件
管長代理人ニ關スル件

第二號宗務條例

宗務本支所員選舉細則

宗務支所事務細則

同上報告ノ件

宗務支所正副管理改選ノ件

同上評議員改選ノ件

組寺施行細則

組寺届ノ件

本派職員俸給細則

同上慰勞及被服料支給細則

同上旅費支給細則

本派派出旅費規則

臨時宗務整理部規則

實印々鑑届出ノ件

諸法令抜抄

教規宗制中ニ編入スベキ件
教規宗制ヲ制定變更ノ件
宗制等ノ不備ヲ補充スル件
主務省へ請願ノ件
他宗派ニ關係ナ有スル寺院ノ件

第三號宗會條例

大會議事細則

小會常置員選舉細則

第四號宗會議員選舉條例

同施行細則

第五號教育條例

同院へ法資入學ノ件其他數件

同職員任免規定

本派留學生規則

本派中學生監督規則

同學資補給規則

一三頁
一四頁
一四頁
一四頁
一九頁
二六頁
二八頁
三〇頁
三三頁
三五頁
三八頁
四〇頁
四三頁
四四頁
四七頁
四七頁

五〇頁
五〇頁
五〇頁
五〇頁
五一頁
五一頁
五五頁
六六頁
六七頁
六七頁
七四頁
八〇頁
八二頁
八五頁
八六頁
九一頁
九五頁

法資教育獎勵規則

本派教學財團錄事

同寄附行爲

同上巨額及特別寄附額覺書

同寄附金募集特派ノ件

同基本金増額説明書

第六號布教條例

同施行細則

密嚴教會本部事務所ノ件

布教會規則

本派朝鮮布教管理法

諸法令抜抄

教院講社設置出願ノ件
教會所設教所ニ於テ葬儀執行衆庶參拜ヲ許
サレル件
教會所ノ設置移轉廢合ノ件
同各地管外へ移轉合併ノ件
教會所設教所祭典法用ノ件

一〇一頁
一〇一頁
一〇四頁
一一二頁
一一三頁
一一三頁
一一四頁
一一六頁
一二三頁
一二三頁
一二三頁
一二四頁
一二五頁
一二六頁
一二六頁
一二六頁
一二六頁

同上ニ付道廳府縣へ通牒

教務所設教所異宗派所屬替ノ件

同所屬替又へ轉屬不相成件

第七號布教講習所條例

同施行細則

第八號會計條例

本派會計検査施行細則

第九號宗費賦課徵集條例

同施行細則

宗費納金ニ關スル件

書式 宗費免除願

第十號僧侶分限條例

同教師補任施行細則

得度々牒及改名規則

本派交衆規則

本派練行規則

教師詮衡會規則

一二七頁
一二七頁
一二七頁
一二七頁
一二九頁
一三一頁
一三二頁
一三四頁
一三四頁
一四九頁
一四九頁
一五三頁
一五四頁
一五七頁
一六四頁
一六四頁
一六九頁
一七一頁
一七四頁

教師檢定規則	一七五頁
論文審査規則	一八〇頁
諸法令拔抄	
治安警察法	一八三頁
衆議員議員選舉法其他	一八三頁
民事訴訟法	一八四頁
刑事訴訟法	一八四頁
秘密漏洩ニ關スル規定	一八四頁
第十一號法衣條例	一八四頁
同施行細則	一八六頁
第十二號賞罰條例	一八八頁
徵誠審査會規則	一九五頁
智山派恩赦規則	一九七頁
書式	
褒賞具狀	一九九頁
懲誠具狀	二〇〇頁
賞狀下附願	二〇〇頁
諸法令拔抄	二〇〇頁

教師住職ノ罷免并減免等其都度報告ノ件	二〇一頁
同上報告記載事項ノ件	二〇一頁
教師住職ノ犯罪等管長へ照會スベキ件	二〇二頁
同上管長ニ於テ取調ベ處分スベキ件	二〇二頁
懲戒ノ赦免ハ教規宗制ノ明文ニ依ルベキ件	二〇二頁
住職教師等處刑通報ノ件	二〇二頁
第十三號寺院條例	二〇二頁
朝鮮寺院取扱法	二〇七頁
本末規則	二〇八頁
根來山大傳法院寺法	二一〇頁
誕生院寺法	二一二頁
附復興ニ關スル聯達並認可ノ件	二一三頁
參考	
離末本寺替ニ關シ届出及願出ノ件	二二七頁
第十四號住職任免條例	二二七頁
同施行細則	二二八頁
寺檀ノ間ニ紛議ヲ起サ、ル注意	二二八頁
訴訟ニ關スル諭達	二二八頁

書式	
寺務引繼届	二二九頁
他支所へ照會ノ書式	二三〇頁
同回答書	二三〇頁
兼務住職任免申請書	二三〇頁
第十五號法類資格條例	二三一頁
同施行細則	二三三頁
身附法類四等内系圖	二四〇頁
書式	
師僧替届(甲號)	二四二頁
同上(乙號)	二四二頁
轉派承認願	二四三頁
略履歷證明願	二四三頁
轉派入籍願	二四四頁
死亡届(甲號)	二四四頁
同上(乙號)	二四五頁
參考	

智山派僧侶死亡者届出ノ件	二四五頁
師僧死亡後更ニ師僧相定メ届出ノ件	二四五頁
寺院ノ諸願法類キキモノハ連署ヲ要セザル件	二四六頁
第十六號檀徒信徒取扱條例	二四六頁
書式	
檀信徒惣代人改選届(甲號)	二四七頁
同上(乙號)	二四八頁
檀徒信徒拒絕認可願	二四九頁
諸法令拔抄	
檀信徒惣代人規程	二五〇頁
檀信徒取扱概則	二五〇頁
寺院檀徒取扱概則	二五〇頁
總代改選届住職連署ノ件	二五一頁
總代人一般改選ノ件	二五一頁
總代員數制限及其權限ニ關スル件	二五一頁
栃木縣令第卅五號檀信徒惣代人ニ關スル件	二五二頁
同上住職對檀信徒惣代ニ關スル件	二五三頁
民法施行法沿革及判決例	二五五頁
第十七號寺有財産保管條例	二五六頁

同施行細則	二五八頁
寺有財產帳樣式	二六三頁
寺院收入調查規則	二六六頁
同上宗牒第二號	二七四頁
同宗牒第二號	二七七頁
參考	
寺院合併ノ件	二七八頁
書式	
副申願	二七八頁
寺院移轉願	二七九頁
同移轉濟屆	二七九頁
同跡地無料使用願	二八〇頁
同上無料使用地拂下願	二八一頁
寺院境內地區域變更願	二八一頁
佛堂境內地區域變更願	二八一頁
百五十坪未滿寺院跡地拂下願	二八二頁
寺院境內區域變更並境內佛堂明	

細帳へ編入願ノ書式	二八二頁
佛堂廢止願	二八三頁
佛堂合併願	二八四頁
佛堂移轉願	二八四頁
寺院上地官林境內編入願	二八四頁
寺院境內地記念碑建設願	二八五頁
寺有土地買入許可願	二八六頁
寺院買入ノ土地ヲ明細帳へ記入願	二八七頁
地所買入許可屆	二八七頁
寺院所有地賣却願(甲號)	二八八頁
同上(乙號)	二八八頁
地所交換許可願	二八八頁
所有地寄附願	二八九頁
地所寄附願	二八九頁
佛像寄附承認願	二九〇頁
地所受寄附許可願	二九〇頁

地目變換許可願	二九一頁
地所開墾許可願	二九一頁
地所々有名義訂正願	二九二頁
境內地貸渡許可願	二九二頁
堂宇貸與承認願	二九三頁
墓地拂下地目變換願	二九三頁
寺有基本金一時使用許可願	二九四頁
地所賣却代金保管及利子用途法承認願	二九四頁
寺院境內樹木伐採願	二九五頁
境內枯損木伐採願	二九五頁
寺院境外所有地上立竹木伐採願	二九六頁
堂宇新築許可願	二九七頁
堂宇改築許可願	二九八頁
堂宇再建許可願	二九八頁
堂宇取毀許可願	二九九頁
堂宇移轉許可願	二九九頁

堂宇增築許可願	二九九頁
堂宇名義變更許可願	三〇〇頁
堂宇改築模樣替許可願	三〇〇頁
堂宇修繕許可願	三〇〇頁
寺院合併願	三〇一頁
寺院創立願	三〇一頁
寺院本堂庫裏改築願	三〇一頁
同上修繕願	三〇二頁
佛堂明細帳訂正願	三〇二頁
明細帳訂正願	三〇二頁
明細帳脫漏記入願	三〇三頁
明細帳誤謬訂正願	三〇三頁
脫漏寺院明細帳編入願	三〇三頁
建物新築許可及落成屆	三〇四頁
寺院創立移轉合併ニ關スル書式	三〇四頁
新寺創立寺號公稱許可願	三〇七頁
諸法令披抄	

社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件 三一〇頁

社寺合併跡地無償讓與ノ件 三一〇頁

社寺境内ハ猥ニ伐木不相成件 三一〇頁

同上有稅地ニ限リ伐木可開届ノ件 三一〇頁

官有地境内ノ異動及伐木出願及管長添書ヲ要スル件 三一〇頁

葬寺境内伐木取扱規則 三一〇頁

寺院境内又ハ所有地處分ノ件 三一〇頁

境内地本堂庫裏ハ抵當不相成件 三一〇頁

葬寺境内使用竹木伐採處分 三一〇頁

民有境内官有境内ニ準ズル件 三一〇頁

同上訓令ニ付取締方 三一〇頁

境内立木管理規則 三一〇頁

佛堂境内地使用取扱規則 三一〇頁

國稅徵收法拔抄 三一〇頁

民事訴訟法拔抄 三一〇頁

佛器什物等ノ登錄備置ノ件 三一〇頁

寺院寄附帳什物帳ヲ綴ルベキ件 三一〇頁

古來所傳ノ什物祠堂金等自儘ニ處分不相成件 三一〇頁

持添ノ田畑山林寄附金并古文書類共自儘ニ處分 相成件 三一六頁

寄附ノ物件別段契約ナキ分ハ讓渡ト見做ス件 三一六頁

寺用借財ノ節連署ノ件 三一六頁

社寺ノ負債抵當總代ノ連署ヲ要スル件 三一六頁

寶物古文書等ハ抵當不相成件 三一六頁

山林處分ハ認可ヲ受クベキ件 三一七頁

栃木縣令第卅八號神社寺院財務規程 三一七頁

同第四十三號寺院佛堂境内管理ノ件 三一七頁

第十八號菩提院結衆集議選任條例 三二〇頁

宗機關選任規則 三二二頁

第十九號教育會條例 三二二頁

教育會議員選舉施行細則 三二四頁

教育會議事細則 三二五頁

三、補遺

(書式並諸法令)

三二九頁

寄附金募集願 三二九頁

同上募集延期願 三三〇頁

佛像開扉許可願 三三一頁

佛像他管出開帳ノ件 三三一頁

同上出開帳許可願 三三一頁

傳法灌頂大曼供等管長臨鑑ノ件 三三二頁

本派托鉢免許方法及取締規約並托鉢免許方並托鉢者心得等 三三二頁

主務官廳移管ノ件 三三五頁

憲法、民法、民法施行法、拔抄宗教宣布又ハ儀式執行ヲ目的トスル法人設立規定 三三六頁

墓地及埋葬取締規則 三三七頁

同上施行細目標準 三三七頁

刑死者ノ墓標及祭祀等ニ關スル件 三三九頁

禮拜所及墳墓ニ關スル刑法ノ規

定 三三九頁

檀家ノ外埋葬セザル習慣ノ寺院境内墓地ハ他宗派ノ埋葬ヲ拒絕シ得ルノ件 三四〇頁

禁厭祈禱ヲ以テ醫藥ヲ妨グル者取締ノ件 三四〇頁

禁厭祈禱ハ醫師診斷施療中ニ限ル件 三四〇頁

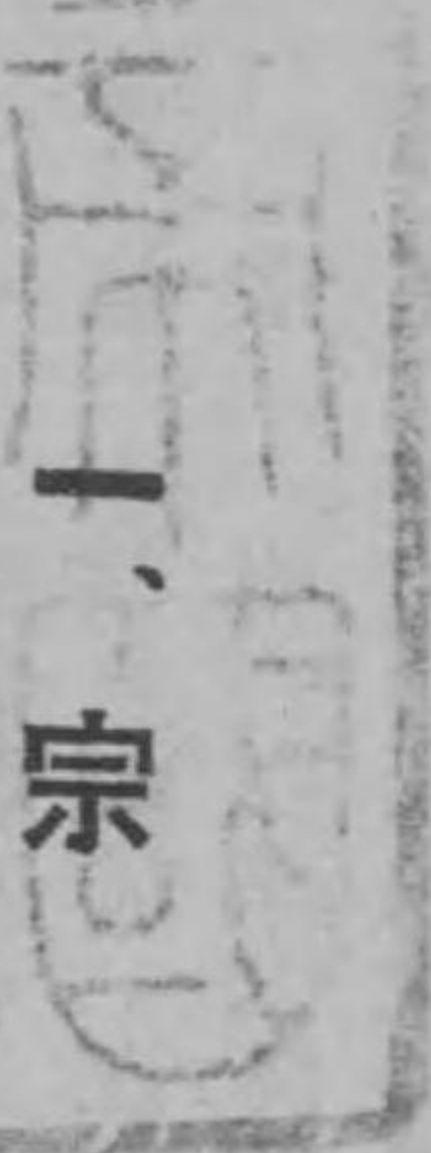
佛教聯合會規則 三四一頁

以上

附錄 寺院明細表

改正 智山派宗典

平澤照尊編



一、宗

憲(明治卅八年十月廿八日內務大臣認可
同 年十一月廿二日甲第一號達)

◎新義真言宗智山派原由

派祖興教大師 鳥羽上皇ノ叡信ニ依リ高野山ニ大小傳法院ヲ創建シ後
根來山ニ移リ立教ノ基礎ヲ確立ス、其徒賴瑜聖憲ニ師大ニ加持身教主
ノ義ヲ闡揚シ盛ニ法幢ヲ樹ツ、天正ノ末一山兵燹ニ罹リ衆徒離散ス、
時ノ學頭智積院立宥京都智山ニ移リ新義真言宗總本山ノ公稱ヲ得テ根
嶺ノ學徒ヲ統理シ廣ク教義ヲ宣布ス、是レ本派ノ原由ナリ。

編者附記

本派ハ明治三十三年八月十日獨立シテ一宗ヲ組織シ
新義真言宗智山派ト稱ス

宗 憲

第一編 宗 制

第一章 總 則

- 第一條 本派ハ加持身教主ノ義ヲ闡揚シ事教ニ相ヲ兼修シ以テ即身成佛ノ直路ヲ開示ス
- 第二條 本派ハ左ノ經論ヲ以テ所依トス
 - 一 大日經
 - 一 金剛頂經
 - 一 釋摩訶衍論
 - 一 菩提心論
 - 一 十住心論及十卷章
 - 一 密嚴諸秘釋及遺教錄
 - 一 其他經軌及論藏
- 第三條 本派ノ祖師ハ左ノ如シ
 - 宗 祖 弘法大師空海
 - 派 祖 興教大師覺鑿
 - 中興開祖 玄宥僧正
- 第四條 本派僧侶ノ行位ハ左ノ如シ

- 一 得度
- 一 新加
- 一 加行
- 一 交衆
- 一 授戒
- 一 灌頂
- 一 初法談
- 一 兩大會

第二章 管 長

- 第五條 管長ハ別ニ定ムル宗規ニ依リ之ヲ選定シ政府ノ認可ヲ得テ就職ス
- 第六條 管長ハ本宗憲ノ條規ニ依リ一派ヲ統理ス
- 第七條 管長ハ本派ノ宗義ニ關スル正否ヲ裁定ス
- 第八條 管長ハ宗會大會ヲ召集シ其開會閉會停會及解散ヲ命ス
- 第九條 管長ハ宗會大會ノ協賛ヲ經テ宗規ヲ定メ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス
- 第十條 管長ハ宗會大會閉會ノ場合ニ於テ緊急ノ事件ニ限リ小會ノ協賛ヲ經政府ノ認可ヲ得テ宗規ニ代ルヘキ條規ヲ發スルコトヲ得

但シ此條規ハ次期ノ宗會大會ニ提出スヘシ若シ宗會大會ニ於テ承諾セサルトキハ將來

ニ向テ其効ヲ失フ

第十一條 管長ハ宗憲宗規ヲ施行スル爲メ又ハ教學ノ爲メ若クハ一派保安ノ爲メ必要ナル
教令訓示ヲ發ス

但シ教令訓示ヲ以テ宗憲宗規ヲ變更スルコトヲ得ス

第十二條 管長ハ布教ヲ總攬ス

第十三條 管長ハ僧侶ニ度牒ヲ授與シ及交衆ヲ允可ス

第十四條 管長ハ學階及教師等級ヲ進退ス(明治四十三年六月十三日甲第三號
ヲ以テ本條中僧階二字削除發布)

第十五條 管長ハ僧侶ニ色衣被着ヲ允可ス

第十六條 管長ハ僧侶ニ兩大會ノ勤修ヲ命ス

第十七條 管長ハ菩提院結衆及集議ヲ撰任ス

第十八條 管長ハ寺院ノ任職其他一派ノ職員ヲ任免ス

第十九條 管長ハ寺院ノ等級ヲ査定シ寺格ヲ昇降ス

第二十條 管長ハ寺院ノ財産ヲ監護ス

第二十一條 管長ハ僧侶ヲ賞罰ス

第二十二條 管長ハ懲戒處分ヲ受ケタル僧侶ニ對シ特免減減及僧侶分限復得ヲ命スルコト
ヲ得

第二十三條 管長ハ檀徒信徒ヲ褒賞シ又ハ資格解除ヲ認可ス

第二十四條 管長ハ宗會大會ノ協賛ヲ經テ宗費ヲ賦課徵集ス

第三章 宗 務

第二十五條 宗務所ヲ東京ニ置キ宗務ヲ總攬スル所トス

第二十六條 宗務支所ヲ各所ニ置キ地方ノ宗務ヲ管理セシム

各宗務支所ノ位置及管轄區域ハ管長之ヲ定ム

第二十七條 宗務所及宗務支所ノ職制又執務方法ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 宗 會

第二十八條 宗會ハ大會及小會ノ二種トス

第二十九條 大會及小會ハ派内ヨリ選舉セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十條 大會及小會ノ權限及議定ノ事項ハ宗憲及宗規ノ定ムル所ニヨル

第三十一條 大會小會ノ組織議員選舉其他會議ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 教 育

第三十二條 本派ハ僧侶ニ必要ノ學科ヲ授ケ教學堪能ノ教師ヲ養成スル爲メ宗學校ヲ置ク

第三十三條 本派僧侶檀信徒ノ子弟ヲ教育スル爲メ普通學校ヲ設クルコトヲ得

本派尼衆ヲ教育スル爲メ尼衆學校ヲ設クルコトヲ得

第三十四條 各學校ノ位置及學科程度其他教育ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 布 教

第三十五條 本派ノ教義ヲ宣揚シ濟世度生ノ爲メ左ノ布教ヲ實行ス

一 寺院教會各自ニ於ケル布教

一 管長親化及教師ノ巡教

一 其他必要ノ場合ニ於ケル布教

第三十六條 本派教會ヲ總本山ニ置キ支部ヲ各地方ニ置ク

寺院及教師ハ布教ヲ實行スル爲メ教會講社ヲ組織スルコトヲ得

第三十七條 布教堪能ノ教師ヲ養成スル爲メ布教講習所ヲ置ク

第三十八條 布教及布教講習所并ニ教會ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム(大正七年八月廿四日練習所ヲ講習所ト修正發布)

習所ト修正發布

第七章 宗費及會計

第三十九條 宗費ハ經常臨時ノ二種ニ分チ豫算ヲ以テ之ヲ定メ寺院及僧侶ヨリ徵集ス

第四十條 宗費豫算ハ條規ノ定ムル處ニ從ヒ大會又ハ小會ノ協賛ヲ經ヘキ者トス

第四十一條 大會ニ於テ經常豫算ヲ議決セス又ハ議決スルニ至ラサル場合ニハ前年度ノ豫算ヲ用フ

算ヲ用フ

第四十二條 會計年度及宗費賦課徵集法其他會計ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 僧侶及教師

第四十三條 本派規定ノ得度式ヲ了ヘ度牒ヲ受ケタルモノヲ僧侶トシ僧名ヲ公稱セシム

第四十四條 僧侶ハ交衆ヲナシ入壇灌頂以上ノモノニシテ本派規定ノ學科ヲ修ムルモノニ

アラサレハ教師タルコトヲ得ス

但シ特ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第四十五條 僧侶及教師ハ本派ノ法脈ヲ相承シ教義ヲ宣布シ法儀ヲ執行スルヲ任トス

教師ニアラサレハ公衆ニ對シ教義ヲ宣布シ葬祭ノ導師タルコトヲ得ス(第十四條ト同時ニ如此修正發布)

第四十六條 僧侶及教師ノ分限資格稱號其他ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 法衣

第四十七條 僧侶ノ被着スヘキ法衣ノ種類并ニ色衣等級等ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ

定ム

第十章 賞 罰

第四十八條 僧侶ニ施スヘキ褒賞科目ヲ左ノ四種トス

一 教師ノ等級昇進(第十四條ト同時ニ僧階二字削徐發布)

一 法衣授與

一 物品授與

一 褒 詞

第四十九條 檀徒信徒ニ施スヘキ褒賞科目ハ左ノ三種トス

一 法名授與

一 物品授與

一 褒 詞

第五十條 僧侶懲誠ノ科目ヲ左ノ七種トス

一 譴 責

一 懺 悔

一 停 職

一 教師降級

一 住職罷免

一 學階教師黜免(第十四條ト同時ニ
僧階二字削除發布)

一 宗擯斥

第五十一條 褒賞並懲誠ニ附スヘキ事項其他褒賞懲誠ヲ行フニ必要ノ條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第二編 寺 法

第十一章 寺 院

第五十二條 本派寺院トハ總本山智積院直末已下及從來新義真言宗ヲ公稱セル寺院ニテ智山方ニ屬シタルモノヲ總稱ス

第五十三條 寺院ハ本派ノ教義ヲ宣布シ法儀ヲ執行スル所トス

第五十四條 本派ハ智積院ヲ以テ總本山トシ其他ノ一派寺院ニハ等級ヲ分チ寺格ヲ稱セシム

第五十五條 寺院ハ宗費ヲ負擔スヘキ者トス

第五十六條 寺院ハ猥リニ他宗他派ニ轉換シ又ハ本寺轉換ヲナスヲ得ス

第五十七條 寺院本末ノ關係及寺院相互ノ關係其他ノ慣例ハ宗憲宗規ニ抵觸セサルモノニ限リ之ヲ有スルコトヲ得

第五十八條 寺院ノ等級寺格及寺法其他ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十二章 住 職

第五十九條 本派寺院ハ本派交衆ノ僧侶ニ非レハ住職タルコトヲ得ス

第六十條 寺院住職ハ其寺院ヲ代表シ一切ノ寺務ヲ擔任ス

第六十一條 總本山住職ヲ化主ト稱シ管長ヲ以テ之ニ充ツ

第六十二條 寺院住職ハ宗規ニ定メタル相當資格ヲ具備セル教師ニ非レハ補任スルコトヲ得ス

第六十三條 寺院住職ハ懲誠ニ依ルノ外寺院ヲ退斥セララル、コトナシ

第六十四條 寺院住職ハ在職中候補者ヲ指定スルコトヲ得

第六十五條 住職任免其他ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十三章 法 類

第六十六條 本派寺院僧侶ノ法類ハ左ノ二種トス

- 一 身附法類
- 一 寺附法類

第六十七條 法類ノ資格其他ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十四章 檀徒信徒

第六十八條 本派寺院ノ檀徒信徒ノ族籍氏名ハ其寺院ニ備フル檀徒名簿信徒名簿ヘ登載ス
ヘシ

第六十九條 檀徒ハ本派ノ教旨ヲ信奉シ其寺院ニ葬祭ヲ依托シ且其寺院ニ對シテ永續維持
ヲ助クヘキ外護ノ任ヲ有ス

第七十條 信徒ハ本派ノ教旨ヲ信奉シ且其寺院ニ對シ永續維持ヲ助クヘキ外護ノ任ヲ有
ス

第七十一條 凡テ檀徒信徒ハ管長ノ教誡ヲ奉シ教師ニ隨順スルモノトス

第七十二條 檀徒信徒ノ離加方法及其他ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十五章 寺有財產

第七十三條 寺院所有ノ財產ハ住職之ヲ管理ス

第七十四條 寺院所有ノ財產ハ三寶護持ノ目的ニ反シ使用スルヲ得ス

第七十五條 寺院所有財產保管其他ニ關スル條例ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

補 則

第七十六條 將來本宗憲ノ改正變更ヲ要スル時ハ管長ノ發議ニヨリ大會議員三分ノ二以上
出席シ其三分ノ二以上ノ同意ヲ得政府ノ認可ヲ得ルニ非レハ之ヲ施スコトヲ得ス

第七十七條 從前他宗派ノ寺院ニシテ本派ニ關係ヲ有シ又ハ本派ノ寺院僧侶ニシテ他宗派
ニ關係ヲ有スルモノニ付テハ管長ニ於テ其關係宗派管長ト協議ノ上別ニ規定ヲ設ケ政府
ノ認可ヲ經テ施行スルモノトス

第七十八條 管長缺員ノ場合ニ於テハ後任管長就職ニ至ルノ間宗規ノ規定ニ從ヒ事務取扱
ヲ置キ政府ノ認可ヲ得テ事務ヲ取扱ハシムルモノトス

第七十九條 政府ノ法令若クハ處分ニ基キ處置スヘキ事項ニシテ大會又ハ小會ノ議決ヲ要
スル場合ニ於テ其議決ヲ經ル違ナキカ又ハ大會小會ニ於テ之ヲ否決シ又ハ議決セサルト
キハ管長ハ其議決ニ關ラス之ヲ處分スルコトヲ得

一、宗規及規則

(本編中ニハ各條例ノ下ニ細則並書式ヲ出ス)

●宗規第一號 管長選舉條例(明治三十八年十月二十八日內務大臣認可 同 年十一月二十二日甲第一號發布)

第一條 本條例ハ宗憲第二章第五條ノ規定ニヨリ之ヲ定ム

第二條 管長選舉ハ左ノ各項ニ依リ之ヲ行フ

第一項 管長選舉ノ告達ハ現任管長若クハ事務取扱人ニ於テ之ヲ發ス

第二項 選舉告達ハ候補者人名ヲ列記シ選舉期日ヲ定メ三十日以前ニ之ヲ發ス

第三項 管長候補者ハ集議席ノ者トス

第四項 第二項ノ告達アリタルトキハ第三項ノ候補者ヲ被選人トシ派内寺院正住職ニシテ權律師以上ノモノニ於テ三名ヲ選舉スヘキモノトス

第五項 第三項ノ選舉ニヨリ當選人定マリタルトキハ該當選人ヲ以テ被選人トシ更ニ選舉期日ヲ定メ十五日以前ニ之ヲ告達シ菩提院結衆ノ者ヲ選舉人トシ管長候補者一人ヲ選舉セシム

第三條 第二條第五項ニヨリ高點ヲ得タル者ヲ管長當選人ト定メ主務大臣ノ認可ヲ得テ就職ス

第四條 當選人認可ヲ得サル場合アルトキハ第二條第五項ノ選舉ニ於テ被選人タリシ残り

二名ヲ以テ更ニ第二條第五項ニヨリ選舉セシム

第五條 管長缺員シタルトキハ百日以内ニ後任管長ノ選舉ヲ行フ

第六條 管長就職認可願ハ現任管長若クハ事務取扱人ヨリ主務大臣ニ提出スルモノトス

第七條 管長缺員ノ場合ニ於テ後任管長就職迄ノ間主務官廳ノ認可ヲ得テ宗務長ヲシテ管長ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第八條 本規則ノ施行ニ關スル細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●宗規第一號管長選舉條例施行細則

第一條 本細則ハ宗規第一號管長選舉條例第八條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 管長ノ選舉ハ宗務所ニ於テ之ヲ行フ

第三條 前條ノ選舉ニ關シテハ宗規第四號宗會議員選舉條例第十二條乃至第十八條第二十三條第二十四條ヲ準用ス

●諸法令拔抄

○教道職ヲ廢シ教宗派ノ取締ヲ神佛各管長ニ委任ス

(明治十七年八月十二日
太政官布達第十九號)

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム
▲ 第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ
但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

一 教規

- 一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定メル事
 - 一 教師ノ等級進退ノ事
- 以上神道管長ノ定ムベキ者トス

一 宗制

- 一 寺法
- 一 僧侶并ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定メル事
- 一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事
- 一 寺院ニ屬スル古文書、寶物、什器ノ類ヲ保存スル事

●宗規第二號

宗務條例

(明治三十八年十月廿八日內務大臣認可)
同(明治三十八年十一月廿二日甲第一號發布)

第一章 總則

以上佛道管長ノ定ムベキ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ稱スルコトヲ得

○管長身分ノ件

(明治十七年八月十一日)神佛各宗派一般
(太政官公達第六十八號)管長身分ノ儀ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル
右相逢候事

○管長海外渡航ハ内務省ヘ伺出ツヘキ件

(明治二十六年八月十四日)神佛各管長
(內務省訓令第一三號)神佛各宗派管長ニシテ海外渡航ヲ要スル節ハ事實ヲ具シ當省ヘ伺出ツヘシ

○管長代理人ニ關スル件

(明治二十七年二月五日)神佛各管長
(內務省訓令第七六號)其教宗派教規宗制ニ明文アル場合ヲ除ク外管長ハ自ら代理人ヲ置クヲ得サル儀ト心得ヘシ

第一條 本條例ハ宗憲第三章第二十七條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 宗務所

第二條 宗務所ハ管長ノ宗務ヲ總攬スル處トシ宗務長ヲシテ之ヲ執行セシム

第三條 宗務所ニ庶務、教學、會計ノ三課ヲ置キ各課ニ於テ主掌スル事務ノ概目ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ

庶務課

- 一 寺院住職任免ニ關スル件
- 一 法類及住職候補者登錄ニ關スル件
- 一 寺院名簿ニ關スル件
- 一 僧名簿並ニ教師進退ニ關スル件(明治四十三年六月十三日甲第三號)ヲ以テ本條中僧階ヲ教師ト修正
- 一 賞罰ニ關スル件
- 一 會議ニ關スル件
- 一 檀信徒ニ關スル件
- 一 他課ノ主掌ニ屬セサル件

教學課

- 一 布教ニ關スル件
- 一 教會講社ニ關スル件

宗規及規則

- 一 學事ニ關スル件
- 一 學階布教師補免ニ關スル件(同上布ノ一
字ヲ加フ)
- 一 法資養成ニ關スル件

會計課

- 一 宗規ノ豫算決算及賦課徵集ニ關スル件
- 一 宗有建物維持保管ニ關スル件
- 一 寺院所有ノ財産監護ニ關スル件
- 一 金錢物品ノ出納保管ニ關スル件

第四條 宗務所ニ左ノ職員ヲ置キ事務ヲ處辨セシム

- 一 宗務長 一名 一 課長 三名
- 一 屬員 三名 一 書記 若干名

第五條 宗務長ハ管長ヲ補佐シ各課ノ事務ヲ統理シ其責ニ任ス
但シ宗務長事故アルトキハ首席課長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條 課長ハ宗務長ノ旨ヲ稟ケテ其主掌ノ事務ヲ擔任シ屬員以下ハ宗務長及課長ノ命ニ從ヒ事務ニ從事ス

第七條 宗務長候補者ハ一寺正住職ニシテ權少僧正以上ノ教師トシ課長候補者ハ一寺正住職ニシテ權大僧都以上ノ教師トシ本派寺院住職中權律師以上ノ教師ヲシテ選舉セシメ管

長之ヲ命ス(明治四十三年六月十三日甲第三號ヲ以テ本條中僧階ヲ有スルノ
文字ヲ削除シ大正三年五月廿三日日本條但書ノ通り修正發布ス)

但シ選舉人總數ノ三分ノ一以上ノ得點アルニアラサレハ當選者タルコトヲ得ス

第八條 屬員ハ權少僧都以上ノ教師ヲ宗務長ノ推選ニヨリ管長之ヲ命ス
書記ハ宗務長之ヲ進退ス

第九條 宗務長ハ必要ノ場合ニ於テ雇員ヲ置クコトヲ得

第十條 宗務長以下職員ノ任期ハ三ヶ年トシ再任ヲ妨ケス

第十一條 宗務所ハ一派ノ公文書類ヲ保管シ及各課主掌ノ諸帳其他重要ノ書類ヲ備ヘ置ク
モノトス

第十二條 凡テ教令訓示命令ニハ管長ノ名ヲ署シ告示報告ノ類ハ宗務所ノ名ヲ署スヘキモ
ノトス(大正三年五月二十三日文部大臣認可同
日發布本條ヲ加ヘ以下條ヲ順次繰下ケ)

第三章 宗務支所

第十三條 宗務支所ノ分合ハ大會若クハ小會ノ諮問ヲ經テ管長之ヲ定ム

第十四條 宗務支所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 管理 一名 一 副管理 若干名

第十五條 管理ハ副管理以下ノ職員ヲ指揮監督シ支所ノ事務ヲ總理シ其責ニ任ス
管理事故アルトキハ副管理其事務ヲ代理ス

第十六條 副管理ハ管理ノ指揮ニヨリ事務ニ從事ス

- 第十七條 管理候補者ハ其支所部内寺院正住職ニシテ權中僧都以上トシ副管理候補者ハ同部内寺院正住職ニシテ權少僧都以上トシ部内寺院住職ヲシテ選舉セシメ管長之ヲ命ス
但シ特別ノ事情アル地方ニ於テハ評議員會ノ決議ヲ經管長ノ認可ヲ得テ兼務住職人ヲ正副管理候補者トナスコトヲ得(大正七年八月廿四日教令第十號ヲ以テ住職ヲ正住職ト改メ但書ヲ加フ)
- 第十八條 副管理ハ凡ソ二十ヶ寺以上毎ニ一人ヲ置ク
但シ寺數二十ヶ寺未滿ノ箇所ト雖モ一人ヲ置クコトヲ得
- 第十九條 管理以下職員ノ任期ハ各三ヶ年トシ再任ヲ妨ケス
- 第二十條 管理副管理滿期又ハ辭職セントスルトキハ本條例第十七條ニ依リ後任者ヲ選舉スヘシ
- 第二十一條 管理ハ必要ノ場合ニ於テ書記ヲ置クコトヲ得
- 第二十二條 宗務支所事務ノ項目ハ管長別ニ之ヲ定ム
- 第二十三條 宗務支所費ハ會計年度開始以前ニ豫算ヲ定メ評議員ノ決議ヲ經管長ノ認可ヲ得テ其部内寺院及僧侶ヨリ徵集ス
- 第二十四條 宗務支所費不足ニ充ツルタメ手數料其他何等ノ名義ヲ以テスルモ評議員會ノ決議ニヨリ管長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ徵集スルヲ得ス
- 第二十五條 會計年度ハ宗規第六號會計條例ノ規則ニ準スルモノトス

第四章 組 寺

- 第二十六條 各宗務支所下寺院ハ組合ヲ設ケ法要及寺院ヲ相互ニ補翼スヘキモノトス
 - 第二十七條 組合寺院ノ區域ハ其地方ノ便宜ニ依ルモノトス
 - 第二十八條 組合ニハ各寺院正住職ノ互選ヲ以テ組寺總代一名以上ヲ定ム(第十七條ト同時修正)
 - 第二十九條 組寺總代ノ年限ヲ滿三ヶ年トシ再選ヲ妨ケス
 - 第三十條 組合寺院及組寺總代人ハ宗務所ヘ届ケ出ツヘシ
 - 第三十一條 組寺總代人ハ其組合寺院重大ノ事件ニ關シ其組合寺院住職決議ノ上諸願届等ニ連署スヘシ
 - 第三十二條 組合寺院ハ其總代ニ於テ連署事件ニ付不正ノ點アルヲ發見シタルトキハ組合寺院過半數以上ノ同意ヲ得宗務所及宗務支所ニ具狀スルコトヲ得
- 第五章 補 則(大正三年五月二十三日發布一章一條ヲ加フ)
- 第三十三條 本派職員ニシテ左項ノ一ニ該當スル行爲アルトキハ情狀ニ依リ其職ヲ免シ若クハ免職ノ上懲誡ニ附ス
 - 一 職務上敗徳ノ行爲アルモノ
 - 一 職務ヲ曠廢セルモノ
 - 第三十四條 本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●宗規第二號宗務條例中宗務本支所員選舉細則(大正二年二月教令第一號)

- 第一條 本細則ハ宗規第二號宗務條例第三十二條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 他派ニ僧藉ヲ有シテ本派寺院ニ兼務住職スルモノハ宗務長、課長、管理、副管理ノ選舉人タルコトヲ得ト雖モ其被選人タルコトヲ得サルモノトス
- 第三條 他支所下ヨリ兼務住職スルモノハ該兼務寺部内管理副管理ノ選舉人タルコトヲ得ト雖其被選人タルコトヲ得ザルモノトス
- 但シ他支所ノ正住職ニシテ兼務寺部内ノ現管理副管理及評議員ハ宗務條例第三章第十七條ノ但書ニヨリ理由ヲ具シ認可ヲ受クベシ本則發行ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ右手續ヲナサ、ルモノハ失格スルモノトス(大正七年八月廿四日教令第十號ヲ以テ修補)
- 第四條 宗務長課長ノ選舉ハ宗務所ニ於テ管理副管理ノ選舉ハ各其宗務支所ニ於テ之ヲ行フモノトス
- 第五條 任期滿了ノ際ハ其任滿期日以前三十日以内ニ後任者ノ選舉ヲ行フモノトス
- 第六條 任期中病氣其他ノ事故ニ依リ辭職者アルトキハ左項ニ準シ後任者ノ選舉ヲ行フモノトス
- 宗務長辭職ノ際ハ宗機顧問ニ諮詢シ其答申ニ依リ之ヲ聽許シタルトキハ三十日以内ニ選舉ス
- 課長辭職ノ際ハ宗務長ノ具申ニ依リ之ヲ聽許シタルトキハ必要ト認ムル場合ニ選舉ス
- 管理副管理辭職ノ際ハ該支所ノ具申ニ依リ之ヲ聽許シタルトキハ宗務所ヨリ指定日期

内選舉ス

- 第七條 選舉ヲ行フトキハ選舉期日ヲ定メ其二十日以前ニ宗務長課長ノ選舉ハ宗務所ヨリ管理副管理ノ選舉ハ各其宗務支所ヨリ被選舉人名簿ヲ添附シ之ヲ告示スルモノトス
- 第八條 宗務長課長管理副管理ノ選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ
- 投票用紙ハ宗務長課長ノ選舉ニハ宗務所ニ於テ調製シ管理副管理ノ選舉ニハ各其宗務支所ニ於テ調製シ前條ノ告示ト同時ニ選舉人ニ配付スルモノトス
- 第九條 前條告示投票用紙ハ宗務所ヨリ各宗務支所ニ發送ス宗務支所ハ直ニ選舉人ニ交附シ決シテ遲怠スヘカラス
- 若シ前項交附遲怠其他ノ事故アルトキハ選舉人ハ直接宗務所又ハ宗務支所ニ投票用紙交附ヲ申請スルコトヲ得此場合ニハ宗務所又ハ宗務支所ハ直ニ之ヲ交附スヘシ
- 第十條 投票用紙ニ被選舉人名ハ必ス選舉人自ラ之ヲ記スヘキモノトス
- 第十一條 投票及封筒書式ヲ左ノ通り定ム
- 但シ封筒ハ選舉人ニ於テ之ヲ調製スヘシ

教師等級 氏 名 右(何々)ニ選舉ス 年 月 日

府縣市郡町村
 何寺住職
 選舉人 教師等級 氏 名

表
 (何々) 投票

裏

何府何市何町
 何縣何郡何村
 何寺住職
 選舉人 教師等級 氏 名

年 月 日

第十二條 投票ハ選舉期日前日迄ニ宗務長課長選舉ハ宗務所ニ管理副管理選舉ハ各其宗務支所ニ差出スヘシ

投票ヲ郵便ニ附シ差出ストキハ書留郵便トスヘシ一旦差出シタル投票ハ取消シ又ハ變更スルコトヲ得サルモノトス

但シ本條期限ヲ過キ到着セルハ無効トス

第十三條 投票ノ開緘審査ハ選舉期日ニ於テ選舉長及選舉立會人三名以上立會ノ上之ヲ行フ

第十四條 選舉長ハ宗務長課長ノ選舉ニハ管長之ヲ指命シ管理副管理ノ選舉ニハ管理之ヲ指命シ選舉立會人ハ選舉人中ヨリ選舉長之ヲ指命ス

第十五條 選舉告示ト同時ニ選舉長ヲ指命シ之ヲ告示ス選舉立會人ハ開票五日以内ニ之ヲ指命ス

第十六條 左項ニ該當スル投票ハ無効トス

- 一、被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 一、投票本紙ニ選舉人實印ナキモノ
 - 一、自選ヲナシタルモノ
 - 一、宗務條例及本細則ニ違背シタルモノ
- 投票ノ効力ニ關シ疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス

第十七條 二人以上連記投票ノ場合ニ於テ投票記載ノ人員其選舉定數ニ過キ又ハ不足アルトモ之ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾記載ノ人名ヲ棄却スルモノトス

第十八條 選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得タモノヲ以テ高點當選者トス

投票得點同數ナルトキハ教師等級ノ高キモノヲ取リ教師等級相同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡相同シキトキハ抽籤ヲ以テ當選者ヲ定ム

第十九條 前條當選者定マリタルトキハ選舉長ハ當選者ニ對シ當選通知書ヲ發スルモノトス

當選者ハ當選通知書ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ選舉長ニ對シ諾否ヲ届ケ出ツヘキモノトス

第二十條 高點當選者其當選ヲ辭シ又ハ前條期限内ニ承諾届出ヲナサレルトキハ其當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第二十一條 前條ノ場合ニハ選舉長ハ次點者ヲ以テ當選者トシテ本細則第十九條ノ手續ヲナスモノトス(本條第二項ハ大正三年教令第九號ニテ削除ス)

第二十二條 當選者當選承諾ヲ届出タルトキハ該届書並ニ選舉錄ヲ添附シテ選舉長ヨリ管長ニ任命ヲ申請スルモノトス

第二十三條 選舉長ハ選舉ヲ行フ都度選舉錄ヲ調製シ選舉立會人ト連署シ投票ト共ニ宗務長課長ニ關スルモノハ宗務所ニ管理副管理ニ關スルモノハ各其宗務支所ニ差出スヘシ宗

務本支所ハ一ケ年間之ヲ保存スルモノトス

第二十四條 選舉終了シタルトキハ宗務長課長選舉ノ際ハ宗務所ヨリ一派内ニ管理副管理選舉ノ際ハ各其宗務支所ヨリ部内ニ該顛末ヲ告示スルモノトス

第二十五條 大正元年教令第二號宗會議員選舉條例施行細則中第十條乃至第十六條及ヒ第十八條乃至第二十四條ノ規程ハ本細則ニ準用ス

第二十六條 (大正三年教令第九號ニテ改補)宗務條例第七條但書ノ規定ニヨリ宗務長課長ノ選舉ハ選舉人總數三分ノ一以上ノ得點アルニアラサレハ本則第十八條高點當選者及第二十一條ノ次點當選者タルコトヲ得ス此場合ハ勿論本細則第二十一條ノ次點當選者其當選ヲ辭シタルトキ

ハ本細則第二十四條ノ告示ヲ爲スト同時ニ更ニ選舉ヲ行フ告示ヲ發スルモノトス

第二十七條 宗務所屬員ハ缺員ヲ生シ必要ノ場合ニ之ヲ推選スルモノトス

第二十八條 宗務長缺員ヲ生シタルトキハ管長ハ後任宗務長選任セララル、マテヲ期シ宗務長事務取扱ヲ命スルコトヲ得課長缺員ヲ生シタルトキハ管長ハ後任課長選舉セララル、マテヲ期シ宗務長ノ推舉ニヨリ課長事務取扱ヲ命スルコトヲ得

但シ宗務長事務取扱ハ三ヶ月ヲ最長任期トス(大正四年教令第十號ニテ改補同六年六月一日教令第二號ニテ修正同年十月十九日教令第三號ニテ修補)

第二十九條 管理缺員ヲ生シタルトキハ管長ハ後任管理選任セララル、マテヲ期シ管理事務取扱ヲ命スルコトヲ得

但シ管理事務取扱ハ三ヶ月ヲ最長任期トス(大正四年教令第十號ニテ改補同六年六月一日教令第二號ニテ修正)

第三十條 本細則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宗規第二號宗務條例中宗務支所事務細則

第一條 宗務支所事務ノ概目左ノ如シ

- 一 管内寺院僧侶教師及檀信徒ニ關スル諸願伺届書ヲ審査シ奥印進達ノ件
- 二 宗憲宗規其他宗務所ノ令達等執行ノ件
- 三 管内法資教育及學事獎勵ノ件
- 四 管内教會所說教所設置及布教ノ隆替ヲ監査シ宗務所ニ具申ノ件
- 五 寺格及等級ニ關スル件
- 六 僧侶及檀徒褒賞ニ關シ其事實ヲ審査シ宗務所ニ具申ノ件
- 七 僧侶懲誡、特免、減誡、復得及檀信徒拒絕ニ關シ審査ヲ遂ケ宗務所ニ具申ノ件
- 八 寺院住職及檀信徒間ニ於ケル葛藤ニ對シ事實調査及和解ニ關スル件
- 九 寺院住職交替ニ際シ事務引繼ニ關スル件
- 十 地方職員進退ニ關スル件
- 十一 評議員會ノ議事ヲ準備シ其決議執行ニ關スル件
- 十二 宗費及宗務支所費取纏ニ關スル件
- 十三 管内寺院寶物、什器保存及地所建物ニ關スル件

十四 管内寺院、僧侶、寺有財產、檀信徒、組寺、法類等ノ各名簿其他諸帳簿備付ニ關スル件

十五 寺院創立廢合移轉再興ニ關スル件

十六 管内寺務狀況報告ノ件

第二條 管理ニ於テ宗規第二號宗務條例第二十一條ニ依リ書記ヲ置クトキハ其旨宗務所ニ届出ツヘシ

第三條 各宗務支所ニ評議員會ヲ置キ宗務支所職員及管内ヨリ選出シタル評議員ヲ以テ組織ス

第四條 評議員ノ選舉人ハ其管内一寺住職ノ者及他ヨリ兼務住職ノモノ

第五條 評議員ノ被選舉人ハ其管内一寺正住職ニシテ權律師以上ノモノ(大正七年八月廿四日教令第十號ニテ修正)

第六條 左ノ一ニ該當スル者ハ評議員タルヲ得ス

- 一 懲誡處分後一年ヲ經サル者
- 二 宗費及宗務支所費怠納ノ者
- 三 宗務支所職員

第七條 評議員ノ員數ハ正副管理ノ員數ニ準スルモノトス

第八條 評議員ノ選舉ヲ行フトキハ管理ハ期日ヲ定メ其期日ヨリ少クトモ十日以前ニ管内ニ告知スヘシ

管理缺員ノ場合ハ副管理之ヲ行フ

第九條 投票多數ヲ得タル者ヨリ順次當選人トス

第十條 評議員ノ任期ハ三ケ年トシ欠員ヲ生シタルトキハ更ニ補缺選舉ヲナスモノトス

但補缺選舉ノ場合ハ前任者ノ殘任期ニ依ル

第十一條 選舉當選人決定シタルトキハ管理ハ其顛末ヲ記シ宗務所ニ上申スヘシ

第十二條 評議員ハ宗務長ノ名ヲ以テ當選狀ヲ交附ス

第十三條 評議員會ノ會長ハ管理之ヲ勤メ管理事故アルトキハ副管理代理ス

第十四條 宗務支所會計主事ハ評議員會ノ初ニ於テ前年度ノ決算ヲ報告ス

第十五條 決議ノ事項ハ總テ管長ノ認可ヲ得ルモノトス

第十六條 評議員會ハ議事録ヲ製シ會長及評議員一名署名捺印シ保存スルヲ要ス

●宗務支所事務報告之件(大正四年一月八日宗牒第一號)

客歲文部省訓示第六號ヲ以テ神佛道教宗派事務報告例改正セラレ隨テ宗教局長ヨリ之カ勵行通牒有之且ツ本派宗務調整上必要ニ付大正三年度ニ關スル左記各項ノ狀況調書ヲ本年二月十五日迄ニ本所ニ着スル様無遲怠必ス報告有之度候自今以後年々其年度ニ關スル左記各項狀況調書ハ翌年二月十日迄ニ必ス報告有之度候
本宗牒中ノ年度ハ曆年ニ依リ一月一日ヨリ十二月三十一日マテヲ稱シ候

右稟命及通牒候也

本派宗務支所事務報告事項

- 一、各部内ニ於ケル布教ノ概況
- 二、各部内ニ於ケル法資教養ノ實況
- 三、各部内ニ於ケル事教講習等ノ概況
- 四、各部内ニ於ケル教育、感化、救濟、育兒其他公益慈善事業ノ施設方法並成績ノ概況
- 五、以上各項ハ各支所ニ於テ實施セルモノハ勿論部内寺院、教會、教師、僧侶ノ實行シタルモノヲ列記スルコト
- 六、左記各號ノ調査
 - 第一號 布教一覽表
 - 第二號 寺院住職及教師一覽表
 - 第三號 法資教育一覽表
 - 第四號 祠宇、教會、講社、說教所一覽表
 - 第五號 檀信徒一覽表
 - 第六號 職員評議員一覽表
 - 第七號 支所位置事務取扱方法
 - 第八號 事務取扱件數一覽表

第九號 評議員會決議一覽表

第十號 告示一覽表

第十一號 國寶特別保護建造物重要寶物一覽表

第十二號 學校公益慈善事業一覽表

已上

●宗務支所正副管理改選ノ件(大正四年八月廿日告示番外)

本年十月一日管理副管理任期滿了者ハ宗規第二號宗務條例第三章第十七條第十八條及宗務本支所員選舉細則ニ依リ改選ノ上同細則第二十二條ノ任命申請書ハ來ル九月二十五日迄ニ本所ニ着スル様ニ提出スルコトヲ要ス向後管理副管理任期滿了者アルトキハ前項ニ準シ改選ノ上該任命申請書ハ任期滿了五日以前ニ本所ニ着スル様ニ提出スルコトヲ要ス

管理副管理改選注意事項ハ大正三年八月二十日告示番外ヲ以テ告示シ置キタル通りナレトモ左ニ再録ス

- 一、管理選出區域ハ該支所管内一般トス
- 一、副管理選出區域ハ該支所管内ニ於ケル一ヶ組乃至數ヶ組ヲ一選出區域トシ其標準寺數ハ凡ソ二十ヶ寺以上トス但シ二十ヶ寺未滿ノ箇處ト雖モ地勢慣例等ニ依リテハ一選出區域トスルコトヲ得尤モ一選出區域ハ四十ヶ寺以上ニアラサレハ二名ヲ選出スルコトヲ得

サルモノトス

●注意 本項ハ副管理ノ選出區域ヲ定メタルモノニ付選舉人ハ本條例第十七條ニ據ル部内寺院住職(正兼)一般トス(編者附記)

一、任命申請書ハ左ノ書式ニ準スヘシ

管理副管理任命申請書

何々縣何々智山派宗務支所

一、改選告示 (支所ヨリ發シタル改選告示全文ヲ寫スヘキコト)

一、改選日時及揚所並選舉長立會人等

大正四年九月何日何時ヨリ當支所ニ於テ選舉會ヲ開キ(投票開緘)何日何時終了之ヲ閉

大正四年九月何日管理ハ選舉長ニ級氏名ヲ指命シ何月何日選舉長ハ立會人ニ級氏名ヲ指命ス

選舉當日出席者左ノ如シ

選舉長	級	氏	名
立會人	級	氏	名
同	級	氏	名
同	級	氏	名

支所職員管理 級 氏 名

(備考) 副管理以下出席關與者列記ノ事

一、改選々舉議事項

決議各項明記ノコト若シ決議無之トキハ無之ト記入スルコト

一、改選投票及得點

管理投票總數何十何票内犯則無効何票

正票 何十票

郡市町村何寺住職

高點 何十何票 級 氏 名

次點 何 票 級 氏 名

(以下得點者列記ノコト)

副管理投票總數何十何票内犯則無効何票正票何票

郡市町村何寺住職

副管理(何々組) 選出 高點 何十何票 級 氏 名

次點 何 票 級 氏 名

(以下得票者列記ノコト)

(備考) 副管理選出區域毎ニ以下列記ノコト但シ一區域數ケ組ノトキハ何組

選出又ハ何組外幾組選出若クハ何々選出ト記入ノコト

一、當選確定

選舉長ハ選舉當日直ニ高點當選人ニ通知ヲ發シ本月何日別紙ノ通當選承諾書ヲ受領セ
リ依テ之ヲ添附ス

右具申仕候間御任命被成下度此段申請仕候也

大正四年九月何日

選舉長 級 氏 名

立會人 級 氏 名

同 級 氏 名

同 級 氏 名

新義真言宗智山派管長

大僧正 殿

●宗務支所評議員改選ノ件(大正四年八月廿日告示番外)

本年十月一日各宗務支所評議員任期滿了ニ付宗務支所事務細則第四條乃至第十條ニヨリ改選ノ上同細則第十一條選舉顛末上申書ハ來ル九月二十五日迄ニ本所ニ着スル様進達スヘシ
評議員改選注意事項ハ大正元年八月二十日告示番外ヲ以テ告示置キタレ共更ニ録ス

一、各地宗務支所管内選出ノ評議員ハ一般ニ任期滿了ニ付總選舉ヲ行フヘシ
 一、評議員改選告知ニ際シ宗務支所事務細則第六條各項ヲ管内寺院ニ周知セシムルハ勿論
 宗費支所費ヲ完納セシメ之カ整理ヲ期スルト同時ニ怠納ノ爲ニ當選無効タラサル様ニ深
 ク注意スヘシ

一、評議員選出區域ハ正副管理選舉區域ニ準スヘシ

〔注意〕選舉人ハ宗務支所事務細則第四條ニ據リ管内一寺住職(正兼)一般トス(編者附記)

一、改選顛末上申書ハ左ノ書式ニ準スヘシ

評議員改選顛末上申書

一、改選告示 (支所ヨリ發シタル改選告示全文ヲ寫スヘシ)

一、改選日時及場所並關與人

大正四年九月何日何時ヨリ宗務支所ニ於テ選舉會ヲ開キ投票開緘同日何時終了之ヲ閉
 ツ

選舉當日出席者左ノ如シ

選舉主任	管理	級	氏	名
關與人	副管理	級	氏	名

(以下副管理評議員出席者列記ノ事)

一、改選々舉決議事項

各項明記ノコト若シ決議無之トキハ無之ト記入スヘシ

一、改選投票及得點

評議員投票總數何十何票内犯則無効何票正票何票

評議員(何々組選出)	高點	何十票	級	氏	名
	次點	何票	級	氏	名

郡市町村何寺住職

(以下得點列記ノ事)

(備考) 各選出區域毎ニ列記スヘシ

一、前項高點當選者ハ宗務支所事務細則第六條各項ニ該當セサルコトヲ證ス
 右上申仕候也

大正四年九月何日

何縣何智山派宗務支所管理 級 氏 名

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名 殿

以 上

●宗規第二號宗務條例中組寺施行細則

- 第一條 本施行細則ハ宗規第二號宗務條例第四章ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 組合寺院ハ其組寺ノ住職又ハ後任候補者選定ノ場合ニ現住職及本寺法類ニ於テ不正ノ取扱ヲナサル限リハ異議ヲ主張スルヲ得ス
- 第三條 總代ハ宗務支所事務細則第一條ノ各項其他宗務所宗務支所ヨリ調査又ハ執行ノ命アリタルトキハ速ニ處理スヘシ
- 第四條 總代ハ法資教育布教傳道其他寺門ノ維持興隆等ノ方法ヲ獎勵スヘシ
- 第五條 總代ハ僧侶檀信徒間ニ葛藤ヲ生シタルトキハ之レカ調和ヲ勉ム
- 第六條 總代ハ住職交代寺務引繼ノ場合ハ立會人トシテ財産什器ヲ取調ヘ引繼ニ不都合ナキトキハ其帳簿ニ署名捺印ス
- 第七條 總代ハ組内ニ宗憲宗規教令等ノ違反者ヲ生セサルヲ要務トス
- 第八條 總代ハ組寺中協議ヲ要スル事件ヲ生シタルトキハ組寺會議ヲ開ク
- 第九條 組寺ニ必要ナル規約ハ組寺會ニ於テ定メ宗務所ノ認可ヲ得ヘシ
- 第十條 組寺會ニ關スル記録等ハ漸次後任總代ニ引繼ヲナス

(組寺届様式)

組寺御届

何府縣何宗務支所下

何府縣郡市町村等地寺格	何	寺
同	同	
同	同	
同	同	

(何ヶ寺ニテモ列記スヘシ)

右何ヶ寺ハ當組寺ニ相違無之候條此段及御届候也

右何寺住職

教 師 氏 名 印

右何寺住職

教 師 氏 名 印

(前列記ノ住職ハ總テ記名捺印スヘシ)

新義真言宗智山派宗務所御中

前書相違無之ニ付奥印進達候也

何府縣何宗務支所管理

教 師 氏 名 印

(組寺總代届様式)

組寺總代御届

何府縣何宗務支所下

何府縣郡市町村等級寺格何寺住職
教 師 氏 名

年 月 日

選舉人總代 教 師 氏 名
同 同 氏 名
同 同 氏 名
同 同 氏 名

何府縣郡市町村等級寺格何寺住職

同 同 氏 名
同 同 氏 名
同 同 氏 名

新義真言宗智山派宗務所御中
前書相違無之ニ付與書進達候也

何府縣何宗務支所管理

教 師 氏 名 印

●組寺届ノ件(大正五年一月十日宗牒第二號)

宗務調整上緊要ニ付該部内ニ於ケル各組名及ヒ各組寺院列記左ノ書式ニ依リ該支所管理ヨ
リ本月三十日迄ニ本所ニ着候様申報有之度此段及通牒候也

何々宗務支所管内組寺調

何々組 何ヶ寺

本 寺	市 郡	町 村	大 字	等 級	寺 名
何々組	何ヶ寺				
本 寺	市 郡	町 村	大 字	等 級	寺 名

以下準次列記ノコト

右相違無之候ニ付申報候也

大正五年一月何日

何々宗務支所管理

級 氏 名 印

新義真言宗智山派宗務長

級 氏 名 殿

●本派職員俸給細則

(大正二年十月教令第七號改正 同七年八月廿四日教令第十號修正)

第一條 本派ノ宗務教學ニ従事スル者ハ左ノ職名等級ニ依リ俸給ヲ支給ス

職名	等級	一 等 (年俸給)	二 等 (年俸給)	三 等 (年俸給)
宗務長		五百七拾圓	五百四拾圓	五百九拾圓
宗務所課長		四百五拾圓	四百貳拾圓	參百九拾圓
一等布教師		五百拾圓	四百八拾圓	四百五拾圓
二等布教師		四百五拾圓	四百貳拾圓	參百九拾圓
宗務所屬員		參百九拾圓	參百六拾圓	參百參拾圓
三等布教師		參百九拾圓	參百六拾圓	貳百參拾圓
四等布教師		參百參拾圓	參百拾圓	貳百七拾圓
五等布教師		貳百七拾圓	貳百四拾圓	貳百拾圓
宗務所書記		貳百七拾圓	貳百四拾圓	貳百拾圓
以上宗務所				
木山執事		四百五拾圓	四百貳拾圓	參百九拾圓
本山用度		貳百五拾貳圓	貳百貳拾八圓	貳百〇四圓

以上總本山

私立智山勸學院長	五百七拾圓	五百四拾圓	五百九拾圓
同 學 監	四百五拾圓	四百貳拾圓	參百九拾圓
同 教 授	四百五拾圓	四百貳拾圓	參百九拾圓
同 講 師	參百九拾圓	參百六拾圓	參百參拾圓
同 助 教 授	參百九拾圓	參百六拾圓	參百參拾圓
同 舍 監	參百九拾圓	參百六拾圓	參百參拾圓
同 司 書	參百九拾圓	參百六拾圓	參百參拾圓
同 書 記	貳百五拾貳圓	貳百貳拾八圓	貳百〇四圓
以上私立智山勸學院			

第二條 俸給ハ十二分シテ毎月末之ヲ支給ス

第三條 新任者ニハ最初一ケ年間ハ三級俸ヲ支給シ次年ヨリ其技能ト執務ノ成績トヲ詮衡シ昇級セシムルコトアルヘシ

但シ其職務ニ特ニ堪能者又ハ精勵ヲ認ムルトキハ任命ノ最初乃至就職後隨時ニ上給俸ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 新任ノ者ハ就職執務シタル日ヨリ支給シ辭職免職及死亡ノ者ハ當月分ノ全額ヲ支給ス

第五條 執務ニ堪ヘサル病氣ノ爲メ請暇六十日ヲ踰ユル者及私事ノ事故ニ依リ執務セサルコト十五日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス

但シ師僧及父母ノ死亡ニ依リ特ニ請暇ヲ得タル者又ハ休暇ノ期間ニ係ルトキハ此限リニアラス

第六條 事故ノ如何ニ拘ハラズ執務セサルコト九十日以上ニ至ル者ハ俸給ヲ支給セス

第七條 再任又ハ勤績ノモノニシテ功績アルモノハ就職シタルトキヨリ一等給ヲ支給スルコトヲ得猶從前上給俸ヲ受ケタルモノハ其同俸給ヲ支給ス

第八條 他ノ職員ヲ兼ネタルトキハ其職務ニ從事程度ヲ詮衡ノ上其職務俸給ノ三分ノ一以內ニ於テ相當ノ手當ヲ支給ス

第九條 宗務所雇員ハ詮衡ノ上相當ノ俸給ヲ支給ス

第十條 勸學院教授講師ノ俸給ハ其教授時間ノ數ニ依リ其等級相當ノ増減俸スルコトヲ得

第十一條 勸學院教職員及本山職員ノ増減俸ハ宗務長ニ稟議ヲ要ス

第十二條 布教師俸給ハ宗務所ノ命ニ依リ巡回中ニ限り之ヲ支給ス
但シ十日以內ノトキハ月俸三分ノ一、二十日以內ハ同三分ノ二、二十日以上ハ月俸全額ヲ支給ス

第十三條 特殊ノ場合若クハ本則實施ニ關シテハ宗務長ノ定ムル處ニ依リ

以上

●本派職員慰勞及被服料支給細則

第一條 慰勞ハ左ノ區分及方法ニ依リ之ヲ支給ス

一 事件ノ難易事務ノ繁簡ニ依リ支給スヘキ慰勞額ハ現ニ受ケタル月額十分ノ二ヨリ超過スルコトヲ得ス
但便宜ニ依リ之ヲ一ケ年内兩度ニ支給スルコトヲ得

二 病氣其他ノ事故ニ依リ六ケ月間通算シ二十日以上執務セサル者ハ慰勞ヲ支給セス
但師僧又ハ父母ノ死亡ニ依リ特ニ請暇ヲ得タルトキハ此限ニアラス

三 一月又ハ七月ニアラス半途ノ月ニシテ就職シタル者ハ月割ニ依リ之ヲ支給ス
但就職一ケ月ニ滿タサル月ハ之ヲ算入セス

四 職務ノ繁劇ニ堪ヘ又ハ職務ニ精勵シ特ニ功績之アル者ハ詮衡上特別ニ慰勞ヲ支給スルコトヲ得

五 滿一ケ年間職務ニ從事シ退職シタルトキハ現ニ受ケル月額三分ノ一ノ慰勞ヲ支給ス

六 滿二ケ年間職務ニ從事シ退職シタルトキハ現ニ受ケタル月額三分ノ二ノ慰勞ヲ支給ス

七 滿三ケ年間職務ニ從事シ退職又ハ滿期トナリシトキハ現ニ受ケタル月額ト同額ノ

慰勞ヲ支給ス

第二條 滿三ヶ年間職務ニ從事シ退職又ハ滿期ノ者更ニ再任又ハ勤績一ヶ年以上職務ニ從事シ功績之アル者退職ノトキハ前條第六項ニヨリ慰勞ヲ支給ス

二年以上從事シタル者ハ前條第六項ノ外ニ金五圓乃至拾圓ノ範圍ニ依リ三年以上從事シタル者ハ同第七項ノ外ニ金拾圓乃至拾五圓ノ範圍ヲ以テ増給ス

第三條 他ノ職務ヲ兼任シタル場合ハ事務ノ繁簡事件ノ難易及年月ノ長短ニ依リ詮衡ノ上慰勞ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 就職中死亡シタル者ハ第一條各項ニ準シ詮衡ヲ經テ慰勞ヲ支給ス

第五條 臨時ノ職員ニシテ他ニ規定ナキモノハ此細則ニ準シテ之ヲ定ム

第六條 巡回布教師ニハ一等乃至五等各平均ニ依リ一ヶ年ニ金貳拾圓ノ被服料ヲ支給ス

但一ヶ年兩度ニ支給ス若シ半途ニ就職シタル者ハ月割ヲ以テ支給ス一ヶ月ニ滿タサル月ハ算入セス

●本派職員旅費支給規則(大正七年八月廿四日 教令第十號ヲ以テ修正)

第一條 旅費ハ宗務ニ關シ旅行スルトキ別表ニ依リ五等ニ分チ之ヲ支給ス

第二條 法會其他ノ用務ヲ以テ地方在住者ニ派出ヲ命シタルトキノ旅費ハ別表ノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ支給ス

第三條 一日ノ行程汽車ハ二百哩水路ハ一百海哩陸路ハ十二里詰トス

但數種ニ亘リタルトキハ各其路程十分ノ一ヲ一時間ノ行程トシ十時間ヲ一日ノ行程トス

第四條 汽車賃陸路費ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス

但一位未滿ノ數ハ一位トシテ計算ス

第五條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ滞在日數ニ應シ支給ス

但派出先ニ於テ賄ヲ受ケ宿泊料ヲ要セサルモノニハ宿泊料ヲ支給セス又有給ノ職員ニハ日當ヲ支給セス

第六條 各路ノ行程合算シ五時間以上十時間未滿ヲ要シ到着ノ者ニハ金五拾錢ノ手當ヲ支給ス

第七條 風雨積雪又ハ道路險惡等ノ爲メ定額ノ旅費ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ適當ノ現増額ヲナスコトヲ得

第八條 總テ旅費ハ本人現住職地ヨリ起算シ順路ニ就キ之ヲ支給ス

第九條 議員及本派教學ニ參與セシムル爲管長ニ於テ召集スル者ノ旅費日當ハ三等額ニヨリ之ヲ支給ス

管長	一等	二等	三等	四等	五等
管長代理	宗務所課長	宗務所屬員	宗務所書記		
宗務長	勸學院學監	勸學院助教授	本山用度		
勸學院長	同教授	勸學院司舍監	學校書記		
一等布教師	本山執事	四等布教師	雇員		
	二等布教師	管長隨行員	布教師試補		
	三等布教師	管長隨行員	布教師試補		
	管長隨行員		管長從者		

一等	一等	汽車賃船賃	陸一里ニ付	宿泊料	日當
二等	二等	上	五拾錢	五圓	
三等	三等	中	四拾錢	四圓	貳圓五拾錢
		下	參拾錢	參圓	貳圓

●本派派出旅費規則

第一條 宗費未納ノ爲持ニ派出ヲ爲シ其他ノ事故ニヨリ派出ヲ申請スル場合ハ其派出ヲ受ケタル箇所ニ於テ旅費ヲ負擔スヘシ

第二條 前條ノ場合ハ本派職員旅費支給規則ヲ準用ス

●臨時宗務整理部規則(大正六年十一月十日教令第五號發布)

第一條 本派ノ宗務ヲ整理スルヲ目的トシ宗務所内ニ臨時宗務整理部ヲ置ク

第二條 當整理部ハ委員長壹名委員若干名書記若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 委員長ハ宗務長ノ任トシ委員ハ本派ノ教師中ニ付管長之ヲ特任シ書記ハ委員長之ヲ命ス

委員長事故アルトキハ課長ヲシテ代理セシム

第四條 委員長ハ委員ノ整理事務及申告ニ對シ決裁ノ權ヲ有シ管長ニ上申ス委員以下ハ委員長ノ旨ヲ稟ケテ事務ニ從事ス

四等	三等	下	參拾錢	貳圓	壹圓五拾錢
五等	三等	下	參拾錢	壹圓五拾錢	壹圓

第五條 委員長ハ整理上必要ト認メタル時ハ委員ヲ各地ニ派出セシメ又ハ派内寺院住職及
 第六條 本派寺院住職及關係者ハ本整理部委員ノ取調ニ對シ誠實ニ其指揮命令ニ從フヘシ
 第七條 本派寺院住職及關係者ニシテ第五條第六條ニ違犯シ誠實ヲ缺クモノアルトキハ其
 第八條 當整理部ニ於ケル費用ハ宗費ヲ以テ之ニ充テ派内寺院住職及關係者ノ召喚費用ハ
 第九條 常整理部ハ宗務所ノ都合ニ依リ隨時之ヲ開閉ス
 以上

●實印々鑑届出ノ件(大正六年四月四日 教令第一號發布)

本派教師僧侶ハ別記書式ニ依リ市區町村長ノ證明ヲ得タル實印々鑑ヲ來ル五月五日限り届
 出ベシ
 本派僧侶ニシテ自今教師ニ補命セラレタルトキハ二十日以内ニ前項届出ヲ爲スベシ
 別記書式

實印々鑑届

(竪五寸)

何年何月何日届出	住所	氏名
實印々鑑 ○	市區町 村長印	何年何月何日生

(寸一横)

(用紙厚紙タルコトヲ要ス)

右證明ノ通り有之候間御届申上候也

大正 年 月 日

何宗務支所管内

何市何町 大字何々何々 寺院住職又ハ法資

級 氏 名

新義真言宗智山派宗務長

級 氏 名殿

宗務支所管理奥印進達ノコト

備考 證明願書ニ證明セラレタルモノヲ添附スルモ可ナレトモ必ス該證明ニハ届出
年月日ト證明年月日トヲ明記スルヲ要ス

宗規及規則

●諸法令拔抄

○重要ノ事項ハ教規宗制中ニ編入スヘキ件

(明治十八年三月十八日) 神佛各管長
(内務省丁第一號達)

教規宗制認可ヲ與ヘタル後ハ從前認可シタル教規宗制ノ部類ハ總テ認可ノ効ヲ失ヒ候儀ニ付重要ノ事項ニシテ認可ヲ乞フヘキモノハ更ニ教規宗制中ニ編入可差出儀ト可相心得此旨相違候事

○教規宗制ヲ制定變更スルトキ説明書ヲ付スヘキ件

(明治二十七年七月二十日) 神佛各管長
(社寺局通牒社甲第五十一號)

自今教規ヲ制定變更シ之カ認可ヲ請フトキハ其認可申請書ニ其制定變更ニ係ル條章ノ説明書ヲ添付ノ上御差出相成度命ニ依リ此段及通牒候也

○教規等ノ不備ヲ補充スル規則ノ認可ヲ受ケシム

(明治二十八年四月十九日) 神道各管長
(内務省訓令第二百八十四號)

神道各教派教規并教師ノ稱號分限及等級進退ニ關スル條規ハ總テ明治十七年太政官第十九號布達ニ依リ之ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ受クヘキ處近頃教派中其條規ノ不備ヲ補

充スルカ爲メニ本大臣ノ認可ヲ受ケスシテ別ニ規則ヲ制定實施スルモノアルヤニ相聞ヘ甚タ不都合ノ次第ニ付キ其已ニ實施スルト否トニ拘ハラズ至急該規則ヲ具シ該布達ニ依リ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○宗制等ノ不備ヲ補充スル規則ノ認可ヲ受ケシム

(明治二十八年四月十九日) 神道各管長
(内務省訓令第二百八十五號)

佛道各宗派宗制寺法并僧侶教師ノ分限及稱號住職ノ任免教師ノ等級進退及寺院ニ屬スル古文書寶物什物類ノ保管ニ關スル條規ハ總テ明治十七年太政官第十九號布達ニ依リ之ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ受クヘキノ處近頃宗派中其條規ノ不備ヲ補充スルカ爲メニ本大臣ノ認可ヲ受ケスシテ別ニ規則ヲ制定實施スルモノアルヤニ相聞ヘ甚タ不都合ノ次第ニ付其既ニ實施スルト否トニ拘ハラズ至急該規則ヲ具シ該布達ニ依リ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○教宗派ノ事務ニ付主務省ヘ請願ノ件

(明治二十二年五月廿五日) 神佛各管長
(内務省訓令第二十二號)

(參照) 文部省官制
神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ

但管長其手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出ス事ヲ得

○他宗派ニ關係ヲ有スル寺院ニ關スル件

(明治三十二年八月二十一日) 佛道各管長
(社寺局通牒社甲第二十號)

其宗派寺院ニシテ他宗派本山ノ末寺タル者等總テ他宗派ニ關係ヲ有スルモノ有之候ハハ其寺院住職ノ任免其他宗制寺法上ニ規定ヲ要スル事項ハ關係宗派管長協議ノ上相當規定ヲ設ケ速カニ認可申請ノ手續ニ及ハルヘク命ニ依リ此段及通牒候也

●宗規第三號 宗會條例

第一章 總 則

第一條 本條ハ宗憲第四章第三十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 大 會

第二條 大會ハ別ニ定ムル選舉條例ニ依リ公選セル議員二十四人及特選議員六人ヲ以テ組織ス

第三條 議員ノ任期ハ滿六ケ年トス補缺ニ依リ議員タル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期ニ依ル

第四條 大會ハ隔年ニ之ヲ開ク(大正七年二月八日)
(教令第三號ニテ修正)

但シ管長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時之ヲ開クコトアルヘシ

第五條 定期大會ノ開期ハ六月トシ其會期ハ五日間トス(上同)

但ツ管長ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトアルヘシ
臨時大會ノ會期ハ召集ノ都度管長之ヲ定ム

第六條 管長ハ大會ヲ解散シタルトキハ五ヶ月以内ニ更ニ大會ヲ召集スヘシ

第七條 大會ハ緊要ノ場合ヲ除ク外三十日以前ニ期日ヲ定メ管長之ヲ召集スルモノトス

第八條 大會ニ議員ノ互選ヲ以テ議長一人副議長一人ヲ置ク

議長ハ議事ヲ整理シ大會ヲ代表ス

副議長ハ議長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

議長副議長共ニ事故アルトキハ議員ノ互選ヲ以テ臨時議長ヲ定ムルモノトス

第九條 大會ハ議員ノ互選ヲ以テ常任委員五名ヲ置キ議案ヲ審査セシメ又特ニ必要ト認ム

ル議案ニ付テハ特別委員若干人ヲ置キ之ヲ審査セシムルコトヲ得

第十條 大會ニ幹事一人書記若干人ヲ置キ宗務所ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ議長ノ指揮ニヨリ事務ヲ擔當ス書記ハ議長及幹事ノ指揮命令ニ依リ事務ニ従事ス

第十一條 大會ハ宗憲宗規ニ明記セル事項ノ外豫算及其賦課徴收法其他管長ニ於テ重大ト

認メタル事項ヲ議決ス

第十二條 大會ノ議案ハ宗務所之ヲ發ス議員ハ三名以上ノ同意ヲ得自ラ議案ヲ發スルコト

ヲ得

第十三條 大會ハ議員總數ノ三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十四條 大會ハ管長ニ對シ建議ヲナスコトヲ得

第十五條 大會ハ寺院僧侶ノ請願ヲ受クルコトヲ得

第十六條 大會ノ議事ハ公開ス

但シ宗務所ノ請求アルトキ又ハ大會ニ於テ議決シタルトキハ傍聽ヲ禁スルモノトス

第十七條 宗務所委員ハ宗務長課長及特ニ管長ノ命シタル委員ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 宗務所委員ハ大會ニ於テ何時タリトモ意見ヲ陳フルコトヲ得

第十九條 宗務所委員ハ委員會ニ出席シテ意見ヲ陳フルコトヲ得

第二十條 議員及常任委員特別委員ハ宗務所ニ必要ノ書類ノ一覽ヲ請ヒ又ハ質問ヲ爲スコ

トヲ得

第二十一條 大會ハ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第二十二條 議員ノ懲罰ハ左ノ如シ

一 譴責 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 陳謝 公開シタル議場ニ於テ謝意ヲ表セシム

三 除名 議員ヲ除名ス

第二十三條 議員中左項ノ一ニ該當スル行爲アルトキハ譴責ス

一 議場ニ於テ議員本分上過誤アルモノ

二 無届缺席ノモノ

第二十四條 議員中左項ノ一ニ該當スル行爲アルトキハ陳謝セシム

- 一 管長ニ對シ不敬ノ言行ヲナセシモノ
- 二 人身上ノ誹毀侮辱ヲナセシモノ
- 三 正當ノ理田ナクシテ我意ヲ主張シ議事ノ妨ケヲナスモノ

第二十五條 議員中左項ノ一ニ該當スル行為アルトキハ除名ス

- 一 宗安ヲ害スル行為アルモノ
- 二 一會期中譴責陳謝三度以上ニ及フモノ

第二十六條 議長議場ニ於テ懲罰事犯ノモノアリト認ムル時ハ常任委員ニ附シ大會ノ決議ヲ經テ之ヲ宣告ス

第二十七條 議員ハ三名以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲナスコトヲ得

但シ懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後二日以内トス

第二十八條 除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決シ管長ニ具狀スルモノトス

第二十九條 議員ハ大會ノ議事自己若クハ法類身上ニ關スルトキハ其議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十條 大會ノ議決ハ別ニ規定アルモノヲ除ク外管長ノ容認ヲ經ルニアラサレハ執行ノ効ヲ有セサルモノトス

第三十一條 議事細則ハ大會ノ協賛ヲ經テ管長之ヲ定ム(大正七年八月廿四日 教令第十號ニテ修正)

第二章 小會

第三十二條 小會ハ大會ニ於テ議員ノ互選シタル議員八人ヲ以テ組織シ其任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第三十三條 大會ニ於テ小會議員ヲ選舉スルトキハ之ト同時ニ補缺員四人ヲ選舉シ置クヘキモノトス

補缺員就職ノ順序ハ選舉ノ際定メ置クヘキモノトス

第三十四條 小會ハ宗憲宗規ニ明記アル事項ノ外臨時豫算及其ノ賦課法其他管長ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ議決ス

第三十五條 小會ハ懲誠審査會及教師詮衡會ノ委員ニ充ツルカ爲メ小會議員ノ互選ヲ以テ常置委員四名ヲ置ク

但シ缺員ノ場合ハ小會議員中ヨリ補缺選舉ス(大正七年八月廿四日教令第十號ヲ以テ本條ヲ加フ)

第三十六條 小會ノ召集ハ管長ニ於テ必要ト認メタルトキ十五日以前期日ヲ定メ通知スヘキモノトス

但シ緊急ノ場合ハ此ノ限りニアラス

第三十七條 第八條第十條第十三條第十四條第十七條第十八條第二十條第二十九條第三十條ノ規定ハ小會ニ準用ス

●宗會大會議事細則

第一章 成立

第一條 議員ハ召集ノ期日午前九時宗務所ニ參集スヘシ

第二條 午前十時ニ至リ議員總數三分ノ二ニ充テタルトキハ議員ハ宗務所ノ委員假議長トナリ議長ノ選舉ヲ行フヘシ

議長ノ選舉ハ投票ヲ以テ行フ

第三條 投票終リタルトキハ幹事得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第四條 投票ノ過半数ヲ得タルモノナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タルモノ二人ニ就キ決選

投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票同數ナルトキハ教師等級ノ高キモノヲ

取リ教師等級相同シキ時ハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ當選人ヲ定ム

第五條 當選人ニシテ當選ヲ辭シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第六條 議長ノ選舉ヲ終リタルトキハ副議長ノ選舉ヲ行フモノトス

副議長ノ選舉ハ議長選舉ノ例ニ準ス

第七條 議長副議長定マリタルトキハ宗務長ハ之ヲ管長ニ上申シテ任命ヲ請フモノトス

第八條 議長ハ議長席ニ着キ先ツ特選議員ノ席次ヲ定メ後抽籤ニ依リ公選議員ノ議席ヲ定ム議席定マリタルトキハ議長ハ成立ノ旨ヲ宗務所ニ通知スベシ

第二章 委員

第九條 大會ハ每會期ノ始ニ於テ常任委員五名ヲ總議員中ヨリ選舉ス

選舉ハ投票ヲ以テ五名ヲ連記スヘシ投票多數ヲ得タルモノヲ以テ當選人トス

第十條 常任委員會ハ宗會條例第十一條第十五條第二十六條ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

第十一條 特ニ一事件附託調査ノ爲特別委員ヲ選舉ス選舉ハ常任委員選舉ノ例ニ同シ

第十二條 委員ニ選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ辭スルコトヲ得ス

但議會ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第十四條 委員長ハ委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同一ナルトキハ委員長ノ決

スル所ニ據ル

第十六條 委員會ハ附託ヲ受ケシ事件ノ發議者ニ對シ其意見ヲ聞クコトヲ得

第十七條 委員會ノ審査終ル時ハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議長ニ提出スヘシ

第十八條 委員會ニ於テ否決シ多數ニ同意ヲ表シ難キ者ハ委員會ノ報告ト共ニ其意見書ヲ提出スルコトヲ得

第十九條 議會ハ期間ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲナサシムルコトヲ得

第二十條 委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者氏名表決ノ數決議ノ要領及其他重要ノ事項ヲ記載スヘシ

委員會議録ハ委員長及委員之ヲ署名シ保存スヘシ

第二章 開會散會及延會

第廿一條 會議ハ通常午前九時ニ始メ午後三時ニ終ル

第廿二條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ散會ヲ宣言ス

議事未タ了ラサルモ午後三時ニ至ル時ハ議長ハ延會ヲ宣言スルコトヲ得

但シ緊急ノ議事ハ此限ニアラス

第廿三條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長ハ其席ニ着キ諸般ノ報告ヲナシ後ニ會議ヲ開

クコトヲ宣言ス

但シ議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第廿四條 出席議員定數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ尙定數

ニ充タサルトキハ延會ヲ宣言スヘシ

但會議中退席者アリテ定數ヲ欠キタルトキ亦同シ

第廿五條 議長散會延會又ハ中止ヲ宣言シタル後ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第四章 議事日程

第廿六條 凡テ會議ニ付スヘキ事件及席次並ニ開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載ス

議長 會議ハ終リニ於テ次會ノ議事日程ヲ報告スヘシ

第廿七條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付開議ノ動議ヲ提出ス

ルモノアルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ宗務所委員ノ同意ヲ求メタル上ハ
討論ヲ用井スシテ議會ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第廿八條 議事日程ヲ指定シタル日ニ於テ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ議長
ハ更ニ其日程ヲ定ム

第五章 議事

第廿九條 議員議案ヲ發議セントスルトキハ其案ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ賛成者ト共ニ連
署シテ之ヲ議長ニ差出スヘシ

第三十條 議員ノ動議ハ總テ一名以上ノ賛成者ヲ待チテ議題トスヘシ

第卅一條 議案ハ凡テ三讀會ヲ經サレハ確定議トナスコトヲ得ス

但緊急事件ハ此限ニアラス

第卅二條 第一讀會ニ於テ議案朗讀シタル後宗務所委員又ハ發議者ハ其趣旨ヲ辨明スルコ
トヲ得又議員ハ議案ニ對シ疑義アルトキハ宗務所委員又ハ發議者ニ説明ヲ求ムルコトヲ
得

但議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第卅三條 前條ノ手續ヲ終リタル上議員ハ議案ノ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘ
キヤ否ヤヲ決スヘシ

若シ委員ニ付託スルノ動議アリ之ヲ可決シタルトキハ其委員ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開

クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其議案ヲ廢棄シタル者トス

第卅四條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ

議員ハ第二讀會ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

但議員ハ豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第卅五條 委員ノ報告ニ關スル修正ハ賛成者ヲ待タスシテ議題トスヘシ

第卅六條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得

但議員異議ヲ提出スルモノアルトキハ其賛成者アルヲ待チ討論ヲ用井スシテ之ヲ決スヘシ

ヘシ

第卅七條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第卅八條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲナスコトヲ得ス

但議案中ニ互ニ抵觸スル事項又ハ現行宗憲宗規ニ抵觸スル事項アルコトヲ發見シタル

トキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此限ニアラス

第卅九條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セント欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其

氏名及反對又ハ賛成ノ旨ヲ記シテ議長ニ通告スルコトヲ得

第四十條 議長ハ前條通告ノ順序ニ依リ討論ヲ始ムルニ當リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシ

メ次ニ賛成者及反對者ヲ可成交互ニ指名發言セシムヘシ

但シ指名ニ應セサルモノハ通告ノ効ヲ失フモノトス

第四十一條 通告ヲナササル議員ハ通告ヲナシタル議員總テ發言ヲナシタル後ニアラサレ

ハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

第四十二條 通告ヲナサスシテ發言セント欲スルモノハ議長ト呼ヒ自己ノ番號ヲ告ケ議長

ノ許可ヲ得テ發言スヘシ

第四十三條 二人以上同時ニ發言ヲ求ムル時ハ議長ノ指定スル所ニヨル

第四十四條 延會又ハ議事中止ノ時發言ヲ終ラサル議員ハ更ハ討論ヲ始ムルトキニ於テ發

言ヲ繼續スルルコトヲ得

第四十五條 討論ハ議題以外ニ涉ルコトヲ得ス

第四十六條 議員ハ同一ノ議題ニ付發言三回ニ及フコトヲ得ス

但質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此限ニアラス

第四十七條 議長自ラ討論ニ與ラントスルトキハ副議長ト代リ議席ニ着スヘシ其問題ノ表

決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第四十八條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣言ス

第四十九條 發言未タ盡キスト唯モ議員ハ討論終局ノ動議ヲ提出スルコトヲ得此場合ニ於

テ議長ハ議會ニ諮ヒ討論ヲ用井スシテ之ヲ決スヘシ

第五十條 議事細別ノ疑義ハ議長之ヲ決ス又ハ議長ハ議會ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

- 第五十一條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其案ヲ具ヘテ議長ニ提出スヘシ
- 第五十二條 同一ノ問題ニ付數箇ノ修正案ヲ提出スル場合ニ於テハ議長表決ノ順序ヲ定ム
若シ議員ニ異議アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待チ討論ヲ用井スシテ之ヲ決スヘシ
- 第五十三條 己ニ成立シタル修正ノ動議ハ議會ノ許サ、ル限リ之ヲ撤回スルコトヲ得ス
- 第五十四條 修正案ハ總テ否決セシトキハ原案ニ就キ決ヲ取ルヘシ
- 第五十五條 表決ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス
- 第五十六條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ其數ニ加フルコトヲ得ス
- 第五十七條 議長表決ヲ取ラントスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告スヘシ議長宣告ヲ
ナシタル後ハ何人モ議題ニ付發言スルコトヲ得ス
- 第五十八條 議長表決ヲ取ラントスルトキハ問題ヲ可トスルモノヲ舉票セシメ舉票ノ定數
ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ
異議ヲ申立三名以上ノ賛成者アルトキハ議長ハ氏名點呼又ハ投票ヲナサシメテ之ヲ決ス
ヘシ
- 第五十九條 總テ表決ヲ取リタルトキハ議長ハ其結果ヲ宣告スヘシ
- 第六章 議事録
- 第六十條 議事録ハ左ノ事項ヲ記載ス
 - 一 管長訓諭

- 一 議會成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時
- 一 開會延會中止及解散ノ日時
- 一 宗務所委員及議員出席者ノ氏名
- 一 會議ニ附シタル議案ノ題目
- 一 議長及委員報告ノ件
- 一 議題トナリタル動議及動議者ノ氏名
- 一 決議ノ事件
- 一 表決及可否ノ數ヲ計算シタル其數
- 一 其他議會ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第六十一條 議員議事録ニ記載シタル事實ニ對シ異議アルトキハ議長ハ幹事ヲシテ答辯セ
シムヘシ其答辯ニ服セス又議長ノ處置ニ對シテ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用井スシテ
議會ノ決議ヲ取ルヘシ
- 第六十二條 議事録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長及議事録署名委員幹事之ニ
署名捺印スヘシ
- 第七章 建議及議案ノ上申
- 第六十三條 議會ノ建議書ハ議長ヨリ管長ニ差出スヘシ
- 第六十四條 宗務所ヨリ提出ノ議案ニシテ可決ノモノ又ハ議員ノ提出シタル議案ニシテ可

決ノモノハ議長ヨリ管長ニ上申スヘシ

第八章 請願

第六十五條 請願ヲ紹介スル議員ハ其表紙ニ紹介議員氏名ヲ書スヘシ

第六十六條 審査委員ハ受理ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第六十七條 審査委員ハ審査結果ニ從ヒ左ノ區別ヲナシ其大要ヲ記シ議會ニ報告スヘシ

一 議會ニ付スヘシトスルモノ

一 議會ニ付スルヲ要セストスルモノ

一 宗務所ヘ廻附スルモノ

第六十八條 審査委員ハ議會ニ付スヘシトスルモノニ付テハ特別ノ報告ヲナスヘシ

第六十九條 審査委員ニ於テ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲナス者ナキトキハ委員ノ決議ヲ以テ確定トス

第九章 欠席及辭職

第七十條 議員事故ノ爲數日間會議ニ出席スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具ヘ日數ヲ定メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

但期限内ニ出席スルトキハ請暇許可ノ效ヲ失フ

第七十一條 議員疾病又ハ當日止ムヲ得サル事故ノ爲議會ニ出席スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具ヘ欠席届書ヲ差出スヘシ

第七十二條 議員辭職セントスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出スヘシ

第七十三條 議長ハ辭表ヲ朗讀セシメン討論ヲ用井スシテ其許可ヲ決セシメ許可スルニ決セシトキハ之ヲ管長ニ上申スヘシ

第七十四條 閉會中議員辭職セントスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出シ議長之ヲ許可スヘシト認メタルトキハ管長ニ上申シ補欠選舉ノ手續ヲナスヘシ

第十章 秩序

第七十五條 議員ハ正衣ヲ被着シ總テ略服又ハ異様ノ服裝ヲナスヘカラス

第七十六條 會議中ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除クノ外總テ書籍類ヲ閱讀スルコトヲ得ス

第七十七條 何人モ議事中喧噪シ他人ノ朗讀及演說ヲ妨ルコトヲ得ス

第七十八條 毎日開會ノトキハ佛祖ノ法樂ヲ行フヘシ

第七十九條 議會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニアラサレハ退席スルコトヲ得ス

第十一章 傍聽

第八十條 傍聽人ヘハ總テ傍聽券ヲ付與ス

第八十一條 傍聽ヲ求ムルモノハ議員ノ紹介ニ依ル

第八十二條 議員傍聽者ヲ紹介スルトキハ傍聽紹介人トモ其氏名ヲ傍聽券ニ記入スヘシ

第八十三條 傍聽人ハ總テ幹事ノ指揮ヲ從フ

第八十四條 傍聽席ニ在ルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 僧侶ハ正衣ヲ着スヘシ
- 一 担徒信徒ハ羽織又ハ袴ヲ着スヘシ帽子又ハ外套ヲ着スヘカラス
- 一 飲食又ハ喫煙スヘカラス
- 一 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス
- 一 喧擾シ議事ヲ妨害スヘカラス
- 第八十五條 傍聽人ハ何等ノ事由アルモ議場ニ入ルコトヲ得ス
- 第八十六條 秘密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾スルトキ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ幹事ヲシテ其命令ヲ行ハシム

第十二章 懲 罰

- 第八十七條 議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得
- 第八十八條 議長ハ討論ヲ用井スシテ議會ノ決ヲ取り之ヲ審査委員ニ付スヘシ
- 第八十九條 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス
- 第九十條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス
- 但シ議長ノ許可ヲ得テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得
- 第九十一條 議長ノ制止又ハ命令ニ隨ハサルモノハ懲罰トシテ審査委員ニ付スルコトヲ得
- 第九十二條 審査委員ハ議長ノ許可ヲ得テ本人ヲ喚問スルコトヲ得

以 上

○小會常置委員選舉施行細則(大正七年十月二日教令第十一號ヲ以テ發布)

- 第一條 宗規第三號宗會條例第三十五條ニ據ル小會常置委員選舉ハ小會閉會中之ヲ行フ時ハ左項ニ依ル
 - 第一項 選舉會ハ宗務所ニ於テ之ヲ開キ其ノ期日ハ宗務所ヨリ告示シ選舉用紙ハ宗務所ヨリ各小會議員ニ配付ス
 - 第二項 小會議員ハ前項ノ告示及投票用紙ヲ受ケタル時ハ小會議員中ヨリ四名ヲ連記投票シ選舉期日マデニ宗務所ニ提出スヘシ
 - 第二條 選舉長及立會人ハ小會議員中ヨリ管長之ヲ指命ス
 - 第三條 選舉終了シタル時ハ選舉長ハ其結果ヲ宗務所ニ上申スヘシ
 - 第四條 當選者ニハ管長ヨリ當選狀ヲ交附ス
 - 第五條 補缺選舉ヲ行フ時ハ本規則ニ依ル

●宗規第四號 宗會議員選舉條例

- 第一條 本條例ハ宗憲第四章第三十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 大會公選議員ハ每選舉區ヨリ選出セシム其選舉區及選出議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

大會議員選舉區

第一區	京都府	和歌山縣	大阪府	奈良縣
	愛媛縣	島根縣	岡山縣	山口縣
	廣島縣	鹿兒島縣	長崎縣	宮崎縣
	大分縣	福岡縣	佐賀縣	熊本縣
	沖繩縣	高知縣	香川縣	德島縣
第二區	兵庫縣			
	福井縣	石川縣	富山縣	滋賀縣
	岐阜縣	愛知縣	三重縣	靜岡縣
第三區	山梨縣	長野縣南部		
第四區	長野縣北部	群馬縣		

第五區	埼玉縣		五人
第六區	東京府	神奈川縣	二人
第七區	千葉縣安房國		二人
第八區	千葉縣上總國		二人
第九區	千葉縣下總國		二人
第十區	茨城縣	栃木縣	二人
第十一區	福島縣		一人
第十二區	新潟縣		二人
第十三區			一人

宮城縣 巖手縣

第十四區

一人

青森縣 山形縣 秋田縣 北海道

第三條 大會特選議員ノ選出ハ左ノ各項ニ依リ管長之ヲ特選ス

一 特等五等以上ノ正住職ヨリ四人

二 一派ニ對シ功勞アル者ヨリ二人

第四條 每選舉區ニ於ケル議員選舉人ハ左ノ資格ヲ具有スルモノニ限ル

一 其選舉區内ノ寺院正住職タル者

二 權律師以上ノ者

第五條 每選舉區ニ於ケル議員被選人ハ左ノ資格ヲ具有スル者ニ限ル

一 其選舉區内ノ寺院正住職タル者(大正七年八月廿四日修正)

二 權少僧都以上ノ者

三 年齡滿二十五年以上ノ者

第六條 左項ノ一ニ該當スル者ハ選舉人及被選舉人タルヲ得ス

一 懲戒處分中ノ者

二 停職及降級ニ處セラレタル後滿一ケ年ヲ經サル者

三 貳期以上宗費滯納中ノモノ

第七條 宗務所職員ハ議員タルコトヲ得ス

第八條 議員ノ選舉ハ宗務所ニ於テ之ヲ行フ

第九條 特選議員ノ選定ハ公選議員選舉期日五十日以前之ヲ行ヒ第十條公選議員ノ選舉期日ノ告示ト同時ニ其姓名ヲ告示スルモノトス

但シ補缺選舉ノ場合ハ此ノ限リニ非ス

第十條 管長ハ公選議員ノ選舉ヲ行フトキ五十日以前ニ選舉期日ヲ定メ告示スヘキモノトス

但シ補缺選舉ノ場合ハ此ノ限リニ非ス

第十一條 前條ノ告示ヲ爲シタルトキハ宗務所ハ選舉期日ノ前五十日ノ現在ニ依リ選舉人名ヲ調査シ其日ヨリ十日以内ニ選舉區毎ニ選舉人名簿ヲ作り其副本ヲ告示ス

前項告示ニ異議アルモノハ其告示ノ日ヨリ十五日以内ニ宗務所ニ申立ツヘシ宗務所ハ其申立ニ對シ選舉期日ノ前五日マテニ之ヲ決定シ其修正スヘキモノハ之ヲ修正シ其部分ヲ當該選舉區ニ告示スヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前五日ヲ限リ確定スコノ確定名簿ニ登載セラレサル者ハ選舉人タルコトヲ得ス登載セラレタル者ト雖モ選舉ノ資格ナキ者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得

ス(大正七年八月廿四日教令第十號修正)

第十二條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ行フトキ

宗規及規則

七十一

ハ前條確定ノ選舉人名簿ヲ適用ス

第十三條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ其書式ヲ定ムル左ノ如シ
投票用紙

教師稱號	姓名
右大會議員ニ選舉ス	
何府縣郡市町村	
何寺住職	
年月日	教師稱號 姓名 名印

第十四條 選舉人ハ前條書式ニヨリ投票ヲ作り自ラ封緘ノ上選舉期日前日マテニ宗務所ニ差出スヘシ投票ヲ郵便ニ付シ差出ストキハ書留郵便トスヘシ一旦差出シタル投票ハ取消シ又ハ變更ヲナスコトヲ得サルモノトス

但シ前項期限ヲ過キ到着セル投票ハ無効トス(同上修正)

第十五條 投票ノ開緘審査ハ選舉期日ニ於テ選舉長及立會人三名以上ノ立會ノ上之ヲ行フ選舉長ハ宗務所職員ノ内ニツキ又立會人ハ一寺住職ニシテ權律師以上ノ者ノ内ニツキ管長之ヲ指名ス

第十六條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人ニ非サル者ノ投票
- 二 被選舉人ニ非ル者ヲ選舉セルモノ
- 三 選舉人又ハ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 選舉人實印ナキモノ
- 五 自選ヲナシタルモノ
- 六 重複セル投票(前後共)(同上加項)

第十七條 投票ノ効力ニ關シ疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決ス

第十八條 同時ニ二人以上ノ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ投票ニ記載ノ人員其選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモノ其投票ハ無効トセス其定數ニ過クル者ハ末尾ニ記載ノ人名ヨリ順序棄却スルモノトス

第十九條 議員選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票同數ナルトキハ教師等級ノ高キモノヲ取り教師等級相同シキトキハ年長者ヲ取り年齢相同シキトキハ抽籤ヲ以テ當選者ヲ定ム

第二十條 選舉終リタルトキハ選舉長ハ當選人ヘ通知スルモノトス
當選人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ選舉長ニ對シ諾否ヲ届出ツヘキモノトス

第二十一條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ前條期限内ニ諾否ノ届出ヲナサ、ルトキハ其當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第二十二條 當選人當選ヲ辭シタルトキハ選舉長ハ次點者ヲ以テ當選人トシテ第二十條ノ手續ヲナスヘキ者トス

次點者尙其當選ヲ辭シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フモノトス

第二十三條 當選人確定シタルトキハ管長ヨリ當選證ヲ交附ス

第二十四條 選舉長ハ選舉ヲ行フ都度選舉錄ヲ製シ立會人ト連署ノ上投票ヲ併セ之ヲ宗務所ニ差出スヘキモノトス

前項ノ選舉錄及投票ハ一年間之ヲ保存スヘキモノトス

第二十五條 宗務所ハ選舉ヲ終リタル都度其顛末ヲ告示スヘキモノトス

第二十六條 本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

○宗會議員選舉條例施行細則(大正元年十二月敕令第二號發布 同七年八月廿四日敕令第十號修正)

第一條 本細則ハ宗規第四號宗會議員選舉條例第二十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 大會特選議員ヲ撰定シタルトキハ管長署名ノ特選證ヲ交附ス之ヲ受領シタル特選議員ハ直ニ承諾ノ届書ヲ差出スヘシ

第三條 選舉人名簿ニ對スル異議申立ハ本條例第十一條第二項ノ期日内ニ宗務所ニ着セサ

レハ時効消滅ス

前項異議申立ハ宗務支所ヲ經由スヘシ若シ時効消滅ノ虞アルトキハ直ニ宗務所ニ申立ツヘシ

第四條 確定選舉人名簿修正結了ノ時ハ本條例第十一條第二項ノ期日内ト雖モ直ニ之ヲ告示ス

第五條 確定選舉人名簿ヲ告示シタル後ニアラサレハ投票スルコトヲ得サルモノトス

第六條 投票用紙ハ宗務所ニ於テ調製シ確定選舉人名簿告示ト同時ニ宗務支所ニ發送ス宗務支所ハ直ニ選舉人ニ交附シ決シテ遲怠スヘカラス

若シ前項交附遲怠其他ノ事故アル時ハ選舉人ハ直接宗務所ニ投票用紙下附ヲ申請スルコトヲ得、此場合ニハ宗務所ハ直ニ之ヲ交附スヘシ

第七條 前條ニ依リ宗務所調製ノ投票用紙ヲ得カタク投票差出ノ時効ニ關スルトキハ選舉人ハ自ラ本條例第十二條ノ書式ニ依リ用紙ヲ作り投票スルコトヲ得

但シ宗務所投票用紙ニ類似ノ印刷用紙ヲ用ユルコトヲ得サルモノトス

第八條 投票用紙ニ被選人名ハ必ス選舉人自ラ之ヲ記スヘキモノトス

第九條 投票封筒ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

第何區選出
表
大會議員投票

裏 印	何府何市何町 何縣何郡何村 何寺住職	選舉人 級 氏 名	年 月 日	印
--------	--------------------------	-----------	-------	---

第十條 投票ヲ郵送スル封筒ハ左ノ様式ニ依ルヘシ

東京市芝區愛宕町一ノ四
智山派宗務所御中

第何區大會議員投票在中

但シ裏面ハ年月日差出人等ヲ如例記スヘシ

第十一條 如何ナル事由アルモ二重投票ヲ爲スコトヲ許サス

第十二條 本條例及本細則中ノ期日時効ノ時間ハ其日ノ執務時間ヲ限リトス不得止事故ニテ延着ヲ豫メ申報スルモノニ限り其日ノ午後十二時迄ハ特ニ之ヲ受理スヘシ

第十三條 宗務支所ニ於テ便宜投票ヲ取集メ宗務所ニ差出ストキハ左ノ様式ニ依リ進達目錄ヲ添附スヘシ隣寺其他便宜選舉人合同シテ投票ヲ差出ストキモ亦同シ

進達目錄

一、何區選出大會議員投票何票、選舉人級氏名投票受付日時以下列記ノコト
右取集(又ハ合同)進達仕候也

年 月 日

何々支所管理署名捺印

又ハ選舉人代表級氏名捺印

選舉長、級、氏名殿

本條ニ依リ進達シタル投票ト雖モ本條例第十四條期日及本細則第十二條ノ時間内ニ宗務所ニ着セサルモノハ無効タルハ勿論トス

宗規及規則

第十四條 宗務所ハ選舉投票ニ關シテハ嚴正ニ之ヲ監督シ必要ト認ムル場合ニハ派出又ハ召喚シテ調査ヲ爲シ若クハ警告ヲ與フルコトアルヘシ

第十五條 宗務所内ニ投票受附主任ヲ置キ選舉長ヲシテ嚴正ニ受附後ノ投票ヲ管理セシム

第十六條 選舉投票ヲ爲シタルモノニアラサレハ選舉立會人タルコトヲ得ス

第十七條 確定被選人名簿告示ト同日ニ選舉長ヲ指命シ之ヲ告示ス選舉立會人ハ開票五日以内ニ之ヲ指命ス

第十八條 當選通知及承諾届ノ様式ヲ定ムルコト左ノ如シ
當選通知書
年月日大會公選議員選舉會相關候處第何區投票開緘ノ結果貴祚高點當選ニ付此段及通知候也

年月日 右選舉長 級 氏 名印

級 氏 名 殿
當選承諾届

年月日附御通知月日受領第何區選出大會公選議員ニ小祚高點當選ノ趣承諾仕候此段及御届候也

何支所下市町何寺住職

年月日 級 氏 名印

選舉長 級 氏 名 殿

第十九條 當選通知書及當選承諾届書ヲ郵送スルトキハ書留トス本條例第二十條第二項ノ通知受領時日ニ異議アルトキハ書留郵便ノ受領ヲ以テ之ヲ證スル者トス

第二十條 前項受領時間又ハ届書受付時間ニ異議ナキト認ムルトキハ書留郵便ニ附スルニ及ハス

第二十一條 本條例第二十二條第二項ノ場合ニハ選舉長ヨリ其顛末ヲ管長ニ具申ス
第二十二條 本條例及本細則ノ規定ニ違スル行爲ニ對シテニ其旨選舉長ニ具申スヘシ

第二十三條 前項ニ關シ選舉長ノ決定ニ對シ不服アルモノハ管長ニ裁定ヲ申請スヘシ

第二十四條 本條例及本細則ノ規定ニ違シ管長ニ於テ選舉無効ナリト裁定ヲ與ヘラレ若クハ選舉不成立ニ歸シタル當該區ニハ更ニ選舉投票ヲ命スルモノトス

第二十五條 本條例第十二條及本細則第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於ケル再選舉ヲ執行スルトキハ十五日以前ニ選舉期日ヲ定メ之ヲ發令スル者トス

第二十六條 本條例ニヨリ當選セル大會公選議員ハ他區へ轉住セル場合ハ其資格ヲ失フモノトス

●宗規第五號 教育條例(明治三十八年十月二十八日內務大臣認可同年十一月二十二日)
(甲第一號發布大正三年六月八日文部大臣認可同日修正發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第五章第三十四條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 宗 學 校

第二條 宗學校ヲ本派私立大學智山勸學院ト稱シ總本山智積院中ニ設置ス

第三條 本派私立大學智山勸學院ニハ本派僧侶ニシテ交衆以上ノ行位ヲ了シ左ニ該當スルモノヲ入學セシム

一 豫科 中學卒業者、專門學校入學者檢定試點合格者、專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ指定セラレタルモノ

二 本科 豫科卒業者

三 選科 專門學校卒業者(大正七年八月廿四日)
(教令第十號ヲ以テ修補)

四 別科 中學卒業以上ノ學力ヲ有スル者ト認メタルモノ

第四條 本派私立大學智山勸學院ノ修業年限ハ四ケ年トス

第五條 本派私立大學智山勸學院卒業者ニシテ特ニ宗學ノ蘊奧ヲ窮メントスルモノヲ留學生トシテ宗内ノ碩德或ハ他山ノ學匠ニ就テ研究セシム

第六條 本派私立大學智山勸學院卒業後留學生トシテ三ケ年以上研究シタルモノ或ハ同學

院ノ教授ニ從事セルモノハ左ニ掲クル學階ニ補セラル、コトヲ得

學階等級

一等學師 二等學師 三等學師 四等學師 五等學師

第七條 學階ハ本派私立大學智山勸學院長ノ具狀ニ依リ管長之ヲ補ス

第八條 本派私立大學智山勸學院卒業者及ヒ在學中ノ者ニシテ布教堪能ノ者ハ院長ノ具狀ニヨリ相當ノ教師等級ニ補セラル、コトヲ得

第九條 本派私立大學智山勸學院ノ學科其他ノ規則ハ教育會ノ決議ヲ經テ管長別ニ之ヲ定ム

第三章 智山中學

第十條 智山中學ヲ東京ニ置ク

第十一條 智山中學ハ本派僧侶及檀徒信徒ノ子弟ニ普通學ヲ教授スル所トス

第十二條 智山中學ハ小學校高等科二學年修學ノ者又ハ試驗ノ上之ト同等已上ノ學力アリト認定シタル者ヲ入學セシム

第十三條 智山中學ノ學科及規則ハ教育會ノ決議ヲ製テ管長別ニ之ヲ定ム

第四章 尼衆學校

第十四條 尼衆學校ハ本派私立大學智山勸學院ノ附屬トシテ設置ス

第十五條 尼衆學校ハ本派尼僧ニ宗意安心及簡易ナル普通ノ佛典ヲ教授スル所トス

第十六條 尼衆學校ノ年限ハ三ケ年トス

第十七條 尼衆學校ノ學科其他ノ規則ハ教育會ノ決議ヲ經テ管長別ニ之ヲ定ム

補則

第十八條 智山中學ハ中學校令ニ依リ許可ヲ得ル迄ハ之ヲ開設セスシテ公私立認可中學校

ニ於テ修業モシム

第十九條 本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●本派私立大學智山勸學院ニ法資入學ノ件(大正三年三月二十
五日教令第五號)

本派私立大學智山勸學院別記ノ通設立認可セラレタルニ付テハ派内法資等ヲ登院入學セシムヘシ

●本派私立大學智山勸學院設立認可ノ件(大正三年三月廿
七日學告第一號)

本派私立大學智山勸學院別記ノ通設立認可申請中ノ處本日內務大臣ヨリ認可相成候ニ付此段開申候也

大正三年三月二十五日

新義真言宗智山派教學財團理事長

設立者 權中僧正 宮 本 隆 範

新義新言宗智山派管長

大僧正 伊 藤 宗 盛 殿

文部省京專二七號

新義真言宗智山派教學財團理事長

宮 本 隆 範

大正二年十二月二十三日附申請專門學校令ニ依リ新義真言宗智山派私立大學智山勸學院設置ノ件認可ス

大正三年三月二十五日

文部大臣 大 岡 育 造

●同學院徵兵令第十二條認定ノ件(大正三年四月十
一日學告第四號)

本日官報ニ左ノ通り告示セラレタリ

文部省告示第七十號

新義新言宗智山派智山勸學院

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス但シ認定ノ効力ハ別科ニ及ハス

大正三年四月十一日

文部大臣 大 岡 育 造

●主管顧問ノ件(大正三年四月十
一日學告第一號)

本學院ハ本派化主現下御主管遊ハサレ本學院顧問左ノ通り囑托セラレタリ

顧問囑托

權大僧正 石 川 照 勤

宗規及規則

同 同 同

中僧正 佐伯 隆 運
文學博士 谷 本 富
文學博士 柳 亮 三 郎

●教育方針ノ件(大正四年三月六日學告第十一號)

本年三月五日附宗牒第八號ヲ以テ本學院教育方針學生監督方法其他ノ項目別記通牒セラレタリ

宗牒第八號

本派私立大學智山勸學院ニ關スル件

- 一 教育方針ハ本派僧侶トシテ完全ノ教師ヲ育成スルコト
- 二 學生監督方法ハ自修自覺ヲ期待スト雖現在ノ情態ニアツテハ必要ノ校規ヲ設ケ嚴正ニ之ヲ督勵スルコト
- 三 本派宗學所トシテ健實ナル校風ヲ涵養セシムルコト
- 四 教職員ヲ増シ授業及ヒ其他ノ内容ヲ完全ニ充實スルヲ期スルコト
- 五 豫科ノ前後期ヲ廢シ一學年三學期トスルコト
- 六 學生ノ學資ヲ校規トシテ職員ニ保管スルコトヲ廢止スルコト
- 七 學生ノ學資保管ニ關シテハ諸師僧ニ於テ必要ト認ムルトキハ能屬ヲ依頼シ能屬ハ師

僧ニ代ハリ學生ヲ充分保護取締ヲ爲スコト

八 學生ノ風儀ニ關シ擔任教師ニ負責ヲ勵行スルコト

九 補給金ヲ控除シタル飯料不足金額及ヒ舍費等ヲ其月ニ納附セサル學生アルトキハ之ヲ該師僧ニ通知シ翌月十日以内ニ完納セサルトキハ退舍ヲ命スルコト

但シ該師僧ハ該學生ノ不足飯料ヲ辨納スル義務アルモノトス

十 不良學生ハ勿論學則校規院長ノ命令ヲ遵守セス能屬ヲシテ説諭セシメ尙改悛ノ見込ナキモノハ該師僧ニ通知シテ諭旨休校若クハ退學ヲ出願セシムルコト
以上

●私立大學智山勸學院職員任免規定(大正七年六月廿二日教令第七號發布)

第一條 院長ハ教學財團理事長ノ推選ニ依リ官廳ノ許可ヲ受ケ本派管長之ヲ任免ス

第二條 教授助教授學監ハ教授會ニ諮詢シ院長適當ナリト認メタルトキハ之ヲ理事長ニ申請シ理事長ハ官廳ノ許可ヲ受ケタル後管長ニ申請シ管長之ヲ任免ス

第三條 舍監以下ノ職員ハ院長之ヲ任免ス
但シ院長任免ヲ行フトキハ其旨財團理事長ニ同意ヲ求メ理事長ハ官廳ニ對スル手續ヲ了シタル後管長ニ報告ス

第四條 刑法ノ宣告懲戒處分又ハ左ノ各項ニ該當スルモノニアラサレハ免職セララルコト

ナシ

一 規則制度又定員ノ改正ニ依リ廢職又ハ過員ヲ生ジタルトキ

二 服務年限ノ規定アルモノ、外疾病又ハ自己ノ便宜ニ依リ免職ヲ願出タルトキ
但シ疾病等ノ場合ハ校醫ニ意見ヲ開陳セシメ教授會ニ於テ適當ト認メタルトキ

第五條 院長ハ教授會ヲシテ左記事項ヲ審査セシム

一 職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二 職務ヲ怠リタルトキ

三 職務上ノ威嚴又ハ信用ヲ失ヒタルトキ

第六條 懲戒種類左ノ如シ

一 免職

二 減俸、但シ一ヶ月以上一ヶ年以下月俸ノ三分ノ一ヲ減スルコト

三 謹責

第七條 懲戒處分ハ院長之ヲ處置ス

以上

●本派留學生規則(大正五年二月一日教令第八號)

第一條 本派留學生ハ宗務長ニ於テ左項ニ該當スルモノヲ選拔シ所修ノ學科及ヒ學處ヲ指

定シ留學ヲ命スルモノトス

一 本派私立大學智山勸學院卒業者若クハ之レト相當セル學力ヲ有スル本派僧侶ニシテ
宗學ノ蘊奧又ハ宗門須要ノ學術ヲ研究セント志望スルモノ

二 信念堅固身體健康ニシテ留學期間修學シ義務年限中職務ニ從事シ得ルモノ
但シ學科ノ難易等ニ依リ宗務長ノ許可アルトキハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第三條 本派留學生ノ義務年限ハ其留學期間ノ二倍年數トシ留學期滿後宗務長ノ指命スル
宗門ノ職務ニ従事スルモノトス

第四條 本派留學生ニハ壹ヶ月金拾五圓ツ、學資ヲ支給ス但シ毎年八月ハ暑休ニ付キ支給
セス

第五條 本派留學生タラント欲スルモノハ別記様式ニ依リ留學願書履歷書誓約證正副各二
通ヲ所轄宗務支所ヲ經テ宗務所ニ提出スヘシ

第六條 宗務長ハ本派留學生選拔學科及學處ノ指定ニ關シテハ本派私立大學智山勸學院長
ニ諮詢シテ其推薦ニ依リ之ヲ決定スルモノトス

第七條 保證人中死其他保證ニ適セサル事故ヲ生シタルトキハ更ニ保證人ヲ立ツルコトヲ
要ス

第八條 本派留學生ハ宗務長ノ許可ヲ得スシテ指定セラレタル學科又ハ學處ヲ變更スルコ

トヲ得ス

第九條 本派留學生ハ留學中其研究ノ學科書目講師等報告ヲ開講前ニ其講了若クハ學年ノ終リニ留學年報ヲ宗務長ニ提出スヘシ

第十條 本派留學生ハ留學滿期ニ際シテハ留學卒業論文ヲ其所修學科ニ就キ作試シ宗務長ニ提出スルコトヲ要ス

第十一條 本派留學生ハ品行不良又ハ學業怠惰若クハ本則及命令ニ違背シタルトキハ留學ヲ解除シ其支給シタル學資ハ本人又ハ保證人ヨリ一時ニ返納セシム

第十二條 本派留學生ハ留學中病氣其他避クヘカラサル事故アルトキハ一ケ年以内休學又ハ退學ヲ許可スルコトアルヘシト雖トモ休學中ハ學資ヲ支給セス退學ニ際シテ事情ニ依リ其既ニ支給セル學資ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十三條 本派留學生ハ義務年限中病氣其他避クヘカラサル事故アルトキハ相當期間服務猶豫ヲ許可スト雖トモ二ケ年ヲ越ユル時ハ事情ニ依リ其學資ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十四條 本派留學生ノ監督ハ本派私立大學智山勸學院長若クハ教學課長ヲ以テ之ニ充ツ本則第九條報告及第十條論文ハ監督ヲ經由スヘシ

第十五條 本則施行及ヒ前各條以外留學生ニ關スル規定ハ宗務長之ヲ定ム
留學願

(僧籍) 何

(學簿) 何

學科 何々

學處 何々

級 氏 名

前顯學科及學處ニ留學志望仕候間御許可被成下度履歷書誓約證相添此段保證人連署願上候也

年月日

右本人 級 氏 名印

右保證人何々寺住職

師 僧 級 氏 名印

新義眞言宗智山派宗務長級氏名殿

(支所奥印ヲ要ス)

履歷書 (詳細ニ記スヘシ)

印紙 誓約證

拙僧儀今回本派留學生ニ御指命ヲ蒙リ候上ハ本派留學生規則及教示命令等堅ク遵守可仕ハ勿論滿期後義務年限中屹度服務仕リ信念堅固ニ教學ニ勵精盡力可致候萬一規則命令ニ違背シ學資ノ償還ヲ命セラレタルトキハ本人又ハ保證人ニ於テ速ニ辨償完納可仕候此段誓約證差上候也

年月日

何府縣何市郡何町村何寺住職又ハ級氏名法資
 右本人 級 氏 名印
 何府縣何市郡何町村何寺住職
 保證人 師僧 級 氏 名印
 何府縣何市郡何町村何番地
 保證人 親權者 氏 名印

新義真言宗智山派宗務長級氏名殿

(支所奥印ヲ要ス)

留學推薦狀

(僧籍) 何々

級 氏 名
年月日生

一 學科 何々
 一 學處 何々
 右本學院教職員會ノ議ヲ經テ留學生適材ト相認候條此段推薦仕候也
 年月日 本派私立大學智山勸學院長

級 氏 名印

新義言宗智山派宗務長級氏名殿
以上

●本派中學生監督規則(大正四年三月 教令第三號)

- 第一條 宗規第五號教育條例第十九條ニ依リ官公立認可中學校ニ於テ修學スル本派得度改名以上ノ僧侶タル中學生ヲ監督スル爲メニ此規則ヲ設ク
- 第二條 本派中學生ノ監督ハ宗務所教學課ニ於テ宗務長ノ旨ヲ稟ケテ之ヲ主宰ス
- 第三條 本派中學生ノ師僧ハ之ヲ保護教養スル義務ヲ負ヒ師僧及親權者若クハ之ニ代ルヘキモノハ本派ニ對シ本人ニ關スル保證ノ責ニ任ス
- 第四條 各地宗務支所管理若クハ適當ノモノヲ本派中學生監督教師ニ選任ス
 監督教師ハ教學課ノ詮考ニヨリ宗務長之ヲ指命ス
- 第五條 監督教師ハ本派中學生ニ對シ左項ヲ實施勵行シ其責ニ任ス
 一 信念修養ニ關シ每學期一回以上必ス相當ノ講演ヲ爲シ平生用心實修スヘキ方法ヲ教訓シ之ヲ勵行セシム
 二 學業勤惰操行等ニ關シ每學期一回以上其修學スル學校々長若クハ受持教師ニ知照シテ之ヲ督勵ス

三 前兩項ニ關シ必要ト認ムルトキハ師僧ニ警告シ尙實修又ハ改悛セザルトキハ之ヲ具伸スヘシ

四 每學年末ニハ必ス其學年間ニ於ケル監督ノ成績ヲ報告スヘシ

第六條 本派中學生ノ監督ニ關シ必要ト認ムルトキハ教學課ニ於テ實際ヲ視察シ若クハ召喚シテ調査スルコトアルヘシ

但所轄宗務支所ニ委託調査スルコトヲ得

第七條 本派中學生ノ入學、退學、休校、轉校等ハ其都度十日以内必ス届出ヘシ

第八條 本派中學生ハ每學年末ニ其學年級試驗成績ヲ當該學校長ノ證印ヲ受ケ届出ヘシ

第九條 本派中學生ハ左ノ二種ニ分ツ

甲種生 每學年末ニ本派ヨリ一定ノ學資補給金ヲ受クルモノ

乙種生 前項ノ學資補給ヲ受ケサルモノ

第十條 甲種生志願者ハ當該學校ノ在學證明證並ニ戶籍謄本又ハ抄本ヲ添附シ別記第一號書式ニ依リ所轄宗務支所ヲ經由シテ出願スヘシ

前項出願ノ際ニ於ケル連署保證人死亡又ハ變更ヲナシタルトキハ直ニ届出ヘシ

第十一條 乙種生ハ別記書式第二號ニ依リ届出ヘシ

第十二條 本派中學生ニシテ中學校全課程修學中ニ於ケル本則監督法ニ依リ其行爲成績等

本派私立大學智山勸學院學則第二十七條第一項第二項ニ該當シ改悛ノ實效ナキモノハ同

學院ニ入學スルコトヲ許サレサルコトアルヘシ

第十三條 本則ハ發布ノ日ヨリ實施ス

現ニ本派中學校生徒取締規定ニ依リ甲種生タルモノハ本則ニ依ル甲種生ト認ム

第十四條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ宗務所ニ於テ之ヲ定ム

己 上

書式第一號

本派中學甲種生認許願

何府縣何宗務支所部内

何府縣市郡區町村何等地何寺職級氏名法資

氏 名

年月日生

私儀何年何月何日何學校ニ入學致候間本派規定ノ中學甲種生ニ御認許被成下度本派御規則命令等堅ク遵守仕候依之履歷書戶籍謄本又ハ抄本並ニ在學證明書相添へ此段保證人連署上願仕候也

年 月 日

右本人

氏

名印

右師僧何寺住職
 保證人 級 氏 名印
 右親權者又ハ之ニ代ハルモノ
 何府縣市町村何番地戸主職業
 保證人 氏 名印

新義真言宗智山派宗務長級氏名殿
 前書取調候處相違無之候ニ付與印進達仕候也

年月日

何府縣何々宗務支所管理
 級 氏 名印

書式第二號

本派中學乙種生届

何府縣宗務支所部内
 何府縣市郡町村何等地何寺住職級氏名法資
 氏 名

年月日生

私儀何年何月何日何々中學校ニ入學仕候尤モ本派規定ノ乙種生トシテ本派御規則命令等堅ク遵守可仕候依之履歷書戸籍謄本又ハ抄本並ニ在學證明書相添へ此段保證人連署御届申上

候也

年月日

右本人 氏 名印
 右師僧何寺住職
 保證人 級 氏 名印
 右親權者又ハ之ニ代ハルモノ
 何府縣市町村番地戸主職業
 保證人 氏 名印

新義真言宗智山派宗務長級氏名殿

前書取調候處相違無之候ニ付與印進達候也

年月日

何府縣何々宗務支所管理
 級 氏 名印

●本派中學生學資補給規則(大正四年三月 教令第三號)

- 第一條 甲種生ニハ一學年間金貳圓拾七圓五拾錢ツ、學資ヲ補給ス
- 第二條 甲種生ニシテ休校、退學、轉校セント欲スルモノハ病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ其他ノ理由ナキトキハ相當ノ證明書ヲ添ヘテ許可ヲ出願スルコトヲ要ス

第三條 甲種生ハ認許出願ノ學年ニアツテハ其出願書受付ノ月ヨリ月額金貳圓五拾錢ツ、ノ計算ヲ以テ學資ヲ補給ス但毎年八月ハ之ヲ算入セス

第四條 甲種生ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ其一學年間ノ資補給ヲ停止ス

- 一 宗規第十二號賞罰條例第九條懺悔ノ懲誠ニ處セラレタルモノ
- 二 停學處分ヲ受ケタルモノ
- 三 學年試験ニ不合格又ハ受験セスシテ原級ニ止マルモノ
- 四 本派中學監督規則第五條第一項ニ違シテ其情重キモノ

第五條 甲種生ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ學資ノ補給ヲ禁止ス

- 一 宗規第十二號賞罰條例第十條第十一條第十二條各項ニ該當シ懲誠ニ處セラレタルモノ
- 二 許可ナクシテ休校又ハ轉校シタルモノ
- 三 學年試験ニ不合格又ハ受験セス二回以上原級ニ止マリ進學ノ見込ナキモノ

第六條 甲種生ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ既ニ補給シタル學資金額ヲ保證人ヨリ辨償シ本派宗務所ニ返納セシム

但以後ノ學資補給ヲ禁止スルハ勿論ナリ

- 一 宗規第十二號賞罰條例第十三條第十四條各項ニ該當シ處分セラレタルモノ
- 二 退學處分ヲ受ケタルモノ

三 許可ナクシテ中途退學シタルモノ

四 在學中ハ勿論中學卒業後五ケ年以内ニ轉派其他ノ事故ニヨリ本派ノ僧籍ヲ脱シタルモノ

五 本派僧侶タル木分ニ違反シ將來本派教師タル見込ナキモノ

第七條 甲種生ノ師僧ニシテ其法資ノ屬スル寺院ノ宗費ヲ納メサルトキハ之納濟スルマテ該年度ノ學資補給ヲ延期ス

第八條 甲種生學資補給金ハ本派中學生監督規則第八條ノ成績屆書及同規第五條第四項ノ報告ヲ調査シ本則第四條乃至第七條ニ該當セサルモノニハ宗務所ヨリ直ニ保證人タル師僧ニ交付スヘシ

第九條 甲種生書式第一號誓約證ヲ提出シ學資補給金受領者ハ書式第二號ノ受領證ヲ提出スルコトヲ要ス

第十條 乙種生ニシテ中學全課程ヲ卒業シタル後ニ於テ左記各項ヲ具シ書式第三號ニ依リ出願スルトキハ甲種生補給金ト同額若クハ其以内ニテ相當ノ金額ヲ追認シテ補給スルコトヲ得

但該補給金ヲ受ケタル以後五ケ年以内ニ轉派其他ノ事故ニ依リ本派僧籍ヲ脱シタルトキハ保證人ヲシテ之ヲ辨償シ宗務所ニ返納セシム

- 一 本派中學生監督規則ニ違背セサルモノ

二 本則第四條乃至第七條各項ニ該當セサルモノ
第十一條 本則ハ發布ノ日ヨリ實施ス

現ニ本派中學校生徒取締規定ニ依リ甲種生タルモノハ本則ニ依リ甲種生ト認定シ其補給ヲ繼續ス

第十二條 本則施行ニ關スル必要ノ細則ハ宗務所ニ於テ之ヲ定ム

己 上

書式第一號

誓約證

何縣何々宗務支所部内

何府縣何郡市町村何等地何寺住職級氏名法資

氏

名

生年月日

私儀本派中學甲種生タルコトヲ御認許ヲ蒙リ本派中學生學資補給規則ニ依リ學資補給ヲ拜受致候上ハ御規則命令等遵守可仕ハ勿論誓テ本派僧侶ノ本分ニ背戾セズ本派ノ教義宣揚ニ從事可致候萬一違背スルトキハ如何様ノ御處分相成候共毛頭異議申問敷候此段誓約仕候也

年 月 日

右本人

氏

名印

前顯氏名誓約證ノ事實相違無之候若シ御規則ニ違背シ學資既補給金額徵納ヲ命セラレ、トキハ拙者等保證ノ責任ヲ負ヒ必ス其指定期限内ニ辨償返納可仕候依テ保證仕候也

右師僧何々寺住職

保證人 級 氏

名印

右親權者又ハ之ニ代ルヘキモノ

何府縣何町村何番地戸主職業

保證人 氏

名印

新義眞言宗智山派宗務長級氏名殿

書式第二號

受領證

一金若干

但本派中學甲種生氏名第何學年級大正何年何月ヨリ何年何月迄壹ケ年度學資補給金
右御交附相成正ニ受領候也

年 月 日

右保證人師僧何々寺住職

受領者 級 氏

名

新義眞言宗智山派宗務長級氏名殿

書式第三號

宗規及規則

本派中學乙種卒業生學資補給願

何府縣何々宗務支所部内

何府縣郡市町村何等地何寺住職級氏名法資

氏 名

生年月日

私儀何年何月何中學校ニ入學シ爾來本派中學乙種生トシテ本派中學生監督規則ヲ守リ本派中學生學資補給規則第四條乃至第七條ニ該當セス何年何月何日何中學校全課程ヲ卒業仕候條中學校在學中ノ學資補給ヲ御追認ヲ蒙リ御交附被成下度履歷書誓約證相添へ此段保證人連署願上候也

右本人

年月日

氏

名印

右師僧何々寺住職

保證人 級 氏

名印

右親權者又ハ之ニ代ハルヘキモノ

何府縣郡市町村何番地戶主職業

保證人 級 氏

名印

新義眞言宗智山派宗務長級氏名殿

支所與書ノコト

備考 誓約證ハ第一號ノ書式ニ準知スヘシ

●法資教育獎勵規則(大正四年三月 教令第二號)

第一條 本派十五等地以上ノ寺院住職人ハ必ス法資ヲ養成シ相當ノ教育ヲ爲スヘキモノトス

第二條 相當ノ理由ナクシテ前項ノ義務ヲ怠リタルモノハ宗牒ヲ發シ教諭ヲナシ尙ホ應セサルモノハ宗規ノ制裁ヲ加フルモノトス

第三條 第一條ノ義務ヲ怠リ居ルモノハ容易ニ教師等級ノ昇補ヲ爲サルモノトス

第四條 本派寺院住職ニシテ法資養成ヲ爲シ相當ノ教育ヲ完フシ其事實行賞スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ賞旌スルハ勿論ナリト雖モ特ニ本派十六等地以下ノ寺院ニアツテハ之ヲ調査シ本項ニ該當スルモノハ之ヲ賞旌スルモノトス

第五條 法資養成及ヒ教育ニ關スル前項以外ノ實施方法等ハ管長ノ教命ニ依ルモノトス

●新義眞言宗智山派教學財團錄事

本派教育財團設立綱領

○明治四十三年本派第六次定期大會ニ於テ左ノ各項ヲ決義セラレタリ

一 金五萬圓也 教育基金募集額

建議者 宮本隆範、小柴豊嶽

一 募集期間ハ明治四十四年一月ヨリ滿三ケ年トス

一 募集範圍本派寺院僧侶及檀信徒

一 應募者ニ對シテハ相當ノ褒賞ヲ授與スル事

一 基本金ハ財團法人組織ニスル事

一 但現在ノ基金ヲ以テ直チニ該法人ヲ組織スルモノトス

一 現在ノ基金ハ五萬圓ノ内へ繰入ル、事

一 基本金ハ事故ノ如何ニ拘ラス他ノ用途ニ支出セサルモノトス

一 五萬圓ニ滿ツルマテハ利子ヲ元金ニ繰入ル、事

一 菩提院結衆補命ノ節特別献金又ハ其他特志ノ献金ハ基金ノ内へ繰入ル、事

一 五萬圓ニ達シ利子ヲ使用セントスル場合ハ定款ニ依ルモノトス

一 詳細ノ方法規則並ニ法人組織ニ關スル定款ハ宗務所ニ於テ之ヲ作製スル事
以上

●本派教學財團設立許可及登記左ノ通り

本派教學財團設立許可

左記ノ通り本派教學財團設立申請ノ處主務大臣ヨリ去月十日附ヲ以テ許可セラレ、七月一日東京區裁判所ニ於テ登記申請ノ手續ヲ了ヘタリ

新義真言宗智山派教學財團法人設立許可申請書

東京府東京市芝區愛宕町一丁目四番地

設立者新義真言宗智山派管長

大僧正 伊藤 宗盛

今般寄附行爲趣意ノ通り新義真言宗智山派教學財團設立致度候ニ付御許可被成下度民法

第三十四條ニ依リ此段申請候也

大正二年三月二十四日

右申請人

設立者新義真言宗智山派管長

伊藤 宗盛

内務大臣 原 敬 殿

文部大臣 奥 田 義 人 殿

●新義真言宗智山派教學財團寄附行爲

第一章 目的

宗規及規則

第一條 本財團ハ新義眞言宗智山派ノ教學振興ヲ企圖スル爲メ必要ナル資産ヲ所有シテ本派ノ布教及興學事業ニ關スル費用ヲ支辨スルヲ目的トス
本寄附行爲ニ於テ本派ト稱スルハ新義眞言宗智山派ヲ云フ

第二章 名稱

第二條 本財團ハ新義眞言宗智山派教學財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ヲ東京市芝區愛宕町一丁目四番地ニ置ク

第四章 資産

第四條 本財團ノ資産ハ左記財産ヨリ成ル

- 一 本財團設立ノ爲メ新義眞言宗智山派管長伊藤宗盛ノ寄附シタル左記教學基金
一金八千八百貳圓拾七錢也
- 二 將來本財團ニ對シ本派管長ヨリ寄附セラル、教學基金
- 三 將來本財團ニ對シ本派寺院僧侶及寺院ノ檀信徒其他有志者ヨリ寄附セラル、財産
- 四 本財團ノ所有財産ヨリ生スル果實及ヒ其他ノ雜收入

第五條 本財團ノ財産ハ理事長之ヲ保管ス

但シ寄附者カ寄附財産ニ付キ特ニ保管ノ方法ヲ指定シタルトキハ其指定ニ依ル

第六條 第四條第一號乃至第三號ニ掲ゲタル財産ヲ基本財産トス

基本財産ハ如何ナル事由アルモ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第七條 第四條第四號ニ掲ゲタル財産ヲ常用財産トス

本財團ノ維持費及ヒ財團ノ目的ヲ達スル爲メニ要スル費用ハ常用財産ヲ以テ之ヲ支辨ス
但シ前條第一項ノ財産カ總額五萬圓ニ達スルマテハ維持費ヲ支辨シテ生シタル常用財産ノ殘餘ハ之ヲ其財産ニ組入ル、モノトス

會計年度ノ終ニ於テ維持費及ヒ財團ノ目的ヲ達スル爲メニ要スル費用ヲ支辨シテ尙剩餘アルトキハ總裁ノ指定ニ從ヒ之ヲ前條第一項ノ財産ニ組入レ又ハ次年度常用財産ニ繰越スモノトス

第八條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス
毎年度ノ決算報告ハ年度終期ヨリ三ヶ月以内ニ監事ノ監査ヲ經テ智嶺新報ニ掲載シ本派内ニ告示スルモノトス

第五章 役員

第九條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 總裁 一名
- 一 顧問 若干名
- 一 理事 三名
- 一 監事 三名

一 評義員 若干名

第十條 總裁ハ本派管長タル者之ニ任ス

總裁ハ本財團ヲ統轄シ顧問理事以下ノ役員ヲ任免ス

第十一條 顧問ハ本派宿老ニシテ特ニ巨額ノ教學基金ヲ本派ニ寄附シ若クハ本財團ニ巨額

ノ基本財産ヲ寄附シタル者ノ中ヨリ總裁之ヲ選任ス

顧問ハ本財團樞機重要事項ニ就キ總裁ノ諮詢ニ應スルモノトス

第十二條 理事ハ内一名本派宗務長タル者之ニ任シ其他ノ二名ハ本派教學職員及ヒ巨額ノ

教學基金ヲ本派ニ寄附シ若クハ本財團ニ巨額ノ基本財産ヲ寄附シタル者ノ中ヨリ總裁之

ヲ選任ス

第十三條 理事ニ總裁ノ指名ヲ以テ理事長ヲ置ク

理事長ハ總テ本財團ノ事務ニ付キ財團ヲ代表シ兼テ評議會ノ議長トナル理事長事故アル

トキハ總裁財團ヲ代表スヘキ理事ヲ指名ス

第十四條 財團ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

前項ノ規定ニ拘ハラズ財團ノ常務ハ理事長之ヲ專行スルコトヲ得理事長事故アルトキハ

總裁ノ指名スル理事代テ其職務ヲ行フ

第十五條 監事ハ本派ノ宗務及ヒ教學ニ功勞アル者及ヒ巨額ノ教學基金ヲ本派ニ寄附シ若

クハ本財團ニ巨額ノ基本財産ヲ寄附シタル者ノ中ヨリ評議會之ヲ選舉シ總裁之ヲ命ス

監事ハ本財團ノ資産及ヒ理事ノ業務執行ノ情況ヲ監査ス

第十六條 評議員ハ本派宗務所課長及ヒ本派教學職員并ニ本派宗務教學功勞者其他本派教

學基金又ハ本財團基本財産ヲ特別ニ寄附シタル者ノ中ヨリ總裁之ヲ選任ス

評議員ハ財團ニ關スル重要ノ事務ニ付理事ノ諮詢ニ應ス

第十七條 理事ハ必要ノ場合ニハ常務員及ヒ書記ヲ置クコトヲ得

常務員ハ理事長ノ指揮ヲ稟ケ其事務ニ從事ス書記ハ理事長及ヒ常務員ノ指揮ヲ受ケ其事

務ニ従事ス

第十八條 總裁ハ役員中不適當ト認ムル者アルトキハ何時ニテモ顧問ニ諮詢シ之ヲ解任ス

ルコトヲ得

第十九條 顧問及ヒ監事カ決議ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ第十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二十條 役員ノ任期ハ各三ケ年トス

但シ再選ヲ妨ケス

第二十一條 監事死亡其他ノ原因ニ因リ退任シタル場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ臨時

評議員會ヲ召集シテ之ヲ選舉セシムルコトヲ得

第二十二條 役員補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第二十三條 役員ハ名譽職トス

但シ實費ヲ支給スルコトヲ妨ケス

常務員及ヒ書記ハ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六章 評議員會

第二十四條 評議員會ハ定時開會ハ毎年一回四月トス理事ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ
監事ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ臨時開會ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 評議員會ノ召集ハ理事長之ヲ行フ評議員會ハ全員ノ二分ノ一以上出席スルニ
非レハ議事ヲ開クコトヲ得ス

評議員會ノ決議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長ノ定ムル處ニ
依ル

第二十六條 理事ハ評議員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
但シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第七章 補則

第二十七條 理事ハ本財團ノ執務細則及本寄附行爲施行細則ヲ設クルコトヲ得
但シ總裁ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二十八條 本財團設立ノ際ニ限リ監事ハ總裁之ヲ選任ス
第二十九條 本寄附行爲ノ規定ヲ改正セントスルトキハ其改正案ヲ理事一致ノ意見ニ依リ
評議員ノ會議ニ付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ評議員ノ三分ノ二以上出席スルニ非レハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席者
ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非レハ改正ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ顧問ノ同意ヲ以テ總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ許可ヲ受タルコトヲ要ス

第三十條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルカ又ハ顧問理事及ヒ評議員ノ全員一致ヲ以テ
總裁ノ承認ヲ得ルニアラサレハ解散スルコトヲ得ス

本財團解散シタルトキハ其財産ノ處分方法ハ理事及ヒ評議員ノ三分ノ二以上出席シタル
會議ニ於テ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル決議ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ決議ハ顧問ノ同意ヲ得テ總裁ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三十一條 本財團設立ノ際ニ限リ本派宗務長タル者ノ以外ノ二名ノ理事ハ設立者ニ於テ
之ヲ指名スルモノトス

右寄附者	伊 藤 宗 盛
右設立者	伊 藤 宗 盛

●許可左ノ如シ

東京市芝區愛宕町一丁目四番地

大僧正 伊 藤 宗 盛

大正二年三月二十四日附申請財團法人新義真言宗智山派教學財團設立ノ件民法第三十四

條ニ依リ許可ス

大正二年六月十日

文部大臣法學博士 奧田義人
內務大臣 原敬

●同財團登記申請手續左ノ通り完了ス

財團法人設立登記申請

- 一名 稱 新義真言宗智山派教學財團
- 一 事務所 東京市芝區愛宕町一丁目四番地
- 一 目的 本財團ハ新義真言宗智山派ノ教學振興ヲ企圖スル爲メ必要ナル資産ヲ所有シ本派ノ布教及興學事業ニ關スル費用ヲ支辨スルヲ目的トス
- 一 登記ノ目的 財團法人設立登記
- 一 登記ノ事由 大正二年三月二十四日寄附行爲ニ依リ同年六月十日主務官廳ノ許可ヲ得財團法人ヲ設立シ同年六月十六日許可書到達シタルニ依リ登記ヲ求ムル事項左ノ如シ
- 一 設立許可ノ年月日 大正二年六月十日
- 一 資産ノ總額 金八千八百貳圓拾七錢也

- 一 出資ノ方法 寄附財産及本派管長ヨリ寄附セラル、教學基金本派寺院僧侶及寺院ノ檀信徒其他有志者ヨリ寄附セラル、財團
- 一 理事ノ住所氏名

東京市芝區愛宕町一丁目四番地
宮本 隆 範
同 所
角田 賴 惠
同 所
竹村 智 蓮

- 一 登録 稅 金壹圓五拾錢也
- 一 添附書類 一 寄附行爲 壹 通
- 一 許可書 壹 通
- 一 理事指名書 參 通
- 一 委任狀 壹 通

大正二年七月一日

右登記相成度此段申請候也

東京市芝區愛宕町一丁目四番地

申請人 新義真言宗智山教學財團

同所	理事	宮本隆範
同所	理事	角田頼惠
同所	理事	竹村智蓮

東京區裁判所御中

大正二年七月一日登記濟

●本財團寄附行為中巨額及特別寄附金額左ノ通り設立者覺書ヲ以テ決定ス

- 一 本財團寄附爲第十一條中ノ巨額ハ金貳千圓以上トス
- 二 同上第十三條中ノ巨額ハ金壹千圓以上トス
- 三 同上第十五條中ノ巨額ハ金五百圓以上トス
- 四 同上第十六條中ノ特別寄附金額ハ金百圓以上トス

●宗務視察教學財團寄附金募集特派ノ件(大正二年十一月敕令)

各地方本派宗務視察及ヒ本派教學財團基本資産寄附募集ノ爲メ宗務長ヲ臨機特派セシム

●本派教學財團基本資産増額ヲ要スル説明書

本派教學財團ニ於テ設立セル本派私立大學智山勸學院ハ大正三年三月二十五日設立ヲ認可セラレ同年四月十日徴兵令第十三條ニ依リ同學院豫本科學生ハ認定セラレタリ

私立學校令第二條ノ二ニ私立學校設立者タル財團法人ハ其學校ヲ維持スルニ足ルヘキ(年度經常費ニ充ツル金額ヲ云フ) 收入ヲ生スル資産及ヒ設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具備スルコトヲ要スル規定アルヲ以テ本派私立大學智山勸學院年度經常費豫算金壹萬〇七百五拾圓トスレハ其二十倍額タル金貳拾壹萬五千圓ノ基本財産ヲ本派教學財團ニ教育基金トシテ充實セサルヘカラス

依之本派寺院約三千ヶ寺ナレハ一ヶ寺平均金七拾圓ツ、ノ割合ヲ以テ寄附金ヲ要シ本派現在寺院等級收入約金貳拾參萬圓現在宗費賦課約金貳萬壹千餘圓ナレハ現在宗費賦課金ノ約十倍ニ相當スル金額ヲ寄附セラレントヲ要ス尤モ五ヶ年賦十回ニ分納セラル、ヲ妨ケス前顯ノ次第ニ付派内寺院諸師ハ一派教學振興ノ爲メ護法道念ヲ發揮シ奮ツテ本財團資産金寄附申込アラントコトヲ希望スル處ナリ以上

●宗規第六號 布教條例(明治三十八年十月二十八日內務大臣認可)
(同 年十一月二十三日甲第一號發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第六章第三十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 教 會

第二條 本派教會ハ本派僧侶及檀徒信徒ヲ以テ組織ス

第三條 本派教會ハ密嚴教會ト稱シ本部ヲ總本山ニ置キ支部ヲ各宗務支所ニ置ク

第四條 本派寺院ニ教會所ヲ置ク

但シ數寺聯合シテ之ヲ置クモ妨ケナシ

第五條 各教會所ハ規約ヲ定メ管長ノ認可ヲ得テ施行スル者トス

第三章 布 教

第六條 布教ハ左ノ各項ニ依ル

但シ外國又ハ開拓地其他必要ノ場合ニ於ケル布教ハ管長ニ於テ其都度布教方法ヲ定ム
ルモノトス

一 管長親化 一 巡回布教 一 地方布教 一 軍隊布教

一 監獄布教 一 其他公私團體布教(大正三年六月八日文部大臣認可同日發布本項ヲ加フ)

第七條 管長親化ハ管長ノ特旨ニ出ツルモノト各寺院又ハ教會所ノ請願ニ依ルモノノ二種

トス

第八條 巡回布教ハ布教師ニ於テ毎年定期ニ各教區ヲ巡回布教スルモノト特ニ寺院又ハ教會所ノ請願ニヨリ布教スルモノノ二種トス

第九條 地方布教ハ教會支所ノ布教師ニ於テ巡回布教スルモノト各寺院ニ於テ毎月教筵ヲ開クモノ、二種トス

第十條 布教區域ハ大會議員選舉區域ニ依ル

第十一條 布教師派遣ノ方面ハ教會本部ニ於テ之ヲ定ム

第十二條 軍隊布教ハ教師ヲシテ軍隊ニ就キテ布教セシムルモノトシ其方法ハ管長別ニ之ヲ定ム

第十三條 監獄布教ハ布教師ヲシテ監獄ニ就キテ布教セシムルモノトシ其方法ハ管長別ニ之ヲ定ム

第十四條 公私團體布教ハ布教師ヲシテ公私團體ニ就キ布教セシムルモノトス其方法ハ管長別ニ之ヲ定ム(大正三年六月八日文部大臣認可同日發布本條ヲ加フ)

第四章 布 教 師

第十五條 本派ニ布教師ヲ置キ其等級名稱ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 等布教師
- 二 等布教師
- 三 等布教師
- 四 等布教師
- 五 等布教師
- 布教師試補

第十六條 布教師ハ管長ニ於テ教師中ニ就キ之ヲ補ス

第五章 職員

第十七條 教會本部ニ左ノ職員ヲ置キ教會ニ關スル諸般ノ事務ヲ主掌セシム

一 會長一名 宗務所教學課長ヲ以テ之ニ充ツ

一 理事一名 宗務所屬員中ニ就キ管長之ヲ命ス

一 布教師 若干名

第十八條 教會支部ニ左ノ職員ヲ置キ支部ニ關スル事務ヲ處辨セシム

一 支部長一名 管理ノ任務トス

一 支部員若干名 副管理ノ任務トス

一 布教師若干名

第十九條 教會所ニ左ノ職員ヲ置キ教會所ニ關スル事務ヲ扱ハシム

一 教會所長一名 教會所ヲ設置シタル教師ノ任務トス

一 世話係若干名 教會所員中ヨリ所長之ヲ選定ス

補則

第二十條 前諸條ノ外本條例施行上必要ナル事項ハ管長別ニ之ヲ定ム

●布教條例施行細則

第一條 本細則ハ宗規第六號布教條例第二十條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 布教ハ宗祖大師立教ノ旨ヲ體シ派祖大師開派ノ義ヲ奉シ即身成佛往生淨土鎮護國家濟度衆生奉答四恩護持十善ノ教義ヲ宣布スルヲ以テ布教ノ目的トス

第三條 本派寺院及教會所ハ毎月一回以上法筵ヲ開キ住職自身又ハ他ノ布教師ヲ請シテ布教ヲ爲シ檀信徒ノ教化ヲ怠ルヘカラス

第四條 巡回布教師ハ左ノ教師等級ニ從ヒ之ヲ任命スルモノトス

一 本部布教師 權中僧都以上ノ者ニシテ四等布教師以上

一 支部布教師 權律師以上ノ者ニシテ布教師試補以上

第五條 東京又京都ニ毎年一回時期ヲ定メ布教講習會ヲ開キ布教師ヲ養成スルモノトス

但本條ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム(大正七年八月廿四日 教令第十號ニテ修正)

第六條 各宗務支所ニ置ク支部ハ何府縣新義眞言宗智山派密嚴教會支部ト稱シ各寺院ニ置ク教會所ハ何府縣第何號新義眞言宗智山派教會所ト稱シ支部ハ本部ハ本部ヘ教會所ハ本部并ニ支部ヘ届置クモノトス

第七條 會員ハ總テ教會規約ヲ登載セル會員簿ニ記名捺印セシメ左ノ會員證ヲ與フ但會員證ハ支部ノ請求ニ依リ之カ交付ス

表 何府縣郡市町村大字

面

新義真言宗智山派密嚴教會員證
氏名

表面 密嚴

中央 教會

裏

番 號

總本山内陣及伽藍參拜章

面

年 月 日

會員ノ總本山參拜心得及取扱法ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 會員簿ハ教會所ニ於テ三通ヲ要シ一通ハ本部ニ一通ハ支部ニ届置キ一通ハ教會所寺院ニ備置クヘシ

第九條 本部費ハ經常布教費及教會金ヲ以テ之ニ充テ支部費并ニ教會所費ハ教會金ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 特旨親教及ヒ定期巡教ノ旅費ハ總テ本部ニ於テ支辨シ滞在費ハ地方ノ支辨トス地方ヨリ特ニ親教又ハ巡教ヲ請願スルトキハ旅費滞在費共其地方ノ負擔トス

第十一條 會員ヨリ納ムル教會金ハ左ノ割合ヲ以テ支用ス

教會金全分ノ五ハ 教會所費ニ充ツ

同 三ハ 支部費ニ充ツ

同 二ハ 本部費ニ充ツ

第十二條 會員簿ノ初ニハ必ス左ノ規約ヲ登載スヘシ

一 本派ノ教義ヲ奉シテ邪說ニ惑ハス四恩十善ノ道ヲ遵守スヘキコト

一 皇室ヲ尊崇シ愛國ノ旨ヲ守リ社會ノ公益ヲ計ルヘキコト

一 慈悲忍辱ヲ旨トシ安リニ是非ヲ争フヘカラサルコト

一 葬儀ハ至誠ヲ旨トシ虚禮虚飾ヲ省クヘキコト

一 說教日ニハ必ス教會所ニ參詣シ禮佛聞法ヲ爲シ安心立命ノ旨ヲ講究スヘキコト

一 會員ハ互ニ交誼ヲ厚クシ疫病患難共ニ相扶クヘキコト

一 會員中篤信者又ハ忠孝貞義ノ者之アルトキハ賞典取扱ノ事ヲ教會所長ニ申出ヘキコト

コト

一 會員中不孝不良放逸無慚ノ者之アルトキハ篤ク説諭ヲ加ヘ改善セシムヘキコト

一 會員ハ毎年教會金六錢宛ヲ教會所ヘ納ムルモノトス

但壹人ニシテ二口以上ヲ納ムル者ハ篤志者トス

以 上

第十三條 管長ノ特旨親教ハ一定ノ時期ヲ定メス布教師巡教ノ定期ハ春秋二期トス

第十四條 特旨親教定期巡教共其都度本部ヨリ豫メ日割ヲ定メ各支部ニ達ス
此場合ニ於テハ其地方寺院之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 布教師ハ第二條及教會規約ノ旨ヲ體シテ教化ヲ怠ラス常ニ教會員ノ加入ヲ獎勵スヘシ

第十六條 布教師ハ其巡回布教ト地方布教トニ拘ハラズ支部長ト協議シ地方布教ノ振起ヲ計ルヘシ

第十七條 各宗務支所管内又ハ數箇ノ宗務支所聯合ノ上一年一回以上本派ノ宗意安心ヲ講究セシムルモノトス

但本條ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 布教師ハ地方布教ノ實況ヲ鑑査シ其振否ニ關シテハ意見ヲ付シ巡教日誌ト共ニ本部ニ報告スヘシ

第十九條 布教師ハ僧侶又ハ檀信徒ニシテ布教上特殊ノ功勞之アル者ハ事由ヲ詳記シ其旨本部ニ上申シテ賞典ヲ請フヘシ

第二十條 本部ヨリ派遣ノ巡回布教ノ布教師俸給及旅費ハ本部ヨリ支給スルヲ以テ地方寺院又ハ教會所ヨリ滞在費ヲ受クルノ外更ニ報酬ヲ受クルコトヲ得ス
但地方ヨリ請願ニ係ル分ハ別ニ旅費ヲ受クルモノトス

第二十一條 布教師ハ自信教人信ヲ體シ平素品行ヲ正肅ニシ四衆ノ標準タル儀相ヲ失スヘカラス

第二十二條 布教師ニシテ不都合ノ行爲之アルトキハ左項ニ依リ處分ス

- 一 本部ヨリ派出ヲ命シタルトキ正當ノ事由ナクシテ時日ヲ遷延シ又ハ辭避スルトキハ宗規第十二號第九條第五項ヲ準用ス
- 二 其他不都合ノ行爲之アルトキハ宗規第十二條第三章懲罰ノ各條項ニ照シ處分ス

密嚴教會本部同本支部教會所執務規程

第一條 教會本部ノ會長ハ會務ヲ總掌シ理事ハ其會務ヲ處辨スルモノトス

第二條 本部ニ於テ主掌スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 會員簿ノ整理ニ關スル件
- 一 會員證交附ニ關スル件
- 一 管長親化ニ關スル件
- 一 巡回布教ニ關スル件
- 一 教會金取扱ニ關スル件
- 一 其他會務ニ關スル事項

第三條 會員簿ノ整理ハ各支部ノ區別ニ依リ之ヲ區分シ便覽ニ供スルモノトス

第四條 會員證ハ支部ノ請求ニ依リ其番號ヲ記入シテ之ヲ交付スルモノトス

第五條 教會金ハ別途ノ收入トシ布教費ノ決算ト共ニ之カ收支ヲ一派ニ報告スヘシ
 第六條 會長ハ會務處辨ノ爲メ必要ノ場合ニ於テ雇書配ヲ置クコトヲ得
 第七條 支部長ハ常ニ支部内ニ在テ會務ヲ掌理シ支部員ヲシテ會務ヲ分掌モシム
 第八條 支部ニ於テ主掌スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 親化及巡回布教ニ關スル件
- 一 地方布教ニ關スル件
- 一 會員簿ノ整理ニ關スル件
- 一 會員證ヲ本部ニ請求及教會所ヘ交付ノ件
- 一 本部ニ教會金送納ニ關スル件
- 一 其他會務ニ關スル件

第九條 支部費ハ別ニ帳簿ヲ調製シテ之ヲ明記シ毎年七月末日マテニ之カ收支ヲ支部内ニ報告スヘシ

第十條 教會所長ハ常ニ其寺院ニ住シテ教會員ノ加入ヲ勸募シ會務ヲ處理シ又世話係ヲ指揮シテ會務ヲ處辨スルモノトス

第十一條 教會所事務ノ概目左ノ如シ

- 一 本部又ハ支部ノ巡回布教ニ會シ事務處辨ニ關スル件
- 一 會員簿整理ニ關スル件

一 支部ニ會員證請求並ニ會員ニ會員證授與ニ關スル件

一 本部支部ノ教會金取纏メ本支部ヘ送納ニ關スル件

一 教會所費ニ關スル件

一 一覽表調製ニ關スル件

前項ノ會務ヲ世話係ニ分掌セシムル規程ハ所長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 教會所費ハ別ニ帳簿ヲ調製シテ之ヲ明記シ毎年七月末日マテニ之カ收支ヲ會員ニ報告スヘシ

●本派密嚴教會本部事務所之件

本派密嚴教會本部事務所ハ本派宗務所内ニ設置ス

●布教會規則(明治三十四年十一月甲第八號達)

第一條 本派布教ノ進運ヲ謀ランカ爲宗務所ニ布教會ヲ置ク

第二條 布教會ハ布教ノ方法其他布教ニ關スル事項ニ付管長諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

第三條 布教會ハ布教ニ關スル事項ニ付管長ニ建議スルコトヲ得

第四條 布教會ハ管長之ヲ開閉シ會務整理ニ關スル規程ハ布教會之ヲ定メ管長ノ認可ヲ受クヘシ

- 第五條 布教會ハ會長一人委員四名ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第六條 會長ハ宗務所教學課長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第七條 委員ハ本派布教師權大僧都以上ノ者ヨリ管長之ヲ特任ス
- 第八條 布教會ニ幹事一人ヲ置キ教學課屬ヲ以テ之ニ充ツ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
- 第九條 會長ハ決議ノ事項ヲ管長ニ具申ス
- 第十條 布教會ニ書記ヲ置ク會長幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス
書記ハ宗務所書記ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十一條 會長委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ幹事及書記ニハ事務ノ繁閑ニ依リ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

●本派朝鮮布教管理法(大正四年十二月二十三日教令第十五號)

- 第一條 朝鮮總督府令第八十三號布教規則發布セラレタルニ付キ本管理法ヲ定ム
- 第二條 同規則第三條ニ依リ本派朝鮮布教管理者ヲ置キ布教管理事務所ヲ設ク
- 第三條 布教管理者ハ朝鮮ニ居住スル本派教師中ニ付朝鮮總督府ノ認可ヲ得テ管長之ヲ命シ布教管理事務所ハ布教管理者ノ所住寺院ヲ以テ之ニ充ツ(大正七年一月三十日教令第二號ニテ修正)
- 第四條 布教管理者ノ權限ハ本派ノ宗憲宗規ニ依リ管長ノ旨ヲ稟ケテ本派朝鮮布教ニ關ス

ル事項ヲ管理スルモノトス

- 第五條 本派朝鮮布教ノ方法ハ本派ノ布教師ヲシテ左記各項ノ布教ニ従事セシム
 - 一 布教所ヲ設ケ常在布教
 - 二 檀信徒家庭布教及ヒ通信布教
 - 三 巡回布教 開教ノ爲メ必要ノ場合ニ巡教ス
 - 四 特派布教 管長ニ於テ必要ト認ムルトキ特派ス
- 第六條 本派朝鮮布教者ノ監督方法ハ布教管理者ヲシテ管長ノ旨ヲ稟ケテ常ニ之ヲ監督セシメ管長ニ於テ必要ト認ムルトキハ特派員ヲシテ之ヲ監督セシム
- 第七條 布教管理者ハ同規則第五條ノ所屬布教者名簿第十二條ノ檀信徒數及増減數届及ヒ第十三條ノ各許可願又ハ各届書ニ副書ヲ與フルトキハ同時ニ該願届寫ヲ添ヘテ本派宗務所ニ届出ヘシ
- 但シ重大事項ハ副書ヲ與フル以前ニ必ス管長ニ稟議スルコトヲ要ス
- 第八條 同規則及本管理法以外ノ布教ニ關スルコトハ内地寺院教會所管理法ヲ準用ス

◎諸法令拔抄

○教院講社設置出願方ノ件

(明治七年七月十二日) 教部省達乙第三十八號 神道諸宗管長

教院設置並講社願出方區々ニ相成居候自今總テ當管ヘ相宛其管長添書ヲ以テ可爲差出尤モ講社及社寺外ニ設置候教院ノ分ハ前以テ地所等ノ儀其管轄廳ヘ申立聞濟ノ書面取副候儀ト可爲相心得此旨相達候事
但願主ハ何レモ本職補任ノ者ニ限リ可申尤甲管内ヘ許

可ノ講社乙管内ヘ分社取結候節モ出願手續等本文ノ通
リタルヘク並其取締ハ同様本職ノ外不相成候ト可爲心
得事

○教會所說教所ニ於テ葬儀執行衆庶參拜ヲ

許サ、ル件 (明治十四年十月三日) 神道副總裁
內務省乙達第四八號) 神佛各管長

教會教會所說教所ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平等衆庶ニ參
拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ做ノモノ有之候テハ不都
合候條心得違無之様可爲致此旨相達候事

○教會所ノ設置ハ願出移轉廢合ハ届出ツヘ

キ件 (明治十七年十月三十日) 神佛各管長
內務省戊第二號達) 神佛各管長

一「教師僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分チ半年毎ニ取調
翌一月七月兩度ニ當省ヘ届出ヘシ

但東京ノ教務所ニハ全國教師僧侶ノ姓名及各地方教
務所說教所ノ所在等ヲ詳記セル帳簿ヲ備置クヘシ
一 教會所、講社、事務所ノ類 說教所ノ取設ハ從
前ノ手續ヲ履ミ地方廳ヘ願出移轉廢合及祠宇寺院內
ニ設クルモノハ届出ツヘシ(二十年內務省訓令第四
二號) 但教務所ニハ教師ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置クヘ

ノ行爲等無之様派内ヘ通達ノ上嚴重取締有之度命ニ依リ
此段及通牒候也

○同上ニ付道廳府縣ヘ通牒(同日) 道廳府縣宛

別紙ノ通り神道佛道各教宗派管長ニ通達相成候條右ニ依
リ嚴重御取締有之度命ニ依リ此段及通牒候也
(別紙)前ニ出ツ

○教務所說教所異教宗派ニ所屬替不相成ノ

件 (明治三十九年四月五日) 府縣
內務省宗甲第六號通牒)

明治十七年十月本省乙第三十八號達ニヨリ教務所說教所ノ
設置ヲ許可スルハ當該宗派ノ教師カ布教傳道ニ必要ナル
設備トシテ公認スルモノナレバ設立主願人ノ進退ニ因テ
其所屬ヲ更ムヘキモノニアラス從テ甲教宗派ニ屬スル教

●宗規第七號 布教講習所條例(明治三十八年十一月二十二日甲第一號ヲ以テ發布)

第一條 本條例ハ宗憲第六章第三十八條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 布教堪能ノ教師ヲ養成スルタメ布教講習所ヲ東京又ハ京都ニ置ク

第三條 布教講習所ニ左ノ職員ヲ置ク
一 所長一名 教學課長ノ任トス

一 祠宇并寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長添書ス
ヘシ

○各地管外ヘ移轉合併ハ更ニ願出ツヘキ件

(明治十八年十一月十一日) 神佛各管長宛
社寺局通牒第八五號)

教務所說教所取設移轉廢合等ノ儀ニ付十七年第二號達ノ
趣有之候處該第二項ハ其管内限ノ義ニ付各地管外ヘ移轉
合併ノ節ハ更ニ出願候儀ト可相心得此段申入候也

○教會所說教所ハ其祭神若クハ安置佛ノ爲

メニスル場合ノ外祭典法用不相成件

(明治二十八年三月一日) 神佛各管長宛
社寺局通牒社甲第六號)

教會教會所又ハ說教所ニ於テ其祭神若クハ安置佛ノタメ
ニスル場合ノ外ハ祭典法用ヲ執行スルコトヲ得ス且其祭
典法用ノ時タルト平時タルトチ間ハス社寺及祠宇ニ類似
スル裝飾ヲナシ衆庶ヲ參拜セシムル等ハ不相成儀ニ有之
又教師ハ教會教會所又ハ說教所ニ居住スル者ノ外ハ自宅
ニ多衆ヲ集メ說教ヲナスヲ得サル次第ニ有之候條不都合

務所說教所チ乙教宗派ニ所屬替若クハ轉屬等ノ願届チ爲
スモノアルモ一切受理セラレサル儀ト御承知相成度命ニ
依リ此段及通牒候也

○教務所說教所ハ所屬替又ハ轉屬不相成件

(明治三十九年四月五日) 各管長
內務省宗甲第六號ノ内)

明治十七年十月本省戊二號達ニ依リ地方廳ノ許可ヲ得テ
設置スル教務所說教所ハ其教宗派ノ教師カ布教傳道ノ爲
ニ必要ナル設備ナルヲ以テ其設立主願人カ當該教宗派ヲ
去就スルニ因テ教務所說教所ノ所屬上ニ影響ヲ生スヘキ
ニアラス依テ今般教務所說教所ノ所屬替若クハ轉屬等ノ
願届チナスモノアルモ之ヲ受理スヘカラサル旨地方長官
ヘ通牒相成候條爲御心得此段申入候也

- 二 講師一名 派内碩學者ノ内ニテ選任ス
- 三 教授二名 三等以上ノ布教師中ヨリ選任ス(大正三年六月三日修正發布)
- 四 幹事一名 教學課屬員ヲ以テ之ニ充ツ

但シ科外講義ヲナサシムルタメ臨時講師ヲ囑托スルコトヲ得

第四條 所長ハ講習所ノ庶務ヲ統理シ講師ハ宗意ヲ講義シ教授ハ說教演說等ノ方法ヲ指南シ幹事ハ庶務ニ従事スルモノトス

第五條 本講習所ニ關スル會計ハ宗務所會計課ニ於テ之ヲ行フ

第六條 教授以上ノ職員ハ管長ニ於テ任免シ幹事ハ宗務長之ヲ任免ス

第七條 布教講習生ヲ甲乙二種ニ分チ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ甲種生ハ宗務所ニ於テ之ヲ選拔シ乙種生ハ一般ニ之ヲ募集シ試験ノ上入所ヲ許可ス

一、甲種講習生 智山勸學院卒業生及五等布教師以上ノモノ

二、乙種講習生 教師試補以上ノモノ

第八條 甲種講習生ハ十五名乙種講習生二十名ヲ限リ補給ヲ支給ス

第九條 布教講習ハ甲種ヲ二十日間乙種ヲ三十日間トシ隔年交互ニ之ヲ開キ講習時期ハ其都度之ヲ定ム

但シ定員ニ達セサルトキハ開所セサルコトアルヘシ

第十條 乙種講習志願ノ者ハ別ニ定ムル書式ニ依リ開所十日前ニ宗務支所ヲ經テ本所ニ差

出スヘシ

第十一條 乙種講習生ハ講習ノ終リニ試験ヲ行ヒ成績ノ優劣ニヨリ管長へ具申シ布教師試補又ハ五等或ハ四等布教師ニ補スルコトヲ得(大正三年六月八日或ハ四等ノ文字ヲ加フ)

但シ講習ノ成績良好ナルモ行狀不良ノ者ハ本條ノ限リニアラス

第十二條 講習生ハ開期中正當ノ事由ナクシテ退場スルヲ許サス

第十三條 講習生ニシテ半途ニ退場セントスル者ハ事由ノ如何ニ拘ハラズ補給ヲ支給セス但シ公務ノ場合ハ此限リニ非ス

第十四條 講習生ニシテ布教師試補以上ニ補セラレタルモノハ布教上必要ノ場合ニ招命セラルトキハ正當ノ事由ナクシテ辭避ススルコトヲ得ス

第十五條 本派教師ニシテ傍聽志願ノ者ニハ之ヲ許可ス但シ講習所長ノ許可ヲ得ルヲ要ス

第十六條 本條例ニ關シ必要ナル事項ハ布教會ノ決議ヲ經テ管長別ニ之ヲ定ム

●布教講習所條例施行細則

第一條 本施行細則ハ宗規第七號第十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 宗費講習生ハ試験ノ上之ヲ採用ス

第三條 甲種講習生ハ十五名乙種講習生ハ二十名ヲ定員トス定員ヲ超過シタルトキハ試験

ノ上高點者ヲ順次ニ採用ス

第四條 採用試験ハ二十分間以上三十分間以内各自ノ意志ニ依リ説教又ハ演説ヲ爲サシム

第五條 甲種講習生ハ壹名ニ付金拾圓ヲ乙種講習生ハ壹名ニ付金五圓ヲ補給ス

第六條 布教講習志願者ハ左ノ書式ニヨリ出願スヘシ

布教講習許可願 (聽講志願者ハ聽講許可願ヲ提出スヘシ)

何府縣何々宗務支所下

何府縣郡市町村何寺住職(又ハ法資)

教師氏名

私儀布教講習志望ニ付御試験ノ上講習ノ儀御許可被成下度別紙履歷書相添へ此段上願仕候

也

右本人

教師氏名印

保證人

教師氏名印

新義真言宗智山派宗務所教學課長級氏名殿

宗務支所奥印ヲ要スルコト

年月日

●宗規第八號

會計條例

(明治三十八年十一月二十八日內務大臣認可) 年十一月二十二日甲第一號發布

第一章 總則

第一條 本條例ハ宗憲第四十二條ニヨリ之ヲ定ム

第二章 會計

第二條 宗費豫算ハ大會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム大會閉會ノ場合ニ於テ臨時宗費支出ヲ要シ

其額大會決議ノ豫算總額ノ三分ノ一ヲ越ヘサルモノハ小會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三條 大會成立セス又ハ豫算ヲ議決スルニ至ラサル場合ハ前年度ノ豫算ニ依ル

第四條 會計年度ハ七月一日ニ起リ翌年六月三十日ニ終ル

第五條 歳入トハ寺院賦課金其他一切ノ收入ヲ云ヒ歳出ハ一切ノ經費ヲ云フ

第六條 豫算歳出ハ款項ヲ分チテ編成シ各款ノ流用ヲ許サス

第七條 豫算費ハ必要避クヘカラサル場合ニ非サレハ支出ヲ許サス

第八條 歳計ニ剩餘ヲ生セシ時ハ翌年度ノ歳入ニ繰リ入ルモノトス

第九條 毎年度ノ歳入歳出ノ出納ハ次年度ノ九月十二日迄ニ完結スヘシ

第十條 前條期限内ニ完結シ得サル歳入歳出ハ左ノ例ニ依ル

- 一 寺院課金等ノ延納ニ係ル歳入ハ實際納收シタル年度ノ歳入ニ屬ス
- 一 繼續事業ニシテ其經費ノ仕拂ヲ結了セサル支出ハ事業ノ終迄繰リ越シ使用ス

第十一條 總テ金錢ノ收入支出ノ都度豫算ニ照合シテ帳簿ニ記入シ管長ノ承認ヲ經ヘシ
第十二條 未拂又ハ常用ノ宗費金ハ確實ナル銀行ニ預ケ之ヲ保管セシメ其利息ハ雜收入ニ
繰込ムモノトス

第十三條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ次年度九月三十日迄ニ派内ニ告知ス

第十四條 歳入歳出帳簿ハ會計検査員ニ於テ監査シ宗會議員ノ要求アルトキハ之ヲ閱覽セ
シム

會計検査員ハ互選ヲ以テ三名ヲ置クモノトス

第十五條 會計帳簿ノ種類編成方及本條例施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●本派會計検査施行細則

第一條 本施行細則ハ宗規第八號會計條例第十四條第十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 會計検査委員ハ小會ニ於テ互選シ又ハ特ニ投票ヲナサシメ選舉ヲ行フ事ヲ得

但シ選舉ノ都度當選者ノ外ニ壹名ノ候補者ヲ定メ置クモノトス

第三條 特ニ投票ヲ以テ選舉ヲ行フトキハ小會議員壹名ヲ立會人トス

第四條 選舉上必要ノモノニシテ本施行細則ニ明記セサルモノハ宗規第四號宗會議員選舉
條例ニ規定セルモノヲ適用ス

第五條 會計検査ハ毎年九月宗務所ニ於テ之ヲ行フ但派内ニ告知以前ニ検査ノ結了ヲナス

ヘシ

第六條 検査員ニ於テ検査ノ必要ヲ認メタルトキハ何時タリトモ宗務所總本山宗立學林等
ニ就キ臨時検査ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニハ主任者ニ於テ事故ノ如何ヲ以テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 定期及臨時検査ニハ必ス宗務長又ハ課長ニ於テ立會ヲナスモノトス

第八條 定期及臨時検査執行ノ期日ハ宗務所ヨリ告達ス

第九條 検査ノ進行上各員一部ノ分擔シ調査ニ從事スルハ妨ナシト雖モ二人已上出席スル
ニ非サレハ正否ヲ決スルヲ得ス

第十條 検査正依ノ書類ハ總本山宗務所宗立學林眞福寺ノ歳入歳出帳簿並ニ證據書ニシテ
其年度分トス

第十一條 検査委員ハ前條書類ノ外ト雖トモ監査上參考トナルヘキ書類ノ提出ヲ要求スル
コトヲ得

第十二條 検査委員ハ各主任者ノ提出セル計算書等ヲ調査シ正當ナリト認メタルトキハ證
明書ヲ作り主任者ノ責任ヲ解除ス

第十三條 検査委員ハ證明書ヲ與ヘタル後ト雖モ滿一ケ年間に於テ主任者ヨリ之レヲ請
求スルカ又ハ計算書誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再検査ヲナスコトヲ
得

第十四條 検査委員ハ各主任者ノ提出セル計算書及證據書類ノ不明瞭ナル件ニ對シ推問シ
辨明又ハ正誤ヲナサシメ尙ホ正當ナラスト認めタルトキハ其旨ヲ具シテ管長ニ辨償又ハ
懲戒處分ノ執行ヲ要求ス

第十五條 検査ノ疎漏ニ依リ宗有金ニ損失ヲ生シタルトキハ検査委員ハ引責退職スヘキモ
ノトス

第十六條 検査委員ノ旅費日當ハ宗務所規定ノ參等ヲ支給ス

●宗規第九號 宗費賦課徴收條例(明治廿八年十二月廿三日甲第二號發布大正三年九月廿日修正大
正七年三月八日教令第三號修正同年八月廿四日同第十號修正)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第七章第四十二條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 宗費賦課

第二條 總本山及東京芝真福寺以外ノ寺院ハ收入ノ多寡ニ依リ左表ニ掲クル金額ヲ毎年宗
務所ニ納附スヘキモノトス(大正七年八月廿四日教令第十號修正)

但シ朝鮮樺太臺灣其他海外開教地ノ寺院ニハ當分ノ内宗費ヲ賦課セス

特等	第一級	金貳萬圓以上	金貳千參百圓
同	第二級	金壹萬五千圓以上	金壹千七百貳拾五圓

同	第三級	金壹萬圓以上	金壹千壹百五拾圓
同	二等	金七千五百圓以上	金八百六拾貳圓五拾錢
同	三等	金五千圓以上	金五百七拾五圓
同	四等	金貳千五百圓以上	金貳百八拾七圓五拾錢
同	五等	金壹千圓以上	金壹百拾五圓
同	地	金九百圓以上	金壹百〇參圓五拾錢
同	一等	金八百圓以上	金九拾貳圓
同	二等	金七百圓以上	金八拾圓五拾錢
同	三等	金六百圓以上	金六拾九圓
同	四等	金五百圓以上	金五拾七圓五拾錢
同	五等	金四百圓以上	金四拾六圓
同	六等	金參百五拾圓以上	金四拾圓貳拾五錢
同	七等	金參百圓以上	金參拾四圓五拾錢
同	八等	金貳百五拾圓以上	金貳拾八圓七拾五錢
同	九等	金貳百圓以上	金貳拾參圓
同	十號	金百七拾五圓以上	金貳拾圓拾參錢
同	十一等	金百五拾圓以上	金拾七圓貳拾五錢
同	十二等	金百五拾圓以上	

同	十三等	金百貳拾五圓以上	金拾四圓參拾八錢
同	十四等	金壹百圓以上	金拾壹圓五拾錢
同	十五等	金七拾五圓以上	金八圓六拾參錢
同	十六等	金六拾五圓以上	金七圓四拾八錢
同	十七等	金五拾五圓以上	金六圓參拾參錢
同	十八等	金四拾五圓以上	金五圓拾八錢
同	十九等	金參拾五圓以上	金四圓〇參錢
同	二十等	金貳拾五圓以上	金二圓八拾八錢
同	廿一等	金貳拾圓以上	金貳圓參拾錢
同	廿二等	金拾五圓以上	金壹圓七拾參錢
同	廿三等	金拾圓以上	金壹圓拾五錢
同	廿四等	金五圓以上	金五拾八錢
同	廿五等	金五圓以下	金參拾貳錢

第三條 總本山及東京芝真福寺以外ノ寺院ニ住職スルモノハ住職任命ノ際左表ニ定ムル金額ヲ禮祿トシテ宗務所ニ納メシム(大正七年二月八日修正)

等級 以上 金額

特等一等第一級	同	金五百圓
第二級	同	金四百圓
第三級	同	金參百圓
同	二等	金貳百圓
同	三等	金百五拾圓
同	四等	金百貳拾圓
同	五等	金百圓
地	一等	金八拾五圓
同	二等	金七拾圓
同	三等	金五拾五圓
同	四等	金五拾圓
同	五等	金四拾五圓
同	六等	金四拾圓
同	七等	金參拾六圓
同	八等	金參拾貳圓
同	九等	金貳拾八圓
同	十等	金貳拾五圓

同	十一等	金貳拾壹圓
同	十二等	金拾八圓
同	十三等	金拾五圓
同	十四等	金拾貳圓
同	十五等	金九圓
同	十六等	金七圓五拾錢
同	十七等	金六圓五拾錢
同	十八等	金五圓五拾錢
同	十九等	金四圓五拾錢
同	二十等	金參圓五拾錢
同	二十一等	金貳圓
同	二十二等	金壹圓五拾錢
同	二十三等	金壹圓
同	二十四等	金壹圓
同	二十五等	金壹圓

第四條

教師補命ノ際ニハ左表ニ定ムル金額ヲ禮祿トシテ宗務所ニ納メシム(大正七年二月八日修正)

以上

但シ私立大學智山勸學院在學生ハ教師等級ニ拘ハラヌ凡テ禮祿金參拾錢トス

教師等級

禮祿金額

大僧正	金百貳拾圓
權大僧正	金百圓
中僧正	金九拾圓
權中僧正	金八拾圓
少僧正	金六拾五圓
權少僧正	金六拾圓
大僧都	金四拾圓
權大僧都	金參拾五圓
中僧都	金參拾圓
權中僧都	金貳拾五圓
少僧都	金貳拾圓
權少僧都	金拾七圓
律師	金拾貳圓
權律師	金拾圓
教師	金八圓
師試補	金參圓

以上

第五條 淡紅色以上ノ色衣被着允可ノ際ハ左表ニ定ムル金額ヲ禮祿トシテ宗教所ニ納メシ

ム(大正七年二月八日修正)

但シ私立大學智山勸學院在學生ハ一色毎ニ禮祿金壹圓トス

禮祿金額

淡色衣	金 五 圓
淺青	金 七 圓 五 拾 錢
黃 色	金 拾 圓
菼 黃	金 拾 五 圓
紫 色	金 參 拾 圓

以上

第六條 寺院ノ昇格ヲ請ハントスルモノハ左表ニ定ムル金額ヲ禮祿トシテ宗務所ニ納メシ

ム

但シ寺院等級ト合致セスシテ降格シタルモノハ將來寺院等級昇進ノ際ハ從前ノ寺格ニ至ル迄ハ本條ノ禮祿ヲ要セス

禮祿金額

門徒ヨリ末寺へ 金 參 圓

一色末ヨリ平格院へ 金 五 圓

二色末ヨリ平格院へ 金 貳 圓

平格院ヨリ格院へ 金 七 圓

格院ヨリ准談林へ 金 拾 圓

准談林ヨリ談林へ 金 拾 五 圓

談林ヨリ常法談林へ 金 貳 拾 圓

常法談林ヨリ准別格本山へ 金 五 拾 圓

准別格本山ヨリ別格本山へ 金 百 圓

第七條 度牒授與出願ノ際禮祿金壹圓ヲ宗務所ニ納メシム

第八條 交衆出願ノ際ハ禮祿金七圓五拾錢ヲ宗務所ニ納メシム

第九條 練行勤修ノ者ハ練行證授與ノ際禮祿金五圓ヲ宗務所ニ納メシム托鉢免許出願ノ際

ハ住職ノ者ハ金貳圓ヲ非住職ノ者ハ金壹圓ヲ宗務所ニ納メシム

第十條 住職候補者登録出願ノ際ハ左表ニ依リ禮祿ヲ宗務所ニ納メシム(大正七年二月八日修正)

等 級 額

特等 第一級 金 貳 百 五 拾 圓

同 第二級 金 貳 百 圓

同 第三級 金 百 五 拾 圓 別格本山

特等	二等	三等	四等	五等	地	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等
金百圓	金七拾五圓	金六拾圓	金五拾圓	金四拾貳圓五拾錢	金參拾五圓	金貳拾七圓五拾錢	金貳拾五圓	金貳拾貳圓五拾錢	金貳拾圓	金拾八圓	金拾五圓	金拾四圓	金拾貳圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金九圓	金七圓五拾錢		
				常法談林					談林	準談林	格院							

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十四等	十五等	十六等	十七等	十八等	十九等	二十等	二十一等	二十二等	二十三等	二十四等	二十五等							
金六圓	金四圓五拾錢	金參圓五拾錢	金貳圓	金貳圓五拾錢	金壹圓	金壹圓五拾錢	金壹圓貳拾五錢	金壹圓	金七拾五錢	金五拾錢	金五拾錢							
								門徒										

第三章 宗費徵集

第十一條 第二條ノ寺院賦課金ノ納期ハ左ノ如シ
 一 年度賦課金半額第一期毎年九月トス
 一 年度賦課金半額第二期翌年三月トス

第十二條 宗務支所ハ宗務所ヨリ指定セラレタル各寺院賦課額ニ依リ各寺院ニ徵集合狀ヲ發シ前條期中ニ之ヲ徵集シ該期月末日迄ニ宗務所ニ納附スルモノトス

第十三條 宗務所ハ前條賦課金ノ納附ヲ受ケタル日ヨリ十日間ニ領收證ヲ各宗務支所ニ送附シ納人ニ交附セシム

第十四條 寺院賦課金徵集ニ關スル費用ハ總テ其宗務支所費ヲ以テ支辨スルモノトス

第十五條 非常災害ニ依リ寺院賦課金ノ負擔ニ堪ヘサル寺院ヲ生シタルトキハ管長ハ期限ヲ定メ之レカ延期ヲ許可スルコトアルモ其減價又ハ免除ヲ爲スハ宗會小會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第十六條 第三條乃至第十條ノ規定ニ係ル各種禮祿金ハ總テ爲替券又ハ現金ヲ以テ其書類

ニ添ヘ宗務支所ヲ經テ宗務所ニ納ムルモノトス是レニ對スル領收證ハ別ニ交附セス

但シ允可セサルトキハ既納ノ禮祿金ハ之ヲ返附ス

第十七條 第四條教師等級ニ對スル禮祿金ト該教師相當ノ第五條色衣ニ對スル禮祿金ト同時ニ之ヲ納ムルモノトス

補則

第十八條 正當ノ事故ナクシテ納期後二ヶ月ヲ過キ寺院賦課金ヲ納附セサルモノハ怠納トシテ情狀ニ依リ之ヲ處分ス

第十九條 住職ヲ罷免セラレ又ハ死亡セル場合ニ於テ宗費怠納アル寺院ハ後住職其責ニ任

スルモノトス

●宗費徵集施行細則(大正二年二月 教令第二號)

第一條 本細則ハ宗規第九號宗費賦課徵收條例第三章各條及補則ニ依リ之ヲ定ム

第二條 徵收令狀乃至領收證ハ別記様式ニ依リ宗務所ニ於テ印刷シ各宗務支所ニ送附ス

第三條 甲號宗費徵收令狀ニハ當該宗務支所ニ於テ左記各項記入調印シテ徵收期日十日以前ニ納メタル各寺院ニ甲乙丙丁各號接續ノ儘之ヲ配布スヘシ

一 當該宗務支所名

一 番 號

一 納人タル、郡、村、字、等級、寺名

一 當期宗費賦課金額

一 當期宗費納期日及場所並ニ宗費取集役員氏名

一 發令管理氏名及月日

一 管理調印及書記檢印

第四條 納人タル寺院ハ徵收令狀指定ノ通り宗費賦課金ヲ必ス納期日ニ該徵收令狀(甲、

乙、丙、丁各號接續ノ儘)添附納金スヘシ

第五條 前條宗費納金アリタルトキハ宗務支所ニ於テ乙號宗費假受取書ニ左記各項ヲ記入

宗規及規則

調印シテ該乙號ヲ納人ニ交附シ甲號ハ宗務支所ニ保存スヘシ

- 一 當該宗務支所名
- 一 番 號
- 一 納人タル市町字、等級、寺名
- 一 當期宗費賦課金額
- 一 納入手續又ハ事由例セハ住職人持參若クハ爲替送金等又ハ何々事故ニ依リ期日經過以下準之
- 一 宗務支所受取月日
- 一 管理級氏名及月日
- 一 管理調印及取集人檢印
- 一 甲、乙兩號、乙、丙兩號ノ各割印

第六條 宗務支所ハ每納期九月三十日三月三十一日ニ前條ニ依リ受取リタル部内寺院ノ宗費金額ヲ丙號宗費送納狀(丁號接續ノ儘)及戊號進達目錄添附シテ宗務所會計課宛ニ送金進達スヘシ

丙號宗費送納狀ニハ左記各項記入調印ヲ要ス

- 一 當該宗務支所名
- 一 番 號
- 一 納人タル市町字、等級、寺名

一 宗費賦課金額

一 納入手續又ハ事由

但シ納人タル寺院ヨリ宗務支所ニ納入ヲ云フ

一 宗務支所受取月日

一 宗務所ニ送納月日

一 送納管理級氏名

一 管理及取扱人調印

戊號納金進達目錄ニハ左記各項記入調印ヲ要ス

一 當該宗務支所名

一 年度納期

一 宗費送納合計金額

一 納人タル寺院及送納狀枚數

一 送納手續又ハ事由

但シ宗務支所ヨリ宗務所會計課ニ送納ヲ云フ

一 送納年月日管理級氏名

一 管理調印

第七條 宗務所宗費送納ヲ受ケタルトキハ丁號本領收證ニ左記各項ヲ記入調印シテ當該宗

務支所ニ送附ス宗務支所ハ必ス便宜ノ法ヲ以テ納入タル寺院ニ交附スヘシ

一 番 號

一 納入タル市町字、等級、寺名

一 宗費賦課金額

一 宗務支所送納月日

一 宗務所領收月日

一 會計課長調印及取扱人會計屬檢印

第八條 宗務支所ハ毎宗費納期三月三十一日九月三十日ニ本細則第六條ノ宗費送納ニ洩レ

タル未納寺院ニ對シテ宗費ヲ納金スヘキ注意ヲ與ヘ毎四月三十日十月三十日ニ至リ尙ホ

未納ナル寺院ニ對シテハ督促令狀ヲ發シ其旨宗務所ニ申報スヘシ

第九條 宗務支所ハ毎納期日後ニ宗費納金ヲ受取リタルトキハ無遲怠本細則第六條ニ依リ

之ヲ宗務所ニ送納進達スヘシ

第十條 宗務支所ハ毎納期後二ヶ月ヲ經過シテ尙ホ宗費ヲ納金セサル寺院アルトキハ毎年

六月一日十二月一日ヨリ五日以内ニ左記各項ヲ宗務所ニ具申スヘシ

一 宗費納金注意乃至督促令狀ニ對スル該寺院ノ答申

一 前項以外ノ未納事故乃至其情狀

第十一條 宗規第九號宗費賦課徵集條例補則第十八條ハ大正元年度第二期宗費賦課徵集ヨ

リ特ニ之ヲ勵行ス

該條納期二ヶ月ハ毎年五月三十一日十一月三十日ヲ限リトス

補 則

第十二條 宗務支所ハ大正元年度第一期以前ノ宗費未納アルトキハ大正二年五月三十一日

迄ニ之ヲ整理スルコトヲ要ス

第十三條 宗務所ハ必要ト認ムル場合ニハ未納宗費アル宗務支所ニ所員ヲ派遣シ又ハ管理

ヲ召喚シテ調査示達シ之レカ整理完済ヲ期スヘシ

第十四條 宗務支所ハ大正元年度第一期以前ノ宗費未納ニシテ大正二年五月三十一日迄ニ

整理シ能ハサルモノアルトキハ本細則第十條ニ依リ具申スヘシ

第十五條 本細則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

●宗費納金ニ關スル件(大正三年九月一日宗費番外)

別紙秘第一號ヲ以テ宗費納金ニ關スル注意書ヲ稟命通牒相發候ニ付テハ貴部内寺院一般ニ

無洩御配付ノ上ヘ各寺院住職人ヨリ請書ヲ本月三十日迄ニ提出セシメ御進達有之度候

貴管理ハ自今以後層一層宗規教令規定ノ職責ヲ重ンセラレ別記秘第一號注意書ノ趣旨ヲ諒

セラレ貴部内寺院住職一般ニ懇示周知セシメラル、ハ勿論必ス宗費ヲ遲怠無之様ニ徵納相

成度候尤モ大正二年度教令第二號宗費徵集施行細則第九條ノ無遲怠ハ宗費受納後十日以内

ニ宗務所ニ送金進達スヘキモノト御了知相成度候若シ未納者アルトキハ同上細則第八條及第十條ノ手續ヲ盡サレ猶豫無之具申又ハ申報有之度候此段稟命及通牒候也
祕第壹號

大正三年九月一日日本派寺院住職宛

宗費ハ一派ノ生存上宗治教學機關ヲ運轉スルニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲メニ豫算ニ依リ賦課徵集スル處ニシテ之ヲ納金スルハ派内寺院ノ重要ナル義務ナリ而シテ之カ滯納ハ豫算施行ニ支障ヲ醸シ宗治ノ不振ヲ招キ教學ノ發展ヲ害スルハ勿論毎納期ニ完納スル寺院ニ對シテ滯納寺院ノ責務ヲ不問ニ看過スル能ハサル處ナリ今ヤ宗連ノ伸張教學ノ振興ニ伴ヒ宗費ヲ毎納期限内ニ完納ヲ要スルコト益切實ナルヲ以テ自今以後ハ毎納期ヲ經過スル滯納者ニ對シテハ情實ニ拘泥セス斷然宗規法令ノ命スル處ニ從ヒ嚴正ニ其勵行ヲ期ス庶幾ハ派内寺院宗費納金義務ノ重責ヲ自覺セラレ從來宗費滯納ノ積弊ヲ一洗シ誓テ毎期限内ニ必ス完納ノ美風善習ヲ養成シ以テ宗治教學機關ノ活動ニ資セラレンコトヲ

- 一 宗費ハ徵收令狀指定ノ期日ニ取集管理ニ必ス納金スヘシ
- 二 非常災害等ノ爲メニ宗費負擔ニ堪ヘサルカ又ハ納期ニ納金シ能ハサル不止得事故發生スルトキハ納期限内ニ其事實證據ヲ具シ宗規第九號第三章第十四條ニ依リ申請スヘシ若シ期日逼迫事實證據ヲ具シカタキトキハ其旨豫申スヘシ
- 三 大正元年度乃至大正二年度第二期宗費未納アル寺院ハ本月十二日迄ニ完納スヘシ若シ不得止事故アリテ能ハサルモノハ其事實ヲ具シテ申請スヘシ

四 大正元年度第一期以前ノ未納宗費ニシテ大正二年度教令第二號宗費徵集施行細則第十二條ニ依リ今尙未整理ノモノハ本月三十日限り必ス整理シテ其完済方法ヲ具申スヘシ

五 本月ハ既ニ大正三年度第一期宗費納期ニ入りタレハ假令前年度宗費未納アル寺院ト體トモ本月十二日以後ニ於テハ先ツ當該本納期ノ大正三年度第一期宗費臨時費ヲ納金完済スヘシ而シテ前年度未納宗費ハ其上ニ納金スヘキコト

六 本所ハ必要ト認ムルトキハ本所臺帳ニ依リ直接ニ未納寺院ニ對シ調査又ハ示達スルコトアルヘシ

七 宗費滯納ニ關スル督促乃至派出費用等ハ滯納寺院ノ負擔トス
右稟命及通牒候也

●大正二年教令第貳號宗費徵集施行細則制定發布相成候ニ付テハ該部内寺院ニ周知セシメラレ宗費徵集送納共ニ勵行ヲ期セラレ度候(大正二年三月一日宗牒番外)

大正元年度第二期宗費徵集令狀乃至領收證並ニ宗費納金目錄共ニ印別シテ送附ニ及ヒ候間該施行細則第三條乃至第六條ニ依リ該部内寺院ヨリ宗費ヲ徵集シ本月三十一日迄ニ當所ニ送納有之度候

一 該施行細則第八條乃至第十條及ヒ第十二第十四條ハ屹度勵行相成度候

- 一 該施行細則第十三條實施ニ付キ詮議ヲ要シ候間第十條大正元年度第一期以前未納宗費アル支所管理ヨリ本年三十一日迄ニ其未納事故乃至情狀ヲ當所ニ具申有之度候
- 一 宗費未納ニ關シ所員ヲ派遣スルトキハ其往復旅費及ヒ實費等ハ當該支所負擔タルヘシ尤モ未納寺院ニ負擔セシムル場合ニハ當該支所ヨリ其旨前以テ該未納寺院ニ督促ノ際豫告スルコトヲ要ス
- 一 該施行細則第十一條勵行ニ關シテハ宗費賦課徵收條例補則第十八條正當ノ事故ナクシテ納期後二ヶ月ヲ過キ寺院賦課金ヲ納附セサルモノハ怠納者トシテ情狀ニ依リ之ヲ處分ストアル全文ヲ特ニ該部内寺院ニ周知セシメ置カレ度候
- 一 宗費未納寺院ニ對シテ諸願伺等容易ニ御詮議不相成又タ學資補給御停止可相成事有之候尤モ該部内何レノ寺院納否不明ノ場合ニハ當該支所一般ニモ關スヘク候間前以テ該部内寺院ニ周知セシメラルヘキハ勿論部内宗費納否寺院明細ニ申報相成度候
- 一 從來宗費領收ニハ會計課印ヲ用井居候處自今該會計課印ハ割印ニ用井左ノ會計課長印ヲ押捺シテ領收ヲ證シ候事

智山派宗務所會計課長之印

右ニテ項稟命及通牒候也

宗費免除願

寺末

縣府縣府

支所下

市郡 町大字

等地

院寺

免除期間

自大正 年度第 期
至大正 年度第 期

宗費(又ハ臨時費)

事實及理由 大正何年何月何日水害(其他災害等)ヲ蒙リ年小作米(麥豆等事實記入ノコト)何石何斗ノ處實收米何石何斗ノ減收(又ハ皆無)(麥、豆、小作金寫事實ヲ記入スヘキコト)右宗費御免除被成下度此段村長災害(水害)證明書相添檀徒總代人連署上願候也

大正 年 月 日

右寺住職

級

氏

名印

右寺檀徒總代

氏

名印

氏

名印

氏

名印

右本寺

級

氏

名印

新義真言宗智山派管長大僧正氏名殿

宗規及規則

前書調査候處事實相違無之ニ付與書進達候也

大正 年 月 日

縣府

支所管理

級 氏

名印

備考

村長ノ災害(水害)證明書ノ外事實及理由ヲ明了ニスベキ參考書類添付ノコト

●宗規第十號 僧侶分限條例

(明治三十八年十月二十八日內務大臣認可同年十一月二十三日甲第一號發布明治四十三年六月十三日修正發布大正三年六月八日修正發布大正七年二月八日同年八月二十四日修正發布)

第一條 本條例ハ宗憲第八章第四十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本派僧侶ハ本條例ノ規定ニ從ヒ教師ニ補セララル、コトヲ得

第三條 本派僧侶ノ教師稱號ヲ左ノ十五級ニ分ツ

級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級
稱號	大僧	權大僧	中僧	權中僧	少僧	權少僧	大僧	權大僧	中僧	權中僧	少僧	權少僧	律師	權律師	教師
	正	僧正	正	僧正	正	僧正	都	僧都	都	僧都	都	僧都	都	律師	師
															試補

第四條 管長ハ大僧正トス

但シ大僧正ニ非サルモノ管長ニ當選シタルトキハ其就職ト同時ニ大僧正ニ補セラレタルモノトス

第五條 本派私立大學智山勸學院每學年修了若クハ卒業者ハ左ノ區分ニ從ヒ教師ニ補ス

但シ智山勸學院卒業後六ヶ月以內ニ論文ヲ提出シ合格セル者ハ本科ハ權中僧都ニ別科ハ權少僧補ニ都スルコトヲ得(大正七年二月八日教令第二號ヲ以テ本但書ヲ加フ)

豫科	教師試補若クハ權律師	一年	二年	三年	年
本科	律師	權少僧	都少僧	都少僧	都
選科	教師試補、權律師、律師	權少僧	都少僧	都少僧	都
別科	試補	權律師	律師	律師	師

第六條 本派私立大學智山勸學院每學年修了若クハ卒業者ト同等ノ學力ヲ有スル者ハ檢定

試験ヲ行ヒ前條ノ區分ニ準シ相當ノ教師ニ補スルコトヲ得(大正三年六月條修)

第七條 年齡滿二十歲以上ニシテ得度後滿五ヶ年以上ヲ經左項ノ一ニ該當スルモノハ前二條ノ規定ニ關ラス教師試補ニ補スルコトヲ得

但シ年齡滿四十歲以上ノ者ハ管長ニ於テ本條ノ年効ヲ短縮スル事ヲ得
一 志操堅固ニシテ護法篤實ノ者

一 寺門興隆上贊助ノ功勞アル者

第八條 試補以上ノ者ニシテ德行衆ニ超ヘ愛宗護法ノ道念篤ク其功勞著シキモノハ第五條第六條ノ規定ニ關ラス中僧都以下ハ原級ニアルコト二ケ年以上權大僧都以上ハ原級ニアルコト三ケ年以上權少僧正以上ハ原級ニアルコト四ケ年以上ヲ經タルトキハ教師ヲ昇補スルコトヲ得

但シ特ニ功勞アルモノニハ管長ノ特旨ニ依リ本條ノ年効ヲ短縮スルコトヲ得

第九條 第七條ニ依リ試補ニ補セラレタルモノハ前條ニ依リ少僧都以上ノ教師ニ昇補スルコトヲ得ス(大正七年二月八日教令第二號ヲ以テ補ノ一字ヲ削レ)

但シ第五條第六條ノ規定ニ依リ試補以上ノ教師ニ昇補セルモノ及賞罰條例第二章第二條ニ依ルモノハ此ノ限りニ非ス

第十條 練行勤修ノモノニ非レハ權中僧都以上ノ教師ニ昇補セラル、コトヲ得ス

第十一條 堅義勤修ノモノニ非サレハ權大僧都ニ傳法灌頂開壇以上ノモノニ非レハ大僧都ニ昇補スルコトヲ得ス

第十二條 菩提院結衆ノ者ニ非サレハ權少僧正以上ニ昇補スルコトヲ得ス

第十三條 懲誠處分中ノモノ刑事被告人トナリ未決中ノモノ及公權停止以上ノ刑ヲ受ケタルモノハ教師ニ補任セララルコトヲ得ス

但シ赦免無罪復權シタルトキハ此ノ限りニ非ス

第十四條 懲誠處分ニ依ルノ外教師ヲ免ジ若クハ降級スルハ本人ノ意志ニ依ル

第十五條 權大僧都及大僧都ニ昇補スル時ハ教師詮衡會ノ決議ヲ經テ之ヲ行フ

但シ贈補ハ之ノ限りニ非ラス

補 則

第十六條 本條例中檢定試験トアル管長ノ定ムル規則ニ依リ之ヲ行フ

但シ檢定試験ノ科目程度ハ相當學校ノ科目程度ト同等ノモノトス

第十七條 本條例規定ヲ除ク外教師進退等ニ關スル施行細則ハ管長別ニ之ヲ定ム

●僧侶分限條例本派教師補任施行細則(大正五年二月一日教令第四號大正七年二月教令第三號修正大正八年八月教令第三號修正)

第一條 本細則ハ宗規第十號僧侶分限條例第十七條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 同條例第五條本派私立大學智山勸學院學年修了者乃至卒業ノ教師補任ハ同學院長ヨリ之ヲ具狀スヘシ

第三條 同條例第六條教師檢定合格者ノ教師補任ハ教師檢定委員長ヨリ之ヲ具狀スヘシ

第四條 同條例第七條ノ教師試補及ヒ同條例第八條ノ教師昇補中僧都以下一級ハ宗務支所管理ヨリ之ヲ具狀スヘシ

第五條 教師昇補二級以上ノ超越及ヒ權大僧都以上ハ總本山ヨリ之ヲ具狀スヘシ
但シ權大僧都及大僧都ニ昇補スルニハ教師詮衡會ノ決議ヲ經テ具狀スルモノトス

第六條 教師補任ニ際シ必要ト認ムルトキハ本人ノ素行若クハ功績調査ヲ宗務支所管理ニ命スルコトアルヘシ

第七條 宗規第十二號賞罰條例第二條各項ニ該當スル事實功績特ニ顯著ナルモノニ限り管長特旨ヲ以テ直チニ教師昇補スルコトアルヘシ

第八條 宗費未納アルモノハ教師昇補セラル、コトヲ得ス

第九條 宗務支所管理ハ該部内教師僧侶中ニ本條例第十三條ニ該當スルモノアルトキハ直ニ具申スヘシ

第十條 教師補任辭令ハ具狀者ヲ經テ本人ニ傳達セシメ請書ヲ提出セシムヘシ

第十一條 教師ニ補任セラレタルモノハ該所轄宗務支所ニ届出ツヘシ

第十二條 權律師以上ノ教師昇補具狀ニ際シ其昇補セラル、教師等級相當色衣被着允可ナキモノハ其允可願ヲ添附スヘシ

第十三條 教師補任具狀ニハ左表ニ依リ本人ノ履修セル履歷書ヲ添附スルコトヲ要ス

教師試補ハ 僧籍、族籍、現住所、入寺、得度々牒、改名、新加、加行、交衆、授戒、灌頂、修學、賞罰、其履修セル項目事實アラハ詳入スヘシ

履歷書

(僧籍)

何々宗務支所下 何市郡何町村何等地何寺住職又ハ級氏名法資

級 氏 名

現何年何ケ月

- 一 族籍 現戸籍ニ依リ本籍戸主、族、職業何某何男若クハ兄弟叔甥
- 一 出生 年月日何處ニ於テ年月日何處ニ於テ族籍職業何某何男
- 一 現住所 現在ノ住所ヲ記スヘシ
- 一 入寺 年月日何處何寺住職級氏名ノ室ヘ
- 一 得度 年月日何道場ニ於テ戒師級氏名ニ隨ヒ得度
- 一 度牒 年月日本派管長大僧正何々殿ヨリ度牒何受
- 一 改名 年月日何々ヨリ許可年月日僧籍登録濟
- 一 新加 年月日何々談林所ヨリ許狀ヲ受ク年月日起首年月日成滿
- 一 加行 年月日何道場ニ於テ何流阿闍梨級氏名ニ從ヒ勤濟何々道場ニ於テ何流阿闍梨級氏名ニ從ヒ勤濟
- 一 交衆 年月日許狀拜受
- 一 受戒 年月日何道場ニ於テ戒師級氏名ニ隨ヒ何々受戒
- 一 灌頂 年月日何道場ニ於テ何流大阿闍梨級氏名ヨリ受法

一 修學 年月日何々小學校卒業
年月日何々中學校卒業
本派私立大學智山勸學院

年月日何科何學年修了又ハ卒業

此他ノ學歷アラハ詳記スヘシ

一事 相 年月日何道場ニ於テ級氏名ニ隨ヒ何流何傳授

又ハ打集 年月日何々談林所ヨリ許狀ヲ受ケ
年月日智山勸學院ニ於テ勤濟

色衣 年月日何色衣被着允可セラル

教師 年月日何教師拜命

住職 年月日何處何寺住職任命セラレ又ハ依願免職セラレ
兼務住職寺ヲ列記スルコト

一 托鉢 年月日何號免許狀拜受

一 練行 年月日許證拜受
年月日成滿何道場ニ勤濟

一 兩大會 年月日總本山ニ於テ精義又ハ堅者勤濟許證拜受
年月日總本山又ハ何道場ニ於テ何流傳法開壇許證拜受

一 役務又ハ議員 何々役務年月日拜命年月日任滿
年月日何議員當選年月日任滿

一 布教師 年月日何等布教師拜命

一 菩提院結衆 年月日補命

一 又ハ集議

一 教化 年月日何々巡教又ハ檀信徒其他布教講演又ハ教會講社ノ組織等布教事實列記スヘシ

一 寺門興隆 年月日何々改築又ハ基本積金若干其他ヲ詳記スヘシ

一 法資教育 法資氏名年月日貰受及其教育程度ヲ記スヘシ
又ハ法資ノ教師等級住職寺等ヲ記スヘシ

一 賞罰

此他ニ公益事業等ヲ爲セル事實行爲アラハ各項目ヲ舉ケ詳記スヘシ

右之通相違無之候也

年月日 右本人 級 氏 名印

備考 未住職者ハ師僧連署ヲ要ス

第十四條 教師補任具狀ノ様式ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

第一號(本則第二條ニ依ルモノ)教師補任具狀

(學籍) 本學院何科何學年生又ハ卒業生

年月日本學院何科何學年修了又ハ卒業 級 氏 名

生年月

右ハ宗規第十號第七條ニ依リ相當教師ニ御補任相成度本人履歷書相添此段具狀候也

年月日 本派私立大學智山勸學院長 級 氏 名印

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

備考 現ニ學院ニアラサルモノハ學籍ノ處へ僧籍ヲ記入シ頭書ニ何年月日休退學

事故記入スヘシ尤モ必要ト認ムルトキハ退休學以後ノ本人素行調書ヲ宗務支所

宗規及規則

管理ヨリ徴スルコトアルヘシ

第二號(本則第三條ニ依ルモノ)教師補任具狀

(僧籍)

何支所部内

何市郡何町村何寺住職又ハ級氏名法資

年月日於何處
何科何學年教師檢定合格

級 氏 名

生年月

右者宗規第十號第八條ニ依リ相當教師ニ御補任相成度本人履歷書添附此段具狀候也

年月日

本派教師檢定委員長

級 氏 名

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

備考

必要ト認ムルトキハ宗務支所管理ヨリ本人素行調査ヲ徴スルコトアルヘシ

第三號(本則第四條ニ依ルモノ)教師試補具狀

(僧籍)

同上

氏 名

生年月

一年 効 生年滿二十歲以上得度後滿五ヶ年以上

又ハ得度後何ヶ年何ヶ月ニシテ未タ五ヶ年ニ達セサレトモ生年滿四十歲以上

一行 位 相當履修濟

一 志操堅固護法篤實者 何々ノ事實行爲ニ依リ之ヲ認ム

又ハ

一 寺門興隆上贊助功勞者 何々ノ事實功績ニ依リ之ヲ認ム

右者宗規第十號第七條第一項又ハ第二項ニ該當候條教師試補御申付相成度本人履歷書相添へ此段具狀候也

年月日

何宗務支所管理

級 氏 名

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

備考

第二項ニ該當スルモノハ必要ニヨリ本人素行調査ヲ管理ヨリ徴スルコトアルヘシ

第四號(本則第四條ニ依ルモノ)教師昇補具狀

(僧籍)

同上

教師被昇補等級へ

級 氏 名

生年月

一年 効 現級拜命以後何ヶ年

一行 位 相當履修濟

一 素行 道念堅固護法篤實等何々ト平素行爲ヲ列記スルコト

宗規及規則

一 功績 興學布教若クハ寺門興隆、宗務盡力等何々ト功績事實ヲ列記スルコト也
右者宗規第十號第八條ニ依リ前顯首票ノ教師ニ御昇補相成度本人履歷書相添此段具狀候也

年月目

何宗務支所管理

級

氏

名印

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

備考 總本山ヨリ具狀スルトキハ之ニ準知スヘシ

以上

●得度々牒及改名規則(大正四年八月 教令第五號)

第一條 本派宗憲第八章第四十三條ニヨリ得度ヲ了ヘ度牒ヲ受ケタルモノハ本派僧侶トシテ僧名ヲ公稱セシムル爲ニ此規則ヲ定ム

第二條 本派規定ノ得度戒師ハ左項ニ該當スルモノタルヘシ

- 一 談林住職以上ノモノ
- 一 權大僧都以上ノモノ

第三條 度牒ハ得度ノ證牒ナレハ得度式ヲ終ヘタル即日別記書式ニ依リ度牒授與願書ヲ作リ規定禮祿ヲ添ヘ之ヲ提出スヘシ但シ得度式日ヨリ貳拾日以内ニ宗務所ニ者スルコトヲ要ス

第四條 前條度牒授與願書ト同時ニ別記書式ニ依リ俗名ヲ僧名ニ改名願副申下附ヲ願出ヘシ

第五條 改名許可ヲ得タルトキハ必ス十日以内ニ其許可書ノ謄本ヲ添ヘ改名ノ手續ヲ了シ直ニ改名シタル戶籍謄本又ハ抄本ヲ得テ之ヲ添附シ別記書式ニ依リ僧籍記入ヲ申請スヘシ但シ改名許可ヲ得タル日ヨリ參拾日以内ニ宗務所ニ着スルコトヲ要ス

第六條 本規則第三條期間内ニ度牒授與ヲ出願セサル者ハ宗規ニ規定セル得度日ハ度牒授與ノ日ヨリ起算ス

第七條 度牒及改名ニ關スル書式左ノ通り定ム

度牒授與願

何府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村何々寺住職級氏名法資

僧名

氏

名

- 一 出生 何年何月何日 何府縣何市郡何町村何番地戶主、族籍、職、氏名、何男
- 一 現籍 同上又ハ何年何月何日 何府縣何市郡何町村何番地戶主、族籍、氏名、養子送籍
- 一 入寺 何年何月何日何々寺住職級氏名ノ室ヘ
- 一 修學 小學校其他ノ學歷ヲ詳記スヘシ
- 一 閱歷 幼少ニシテ閱歷ナキモノハ無之ト記スヘシ 年長者ニシテ職業其他ノ閱歷アルモノハ明記スヘシ

一 得 度
一 僧 名

何年月何日何府縣何市郡何町村寺格何々寺道場ニ於テ戒師級氏名ニ隨テ

右之通り相違無之候條度牒御授與被成下度別紙本人誓約證相添此段奉願候也

年 月 日

右師僧

級

氏

名印

右戒師

級

氏

名印

新義真言宗智山派管長

大僧正

殿

前書相違無之候ニ付與印進達候也

大正何年月日

何宗務支所管理

級

氏

名印

誓約證

三錢印紙

僧 名

何府縣何宗務支所管内

何府何市郡何町何々寺住職級氏名法資

何府何市郡何町何番地戸主族籍氏名何男

氏

名

右私儀度牒拜受仕候上ハ誓ツテ佛祖ノ遺訓ヲ守リ本派ノ憲規教命ニ遵ヒ行位修學ヲ實踐

スルハ勿論本派ノ教義宣揚ノ任ニ終身從事仕候萬一怠罷若クハ不都合ノ行爲有之候トキハ連署者ニ於テ其責ニ任スヘク候依テ保證人連署誓約仕候也

年 月 日

右本人

氏

名印

右保證人師僧

級

氏

名印

新義真言宗智山派管長

大僧正

殿

改名副申願

何府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村何々寺住職級氏名法資

氏

名

僧 名

右者別紙ノ通り改名出願仕候間御副申被成下度此段奉願候也

右本人

氏

名印

右師僧

級

氏

名印

大正年月日

新義真言宗智山派管長

大僧正 殿

改名願

何府縣何市郡何町村何番地戸主、族、職氏名何男

氏 名

何年月日生

僧 名(僧名朱書ノ事)

右者何府縣何市郡何町村何寺住職級氏名ノ法資トナリ得度致シ度牒ヲ受ケ新義真言宗智山派僧侶ト相成候條本派宗憲第八章第四十三條ニ依リ前顯朱書ノ通り僧名公稱ノ必要有之候ニ付改名御許可被成下度戸籍謄本及本派管長副申相添へ此段連署相願候也

右本人(未成年者タルトキハ其旨ヲ記シ親權者記名調印ノコト)

氏 名印

右戸主

氏 名印

右師僧何々寺住職

級 氏 名印

何府縣知事氏名殿

(備考) 府縣ニ依リ郡市長ニ委托セラレアルヘシ

僧籍記入申請書

何府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村何々寺住職級氏名法資

氏 名

何年何月何日度牒拜受

右私儀改名手續ヲ了シ僧名公稱仕候間本派僧籍ニ御記入被成下度此段戸籍謄本相添へ申請仕候也

右本人

氏 名印

大正年月日

右師僧何々寺住職

級 氏 名印

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

前書相違無之候ニ付與書進達仕候也

大正年月日

何宗務支所管理

級 氏 名印

●本派交衆規則(大正五年二月一日教令第七號)

第一條 本派僧侶ニシテ得度、新加、加行ノ行位ヲ履修セサレハ交衆允可ヲ願出ルコトヲ得ス

第二條 交衆允可願ハ左ノ様式ニ依ルヘシ
交衆允可願

何府縣何宗務支所下
何府縣何市郡何町村何々寺住職級氏名法資

氏名

- 一 得度 年月日度牒拜受
- 一 改名 年月日改名許可年月日僧籍登錄濟
- 一 新加 年月日何々談林所ヨリ許狀ヲ受ク
年月日起首年月日成滿
何道場ニ於テ何流阿闍梨級氏名ニ隨ヒ勤濟
- 一 加行 何々
- 一 修學 何々
- 一 賞罰 何々

此他履修セル項目アラハ記入スヘシ

右者本派交衆御允可被成下度此段願上候也

年月日

右本人

氏名印

右師僧

級氏名印

新義真言宗智山派管長級氏名殿

宗務支所奥印ヲ要ス

備考 教師試補具狀ト同時ニ交衆願出ルトキハ本願者中得度乃至賞罰ノ履歷項目ヲ省略スルコトヲ得

第三條 本派私立大學智山勸學院豫科又ハ別科ニ入學スルモノハ前條交衆允可願書ヲ入學願書ト同時ニ同學院ニ提出スヘシ
同學院長ハ左ノ様式ニ依リ副申ヲ爲シ宗務所ニ該願書ヲ進達スヘシ

副申

別紙氏名交衆允可願之儀本人ハ本學院豫科又ハ別科一學年ニ入學合格者ト相認候條此段副申候也

年月日 本派私立大學智山勸學院長 級 氏 名印

新義真言宗智山派管長級氏名殿

以上

●本派練行規則

第一條 練行勤修ノ者ハ練行開白十五日以前ニ別記第一書式ニ依リ願書ヲ宗務所ニ差出シ認可ヲ請フヘシ

第二條 練行ハ總本山内開山堂ニ於テ勤修スルモノトス

但本人ノ願ニ依リ根來山又ハ其他ノ靈刹ニ於テ勤修ヲ許可スルコトアルヘシ

第三條 練行ノ日數ハ三十五日間ヨリ少ナキヲ許サス

所修ノ行法ハ不動法求聞持又ハ八千枚其他各自所信ノ法ニ依リ修行スルモノトス

第四條 練行勤修結願ノ上ハ別記書式ニ依リ其旨宗務所ニ届出ツヘシ

第五條 練行結願届出ノ際ハ宗規第九號第九條規定ノ禮祿金ヲ添付スヘシ

但本派私立大學智山勸學院本科第二學年修了ノ者ニシテ權少僧都ニ補命セラレタル者

ノ禮祿金ハ五拾錢トス

第六條 宗務所ハ結願届書ヲ受理シタルトキハ練行證ヲ下附ス

第七條 練行勤修ニ關スル費用ハ各自ノ自辨トス

第八條 練行者ノ監督ハ總本山又ハ根來山ニ於テ勤修ノ者ハ各其本山執事ヲ以テ之レニ充

テ其他ノ靈刹ニ於テ勤修ノ者ハ談林住職又ハ宗務支所職員ヲ以テ之レニ充ツ

第一書式

練行勤修願

何府縣何宗務支所管内

何府縣郡市町村何寺住職(又ハ法資)

教師 氏 名

私儀報恩謝德之爲總本山開山堂(根嶺又ハ其他何々靈刹)ニ於テ來ル何月何日ヨリ起首不動法(又ハ何々)ニ依リ何百日間練行勤修仕度候條御認可被成下度此段上願仕候也

右本人 名印

年月日

教師 氏

何府縣郡市町村何寺住職

保證人 教師 氏 名印

新義真言宗智山派管長

大僧正 殿

宗務支所管理奥書進達スヘシ

第二書式

練行結願届

私儀去ル何月何日ヨリ開白練行勤修罷在候處何月何日結願仕候條禮祿金相添ヘ此段及御届候也

何府縣郡市町村何寺住職(又ハ法資)

教師 氏 名印

監督教師 氏 名印

年月日

宗規及規則

新義眞言宗智山派管長

大僧正、大僧正殿

●教師詮衡會規則(大正七年八月二十四日教令第十號發布)

第一條 教師詮衡會ハ宗規第十號僧侶分限條例第十五條ニ依リ之ヲ設ク

第二條 教師詮衡會ハ毎年一回宗務所ニ於テ之ヲ開キ委員ノ召集ハ七日以前ニ宗務所ヨリ通告スルモトス

但シ至急ヲ要スル場合ニハ文書ヲ以テ委員ノ意見ヲ徵シ多數ノ協賛ヲ得テ之ヲ決スルコトヲ得

第三條 教師詮衡會委員ハ宗務長課長及小會常置委員ヲ以テ之ニ充ツ

教師詮衡會議長ハ宗務長之ニ當ル宗務長事故アルトキハ委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 教師詮衡會ノ議案ハ宗務所之ヲ提出ス

第五條 教師詮衡會ニテ原案以外ノ教師ヲ詮衡スルトキハ宗務所ノ同意ヲ經ルモノトス

第六條 教師詮衡會ハ委員總數ノ四分ノ三以上ノ出席ニ依リ開會シ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ定ムル所ニ依ル

第七條 教師詮衡會委員ハ自己又ハ自己ノ身附法類者又ハ親族者ノ詮衡ニ關シテハ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第八條 各支所管理又ハ三等以上ノ布教師ハ本派教師ニシテ教學堪能又ハ傳道事業ニ付殊

ニ功績アリト認メタルトキハ其事實ヲ詳記シ宗務所ヘ具申スルコトヲ得

但シ布教師ヨリ教師具狀ノ場合ハ其ノ部下管理ノ意見ヲ添附スヘシ尤モ布教師ヨリ具狀スルハ權大僧都以上ノ教師ニ限ルモノトス

第九條 教師詮衡會ニ於テ決定セシモノハ直チニ管長ニ具申シ補命ヲ乞フモノトス

第十條 宗會解散ニ依リ常置委員缺員ノ場合ハ宗會成立ノ上常置委員互選ニ至ル迄管長ニ於テ議員ノ被選舉權ヲ有スル者ヨリ臨時補充員ヲ特選スルモノトス

附 則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●新義眞言宗智山派教師檢定規則(大正三年六月八日 文部大臣認可同日發布)

第一條 本則ハ宗規第十號僧侶分限條例第六條第十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 教師檢定試験ヲ本派私立大學智山勸學院豫科本科別科各學年ノ學科程度ニ依リ同學院ニ於テ現ニ教授セル科目ニ就キ之ヲ執行ス

前項教授科目ハ每學年ノ始メニ之ヲ告示ス

第三條 教師檢定試験ノ成績評點ハ各科ノ滿點ヲ百點トシ一科五十點以上各科平均六十點以上ヲ得タルモノヲ合格者トシ全科若クハ一科ノ成績九十點以上ヲ得タルモノヲ其

科ノ成績優等者トス

第四條 教師檢定委員ハ本則ニ依リ前條評點ヲ採リ之ヲ教師檢定委員長ニ呈出ス

教師檢定委員長ハ其成績ヲ考查シ合格者ニハ教師檢定證ヲ授與シ一科若クハ全科ノ成績優等者ニハ其證ヲ交付スヘシ

教師檢定試驗ノ顛末ハ委員長ヨリ宗務所ニ具申スヘシ

第五條 管長ハ教師檢定試驗ニ於テ問題漏洩資格詐稱其他不正ノ行爲アリト認メタルトキハ其檢定試驗ノ全部又ハ一部ヲ無効トシ尙情狀ニ依リ之ヲ懲戒ニ處スルコトアルヘシ
前項無効ニ歸シタルトキハ檢定證ヲ授與スルヲ得ス既ニ之ヲ授與シタル後ニ於テハ其檢定證ヲ無効トシ之ヲ返附セシム成績優等證亦同シ

第六條 教師檢定試驗志願者ハ左項ノ資格ヲ具フル事ヲ要ス

- 一 本派僧侶ニシテ交衆以上ノモノ
- 但シ同時ニ二級以上ノ志願ヲナシ得ルモ下級不合格ノトキハ上級試験ニ應スルコトヲ得ス

二 品行方正身體健全ニシテ本派教師タルニ適當ノ者

第七條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ教師檢定試驗ヲ出願スルコトヲ得ス

- 一 懲戒處分ヲ受ケ爾後滿一ケ年ヲ經過セサル者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四 本派私立大學智山勸學院ニ於テ懲罰ニ依リ退學又ハ除名ノ處分ヲ受ケ免除セラレサル者

第八條 教師檢定志願者ニシテ本派私立大學智山勸學院同等以上ノ他ノ學校ヲ修業若クハ卒業セルモノニ對シテ教師檢定委員長ハ檢定委員ノ意見ヲ參酌シ既ニ履修セル學科目ノ試験ヲ免除スルコトヲ得其學校ノ修業若クハ卒業セサルモノニシテ本派教師ニ就テ本派私立大學智山勸學院學科程度相當以上ノ宗乘餘乘ヲ學修シタル者ニ對シテハ宗乘餘乘ニ限リ又同シ

第九條 教師檢定試驗志願者ハ本派私立大學智山勸學院豫科本科別科各學年相當ヲ指定シテ別記書式ニ依リ宗務所ニ出願スヘシ

但シ學業履歷ハ修了若クハ卒業證ヲ添附スヘシ宗務所ハ前項書類ヲ受理シ教師檢定委員長ニ交附スヘシ

第十條 教師檢定試驗ハ毎年四月及九月ノ兩度ヲ定期トシ管長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ臨時之ヲ執行スルコトアルヘシ

教師檢定試驗ハ本派私立大學智山勸學院又ハ宗務所ニ於テ之ヲ執行スヘシ
宗務所ハ前二項ノ時日場所ハ其都度告示スヘシ

第十一條 管長ハ教師檢定試驗執行ノ都度宗務所職員本派私立大學智山勸學院教職員中ニ

就キ教師檢定委員長一名同委員若干名ヲ任命ス
管長ハ必要ト認ムル場合ニハ宗務所職員本派私立大學智山勸學院教職員以外ノモノヲ委
員ニ任命スルコトアルヘシ

第十二條 教師檢定試驗志願者ハ出願ト共ニ每級手数料一圓ツ、ヲ納附スヘシ
但シ試驗願書ヲ受理シタル後ハ如何ナル場合ト雖モ既納ノ手数料ハ之ヲ還附セス
書式第一號

教師檢定試驗願

京都智山大學又ハ宗務所

、、、、、支所下

受験地

級 氏 名
住職又ハ法資

年 月 日 生

私儀本派私立大學智山勸學院何科何學年級相當ノ教師檢定試驗ニ應シ度候條御許可被成
下度別紙履歷書並終了證(又ハ卒業證、證明書)相添ヘ此段願上候也

年 月 日

右師僧

但シ本人一寺住職以上ノ
トキハ師僧連署ニ及ハス

右 本

人 印

新義真言宗智山派宗務所

智山派宗務長 級 氏 名殿

書式第二號

履 歷 書

- 一 族籍氏名生年月日 (僧籍如例)
- 一 本僧籍
- 一 現住所
- 一 改名
- 一 度牒乃至履歷ノ行位
- 一 學 業
- 一 賞 罰

備考 位勳學位、宗派又ハ官衙ノ任免、布教興學寺門興隆等ノ經歷アルモノハ詳記
スヘシ

右相違無之候也

年 月 日

右 本

人 印

未住職者ハ師僧連署ノコト

書式第三號

證 明 書

宗規及規則

右者教師檢定規則第七條ノ各號ニ該當セサルモノナルコトヲ證明ス

何府縣支所管理
級 氏 名
級 氏 名印

年月日

書式第四號

教師檢定證

級 氏 名

教師檢定本派私立大學智山勸學院何科何學年級試驗ニ合格セシコトヲ證ス

年月日

教師檢定委員長 級 氏 名印

●論文審査規則(大正七年六月二十二日教令第八號發布)

第一條 本規則ハ本派宗規第十號僧侶分限條例第五條及第十七條ニ據リ之ヲ定ム

第二條 本派智山勸學院本科又ハ別科ヲ卒業セル者ハ卒業後六ヶ月以内ニ論文ヲ宗務所ニ提出スヘシ

但シ一旦提出シタル論文ハ之ヲ返附セス

第三條 論文提出者ハ毎年四月三十日迄ニ論題ヲ定メ別項書式ニ依リ審査委員長ノ承認ヲ受ケ置クヘシ

右承認ヲ受ケタル論題ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四條 論文提出者ハ論文提出ノ際手後料金壹圓ヲ納附スヘシ

但シ右手數料ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ返附セス

第五條 論文ハ宗余乘ニ關スルモノニ限リ其他ノ論文及他人ノ代作又ハ剽竊ト推定シ得ヘキ論文ハ審査委員會ノ決議ヲ經テ之ヲ無効トス

第六條 論文審査委員會ハ委員長一名委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス委員長ハ智山勸學院長之ニ任シ委員ハ本派教學課長及勸學院教授ヲ以テ之ニ充ツ

但シ委員長ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ委員以外ニ審査ヲ委託スルコトヲ得

第七條 論文審査委員長并同委員ハ本職在職中其任ニアルモノトス

第八條 論文審査ノ標準ハ智山勸學院本別科各卒業程度トシ各委員ニ於テ審査採點シ其平均七十點以上ヲ合格者トシ百點ヲ滿點トス

第九條 論文審査期間ヲ一ヶ月トシ審査終了シタルトキハ委員長ハ其結果ヲ宗務所ニ報告シ宗務長ハ本條例第七條ニ依リ該報告ヲ受ケタル後十五日以内ニ之ヲ管長ニ具狀スヘシ

第十條 本規則ニ依ル昇級者ニシテ三ヶ年以内ニ本規則第五條ニ牴觸スル旨發見シタルトキハ該昇補ハ之ヲ取消シ辭令ノ返附ヲ命スヘシ

第十一條 智山勸學院甲種聽講終了者ニハ本規則ヲ適用シ本科卒業生ト同等ノ取扱ヲナス

第十二條 論文審査委員長并同委員ニハ別ニ俸給ヲ支給セス

但シ委員及委託者ニハ相當ノ慰勞金ヲ支給スルコトヲ得
第十三條 論題承認願書ヲ左ノ通り相定ム

論題承認願

一、、、、、、、、、（宗餘乘ニ限ル）

宗規第十號僧侶分限條例第五條ニ據ル論文題名右ノ通り選定致シ候ニ付御承認相成度此
段奉願候也

大正年月日

何縣何支所下

何縣何郡何市何町村何寺住職（某甲法資）

年月日

勸學院本科卒業生

級氏

名印

（又ハ甲種聽講科終了者）

論文審査委員長

智山勸學院長 級氏 名殿

以上

附 則（大正八年七月三日）
（勸令第二號修正）

第一條 本派私立大學智山勸學院卒業者ニシテ卒業後兵役又ハ病氣ノタメ本則第二條ノ期
間中ニ論文ヲ提出シ得サル者ハ審査委員長ノ許可ヲ得テ更ニ翌年論文ヲ提出スルコトヲ

得

第二條 本則第二條ノ論文提出者ニシテ論文審査ニ不合格ノ者ハ更ニ其翌年度一回ヲ限リ

第三條ニ依リ論文ヲ提出スルコトヲ得

以上

●諸法令抜抄

○治安警察法（現行宗教法令九〇頁）

第五條 左ニ掲グル者ハ政治上ノ結社ニ加入スルコトヲ
得ズ
三、神官神職僧侶其他諸宗教師

○衆議院議員選舉法（同上二六五頁）

○貴族院伯子男爵議員選舉規則（抄）

（明治二十二年六月四日）
勸令第七十八號

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ
得ズ

○貴族院多額納稅者議員互選規則（抄）

（明治二十二年六月四日）
勸令第七十九號

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ

宗規及規則

得ズ

○衆議院議員選舉法（抄）

（明治三十三年三月二十八日）
法律第七十三號

第十三條 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教
員ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經
過セサル者亦同シ

○府縣制（抄）

（明治三十一年三月十五日）
法律第六十四號

第六條 左ニ掲グル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス
其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ
三 神官僧侶其ノ他諸宗教師

○郡制（抄）

（明治三十一年三月十五日）
法律第六十五號

第六條 左ニ掲グル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス其
ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ
四 神官僧侶其ノ他諸宗教師